

平成 25 年度 老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）

**高齢者の社会参加の実態とニーズを踏まえた
社会参加促進策の開発と
社会参加効果の実証に関する調査研究事業
報告書**

平成 26 年 3 月

東京大学高齢社会総合研究機構

目次

I. 調査研究の概要	1
II. 高齢者の社会参加の実態とニーズに関する調査結果(全国 WEB アンケート調査)	6
1. 回答者属性	6
2. 分析結果	7
(1) 就労と社会活動の実態	7
(2) 社会活動「不参加・意欲なし」の人の実態	10
(3) 普段の外出先(よく出かけるところ)	15
(4) 現在及び過去の参加団体・活動	17
(5) 今後参加したい団体・活動	18
(6) 社会活動に参加しない理由	19
(7) 諸団体・活動の認知度と役立ちに対する評価	20
(8) 今後参加したい「活動」の具体内容	22
III. 社会参加が高齢者本人の健康や生きがい等に与える効果検証事業(効果 WG)	24
IV. 考察・まとめ	25
資料1 高齢者の社会参加に関する事前検討資料(先行事例レビュー等)	27
資料2-1 【全国】アンケート調査票	37
資料2-2 【全国】アンケート調査結果(単純集計※抜粋)	51
資料3-1 【柏】アンケート調査票	69
資料3-2 【柏】アンケート調査結果(単純集計※抜粋)	75
資料4 「生きがい就労事業(柏市)」の概要・実績	84
資料5 高齢者の社会参加がもたらす効果検証結果(詳細)	93

I. 調査研究の概要

1. 研究事業の目標

本格的な高齢化が進む我が国において、安心して活力ある豊かな超高齢社会を築いていくには、高齢者の社会参加は極めて重要な意味を持つ。高齢者が年齢に関わらず社会に参加し活躍し続け、社会を支える担い手になることは時代の要請である。同時に、社会に参加し活躍し続けることは、高齢者本人の健康や生きがいにも寄与し、介護予防につながることも大いに期待される。特に都市近郊地域においては、2012年から団塊世代（1947-49年生まれ）が65歳に到達し始め、地域に新たな社会参加の場を求める高齢者が急増する見通しにあり、そうした高齢者の社会参加の問題は顕著となっている。

しかし、高齢者の社会参加を促す取り組みは、各地域で独自に行われ点在しており実態把握が困難な状況にある。また、現在提供される社会参加の取り組み（選択肢）が、高齢者のニーズに合致しているかの検証も見過ごされがちである。さらに、社会参加を促すにはその効果を実証することが有効であり納得的であるが、その科学的なエビデンスも僅少である。そこで本調査研究事業では、高齢者の社会参加の実態とニーズに関するきめ細かな把握をもとに、高齢者の社会参加を促す策を開発すること、また社会参加が高齢者本人の健康や生きがいにもたらす効果を明らかにすることを目的とする。

2. 研究事業の実施概要

2-1. 委員会・ワーキンググループの設置

東京大学高齢社会総合研究機構内において、当調査研究事業の委員会を組織するとともに2つのワーキンググループを形成した。

【委員会】

◎秋山 弘子	(東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授)
佐藤 祥彦	(〃 特任研究員)
堤 可奈子	(〃 特任研究員)
平江 良成	(〃 特任研究員)
室橋 弘人	(〃 特任研究員)
矢富 直美	(〃 特任研究員)
前田 展弘	(〃 客員研究員) ※(株)ニッセイ基礎研究所所属
木村 清一	(〃 学術支援専門職員)
秋道 和子	(〃 学術支援職員)
風間 弘美	(〃 学術支援職員)
中谷 明	(〃 学術支援職員)

(◎座長)

【モデルWG】高齢者の社会参加に関する実態とニーズに関する調査研究事業担当

秋山 弘子（東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授）
堤 可奈子（ ” ” 特任研究員）
室橋 弘人（ ” ” 特任研究員）
前田 展弘（ ” ” 客員研究員） ※(株)ニッセイ基礎研究所所属

【効果WG】社会参加が高齢者本人の健康や生きがい等に与える効果検証事業担当

秋山 弘子（東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授）
佐藤 祥彦（ ” ” 特任研究員）
平江 良成（ ” ” 特任研究員）
矢富 直美（ ” ” 特任研究員）
木村 清一（ ” ” 学術支援専門職員）
秋道 和子（ ” ” 学術支援職員）
風間 弘美（ ” ” 学術支援職員）
中谷 明（ ” ” 学術支援職員）

堤 可奈子（ ” ” 特任研究員）
室橋 弘人（ ” ” 特任研究員）
前田 展弘（ ” ” 客員研究員） ※(株)ニッセイ基礎研究所所属

2-2. 活動経過

(1) 全体事業運営

- ・ 第1回委員会の開催（平成25年6月3日）：事業内容の確認及び検討、WGの設置
- ・ 第2回委員会の開催（平成25年11月18日）：モデルWG、効果WGの進捗確認 他
- ・ 第3回委員会の開催（平成26年3月24日）：最終成果の確認及び検討 他

(2) WG活動

① モデルWG：高齢者の社会参加に関する実態とニーズに関する調査研究事業

- ・ 6～10月：先行研究のレビューと識者ヒアリング、また柏市の地域住民や自治体関係者等へのヒアリングを実施
- ・ 11～12月：定量調査の設計、調査票作成、調査準備を実施
- ・ 1～2月：定量調査①（柏市：1月）、定量調査②（全国：2月）を実施
- ・ 2～3月：定量調査の集計及び分析、及び振り返りと評価を実施

② 効果WG：社会参加が高齢者本人の健康や生きがい等に与える効果検証事業

- ・ 6～2月：「生きがい就労事業」（柏市）に参加の就労シニアに対する検査・調査を継続実施
- ・ 3月：検査・調査データを集計・分析、及び評価を実施（※過年度（2012年度）実施データを含む）

3. 高齢者の社会参加とニーズに関する調査研究事業(モデルWG)の概要

3-1. 全国調査(WEB アンケート調査)の概要

(1) 目的

高齢者が社会に参加し続けることは、本人の健康や生きがい等、地域社会における孤立予防や地域力の向上等、多面的な効果をもたらす。本事業では、次代の高齢者(50-60歳代)に焦点を当て、当該層の属性やタイプを特定した上で、それぞれの中高齢者がどのような社会参加の実態にあるか、また社会参加に関してニーズを有しているか、きめ細かな把握を行うことを目的とする。

(2) 調査概要

- ①調査主体：モデルWG（東京大学高齢社会総合研究機構/セカンドライフ就労研究チーム）
- ②調査対象：全国47都道府県在住の50～69歳・男女 5000名
※調査委託先の㈱クロス・マーケティング上記調査会社の保有するパネルから無作為抽出（総務省平成22年度国勢調査にもとづく人口構成比例（都道府県・男女）抽出）
- ③調査方法：インターネットによる自記式アンケート調査
- ④調査項目：基本属性、ライフスタイル、価値観、趣味・嗜好、将来に対する考え方、高齢期の仕事及び社会活動に関する考え方等

(調査設計)

- ・本調査では、上述のとおり、次代の高齢者に焦点を当てており、これから高齢期を迎え地域社会への積極的な参加が期待される中高齢者(50-60歳代)が、どのような参加実態にあり、またどのようなニーズを有しているかの把握が目的である。既存の高齢者コミュニティは参加及び利用者が固定化されている、また比較的若い高齢者のニーズに合致していないとの課題指摘は多く、この課題の解決策を見出すことに留意し調査票を設計した。
- ⑤調査実施期間：2014年2月25～26日

3-2. 千葉県柏市における調査（アンケート調査）の概要

(1) 目的

高齢者が社会に参加し続けることは、本人の健康や生きがい等、地域社会における孤立予防や地域力の向上等、多面的な効果をもたらす。本事業では、高齢者の属性やタイプを特定した上で、それぞれの高齢者がどのような社会参加の実態にあるか、また社会参加に関してニーズを有しているか、きめ細かな把握を行うことを目的とする。

(2) 調査概要

①調査主体：モデルWG（東京大学高齢社会総合研究機構/セカンドライフ就労研究チーム）

②調査対象：柏市在住の60歳代・男女（有意抽出※）、回収目標300名

※一般社団法人 セカンドライフ・ファクトリー（SLF）会員及び会員の知人。SLFは後述の柏市における「生きがい就労事業（2009年度～；東京大学他が実施）」に参加した高齢者が中心となって立ち上げた組織（2013年4月発足）、会員は約200名。

③調査方法：自記式アンケート調査※

※会員本人へ調査票を複数部数配布し、アンケートに回答いただくとともに（本人）、知人へのサンプリングを依頼。知人のアンケート結果は郵送で回収。

④調査項目：基本属性、ライフスタイル、価値観、趣味・嗜好、普段のコミュニケーション、社会参加の実態とニーズ

（調査設計）

・高齢者の社会参加の実態は点在・散在しており、高齢者のコミュニティの実態はモザイク（不透明）な状況にある。自治体が管轄し把握する情報も一部にすぎない。どのような高齢者がどのような社会参加の実態にあり、同時に課題とニーズを有しているかを明確にすべく調査票を設計した。

⑤調査実施期間：2014年1月20～24日

※上記SLF会員へ調査協力依頼状を郵送し、調査協力を同意した高齢者をアンケート実施会場（東京大学柏キャンパス内）に集め、アンケート調査を実施（1/20-24）。同時に、調査票を複数部数配布し、知人へのサンプリングと調査協力を依頼。会員経由で調査に協力いただいた知人の調査票は郵送にて回収する（～2月末）。

4. 社会参加が高齢者本人の健康や生きがい等に与える効果検証事業(効果 WG)の概要

(1) 目的

高齢者の社会参加（就労）がもたらす健康・生きがい等に与える効果を検証することを目的とする。

(2) 事業概要

①事業主体:効果 WG(東京大学高齢社会総合研究機構/セカンドライフ就労研究チーム)

②効果検証対象者:生きがい就労事業参加者※

※東京大学高齢社会総合研究機構では、2012年度来、柏市にて展開してきた「生きがい就労事業」を通じて社会参加した高齢者（就労への参加）

③効果検証項目と方法:次の6種類のデータ収集を半年おきに系時的に実施

A) 認知・運動機能検査(集団式):記憶力、注意力、バランス能力、歩行能力、上肢筋力

B) 認知・運動機能検査(個別式):記憶力、注意力、手先の器用さ

C) 医学的検査:血管機能、体組織、骨密度、認知機能、頭部MRI、骨格筋CT、DEXA 下肢筋力、自律神経機能、ストレス

D) アンケート調査:社会生活と健康に関する意識・行動(地域社会との関わり、主観的QOLなど)

E) 身体活動量計測:3軸加速度計により測定される運動頻度・運動強度

F) 社会的コミュニケーションに関する計測:笑顔の強度や頻度, 会話量

Ⅱ. 高齢者の社会参加の実態とニーズに関する調査結果(全国 WEB アンケート調査)

1. 回答者属性

- ・有効回答数は 5000 名
- ・男性 2431 名 (48.6%)、女性 2569 名 (51.4%)
- ・平均年齢 59.62 歳 (最小 50～最高 69 歳)
- ・以下、主な基本属性

(婚姻状況)

		回答数	%
1	配偶者がいる	3927	78.5
2	死別した	194	3.9
3	離別した	401	8.0
4	未婚である	478	9.6

(健康状態)

		回答数	%
1	よくない	107	2.1
2	あまりよくない	679	13.6
3	どちらともいえない	1196	23.9
4	まあよい	2512	50.2
5	とてもよい	506	10.1

(経済的状況：日々の暮らしおける経済的困窮度)

		回答数	%
1	困っている	280	5.6
2	少し困っている	715	14.3
3	どちらともいえない	1136	22.7
4	あまり困っていない	1814	36.3
5	困っていない	1055	21.1

2. 分析結果

(1) 就労と社会活動の実態

次代の高齢者であり、リタイア後の社会参加が期待される 50-60 代の人々が、現在どのような活動を行っているか、主な活動である「就労」と「社会活動」についてその状況を見た。

就労状況については、全体として約 5 割の人が現在も働いており（回答 3～5 の計、以下「仕事あり」のグループ）、約 4 割が働いていない（回答 1～2 の計、以下「仕事なし」のグループ）状況にあった。回答 6 として「いずれも該当しない」が 8%あるが、無償のボランティア活動に従事している人などが含まれると思われる。

図表1: 就労状況

Q10. これまでに収入を伴う仕事をしましたか。また、現在収入を伴う仕事をしていますか。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	これまで働いたことはない	134	2.7
2	以前は働いていたが、現在は働いていない	1956	39.1
3	定年退職を経験せず（または定年がなく）現在も働いている	1204	24.1
4	定年退職を経験して、現在は現役時代とは異なる仕事をしている	395	7.9
5	定年とは関係なく様々な仕事を経験し、現在も働いている	905	18.1
6	いずれも該当しない	406	8.1

社会的（地域）活動（以下、社会活動）への参加状況については、約 2 割が「参加」、約 3 割が「不参加だが将来的な参加意欲あり」、約 5 割が「不参加で今後の参加意欲もなし」という状況にあった。

図表2: 社会的（地域）活動の参加状況

Q38. 現在、何か参加している社会的（地域）活動がありますか。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	参加している（していた）活動がある	1079	21.6
2	参加している（していた）活動はないが、将来的には参加しようと思っている	1395	27.9
3	参加している活動はなく、今後も参加する意思はない	2526	50.5

この状況を重ねて見ていくと、本調査対象の 50-60 代・5000 名は次のような集団（グループ）に分けられることがわかった。

- a.仕事も社会活動もしている人：10.4%
- b.仕事があり社会活動は現在不参加だが、今後に参加意欲がある人：15.5%
- c.仕事があり社会活動は不参加で今後も参加意欲がない人：24.1%
- d.仕事はしていないが、社会活動に参加している人：9.6%
- e.仕事も社会活動もしていないが、今後は社会活動への参加意欲がある人：10.2%
- f.仕事も社会活動もしておらず、今後も社会活動への参加意欲がない人：22.0%
- g.その他が 8.1%

これらのグループが今日の 50-60 代の実態を表していると推察されるが、今日的な高齢期の社会参加の必要性（課題）の視点から見ると、すでに活動している人（a, d）は好ましい状況であり、今後の参加意欲がある人（b, e）は今後に期待を持てるが、今後も社会活動への意欲意欲がない人（c, f）は、社会的にやや心配される。特に、**f の仕事も社会活動もしておらず意欲もない人 (22.0%) は注目**される。

図表3:就労と社会活動への参加状況(合計)

		社会活動状況			合計
		参加	不参加		
			意欲あり	意欲なし	
50代	仕事あり	269 11.4%	453 19.2%	746 31.7%	1468 62.3%
	仕事なし	109 4.6%	173 7.3%	367 15.6%	649 27.5%
	その他	37 1.6%	68 2.9%	135 5.7%	240 10.2%
	合計	415 17.6%	694 29.4%	1248 52.9%	2357 100.0%
60代	仕事あり	253 9.6%	324 12.3%	459 17.4%	1036 39.2%
	仕事なし	373 14.1%	337 12.8%	731 27.7%	1441 54.5%
	その他	38 1.4%	40 1.5%	88 3.3%	166 6.3%
	合計	664 25.1%	701 26.5%	1278 48.4%	2643 100.0%
合計	仕事あり	522 10.4%	777 15.5%	1205 24.1%	2504 50.1%
	仕事なし	482 9.6%	510 10.2%	1098 22.0%	2090 41.8%
	その他	75 1.5%	108 2.2%	223 4.5%	406 8.1%
	合計	1079 21.6%	1395 27.9%	2526 50.5%	5000 100.0%

この「f」のグループについて男女に分けてみると、男性が13.5%であるのに対し、女性は30%を占める。一般的に女性のほうが地域との関係（つながり）は強く、様々な地域活動を展開しているイメージがあるが、**女性のほうが「不参加で意欲なし」の割合が高い結果**であった。この理由について、定量的には測れないものの、組織で活動するよりも友人らとのインフォーマルな交流を楽しみたい人、家事や介護でそれどころではない人が多い等が考えられた。

図表4: 就労と社会活動への参加状況(男女別)

(男性)

		社会活動状況			合計
		参加	不参加		
			意欲あり	意欲なし	
50代	仕事あり	164 14.2%	274 23.7%	457 39.5%	895 77.4%
	仕事なし	9 .8%	26 2.2%	72 6.2%	107 9.2%
	その他	25 2.2%	46 4.0%	84 7.3%	155 13.4%
	合計	198 17.1%	346 29.9%	613 53.0%	1157 100.0%
60代	仕事あり	170 13.3%	224 17.6%	285 22.4%	679 53.3%
	仕事なし	146 11.5%	109 8.6%	255 20.0%	510 40.0%
	その他	17 1.3%	20 1.6%	48 3.8%	85 6.7%
	合計	333 26.1%	353 27.7%	588 46.2%	1274 100.0%
合計	仕事あり	334 13.7%	498 20.5%	742 30.5%	1574 64.7%
	仕事なし	155 6.4%	135 5.6%	327 13.5%	617 25.4%
	その他	42 1.7%	66 2.7%	132 5.4%	240 9.9%
	合計	531 21.8%	699 28.8%	1201 49.4%	2431 100.0%

(女性)

		社会活動状況			合計
		参加	不参加		
			意欲あり	意欲なし	
50代	仕事あり	105 8.8%	179 14.9%	289 24.1%	573 47.8%
	仕事なし	100 8.3%	147 12.3%	295 24.6%	542 45.2%
	その他	12 1.0%	22 1.8%	51 4.3%	85 7.1%
	合計	217 18.1%	348 29.0%	635 52.9%	1200 100.0%
60代	仕事あり	83 6.1%	100 7.3%	174 12.7%	357 26.1%
	仕事なし	227 16.6%	228 16.7%	476 34.8%	931 68.0%
	その他	21 1.5%	20 1.5%	40 2.9%	81 5.9%
	合計	331 24.2%	348 25.4%	690 50.4%	1369 100.0%
合計	仕事あり	188 7.3%	279 10.9%	463 18.0%	930 36.2%
	仕事なし	327 12.7%	375 14.6%	771 30.0%	1473 57.3%
	その他	33 1.3%	42 1.6%	91 3.5%	166 6.5%
	合計	548 21.3%	696 27.1%	1325 51.6%	2569 100.0%

(2)社会活動「不参加・意欲なし」の人の実態

前述の「f」のグループを中心に、社会活動に現在不参加で今後の参加意欲もない人を如何に社会参加へ促せるか、今日的な一つの大きな社会的課題と言える。では、この「不参加・意欲なし」の人はどのような人なのか、いくつかの視点から検証してみる。

①性別・年齢

「不参加・意欲なし」の人について、性別では、前述のとおり、男性よりも女性のほうが多い。年齢では、50代と60代でほぼ変わらない。

図表5:「不参加・意欲なし」の人の実態(性別・年齢)

		性別		年齢		合計
		男性	女性	50代	60代	
社会参加	参加	531	548	415	664	1079
		49.2%	50.8%	38.5%	61.5%	100.0%
	不参加・意欲あり	699	696	694	701	1395
		50.1%	49.9%	49.7%	50.3%	100.0%
	不参加・意欲なし	1201	1325	1248	1278	2526
		47.5%	52.5%	49.4%	50.6%	100.0%
合計		2431	2569	2357	2643	5000
		48.6%	51.4%	47.1%	52.9%	100.0%

②健康状態

「不参加・意欲なし」の人について、健康状態を見ると、他のグループ（参加、不参加・意欲あり）よりも、健康状態がよくない人が比較的多い。健康状況からやむを得ず参加できず意欲もない人の存在が確認できる。こうした人に対して、フォーマル・インフォーマルを含めて、社会とのつながりを確保するサポートが必要と言える。

図表6:「不参加・意欲なし」の人の実態(健康状態)

		健康					合計
		よくない	あまりよくない	どちらともいえない	まあよい	とてもよい	
社会参加	参加	18	134	212	578	137	1079
		1.7%	12.4%	19.6%	53.6%	12.7%	100.0%
	不参加・意欲あり	17	169	329	750	130	1395
		1.2%	12.1%	23.6%	53.8%	9.3%	100.0%
	不参加・意欲なし	72	376	655	1184	239	2526
		2.9%	14.9%	25.9%	46.9%	9.5%	100.0%
合計		107	679	1196	2512	506	5000
		2.1%	13.6%	23.9%	50.2%	10.1%	100.0%

③経済的環境

「不参加・意欲なし」の人について、経済的状況を見ると（日常生活における経済的困窮度を聞いた質問）、他のグループ（参加、不参加・意欲あり）よりも、「困っている」人の割合が少し多い。ただ、「困っていない」人も相応におり、少なくとも本調査の母集団においては、経済的な影響が社会活動への参加を抑制するとまでは言いがたい。

図表7:「不参加・意欲なし」の人の実態(健康状態)

		経済					合計
		困っている	少し困っている	どちらともいえない	あまり困っていない	困っていない	
社会参加	参加	49 4.5%	145 13.4%	209 19.4%	418 38.7%	258 23.9%	1079 100.0%
	不参加・意欲あり	56 4.0%	208 14.9%	339 24.3%	523 37.5%	269 19.3%	1395 100.0%
	不参加・意欲なし	175 6.9%	362 14.3%	588 23.3%	873 34.6%	528 20.9%	2526 100.0%
合計		280 5.6%	715 14.3%	1136 22.7%	1814 36.3%	1055 21.1%	5000 100.0%

④介護の有無

社会活動への参加を阻害する要因として、「介護」のこともよく指摘される場所である。「不参加・意欲なし」の人についてその状況を見ると、他のグループよりも割合は少ない状況であった。結果をこのまま受け止めると、社会活動をしている人、今後意欲のある人のほうが要介護者を抱えながら生活（活動）しているということになるが、外部サポートの利用状況や家族の状況（介護力）等を具にみながら解釈していく必要がある。

図表8:「不参加・意欲なし」の人の実態(要介護者の有無)

		介護		合計
		要介護者あり	要介護者なし	
社会参加	参加	275 25.5%	804 74.5%	1079 100.0%
	不参加・意欲あり	345 24.7%	1050 75.3%	1395 100.0%
	不参加・意欲なし	491 19.4%	2035 80.6%	2526 100.0%
合計		1111 22.2%	3889 77.8%	5000 100.0%

⑤自由時間

「どれだけ自由時間があるか」についても尋ねたが、「不参加・意欲なし」は他のグループとほぼ同様の回答状況にあり、「十分にある、まあある人」が84%を占めた。

図表9:「不参加・意欲なし」の人の実態(自由時間)

		自由時間				合計
		十分にある	まあある	あまりない	全くない	
社会参加	参加	420 38.9%	522 48.4%	128 11.9%	9 .8%	1079 100.0%
	不参加・意欲あり	454 32.5%	755 54.1%	179 12.8%	7 .5%	1395 100.0%
	不参加・意欲なし	964 38.2%	1155 45.7%	372 14.7%	35 1.4%	2526 100.0%
合計		1838 36.8%	2432 48.6%	679 13.6%	51 1.0%	5000 100.0%

⑥生活満足度

「不参加・意欲なし」の人の生活満足度は、他のグループの人よりも「満足以上」の割合が低い。健康状態など様々な理由が考えられるが、この結果は注目される。

図表 10:「不参加・意欲なし」の人の実態(生活満足度)

		生活満足度					合計
		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満	
社会参加	参加	83 7.7%	583 54.0%	279 25.9%	104 9.6%	30 2.8%	1079 100.0%
	不参加・意欲あり	56 4.0%	708 50.8%	435 31.2%	159 11.4%	37 2.7%	1395 100.0%
	不参加・意欲なし	136 5.4%	1051 41.6%	887 35.1%	315 12.5%	137 5.4%	2526 100.0%
合計		275 5.5%	2342 46.8%	1601 32.0%	578 11.6%	204 4.1%	5000 100.0%

⑦人生満足度

「不参加・意欲なし」の人の人生満足度は、上記の生活満足度と同様に、他のグループの人よりも「満足」の割合が低い。

図表 11:「不参加・意欲なし」の人の実態(人生満足度)

		人生満足度			合計
		そう思う(満足)	どちらともいえない	そう思わない(不満足)	
社会参加	参加	584 54.1%	373 34.6%	122 11.3%	1079 100.0%
	不参加・意欲あり	586 42.0%	608 43.6%	201 14.4%	1395 100.0%
	不参加・意欲なし	885 35.0%	1135 44.9%	506 20.0%	2526 100.0%
合計		2055 41.1%	2116 42.3%	829 16.6%	5000 100.0%

⑧ライフスタイル

では「不参加・意欲なし」の人たちは普段どのようなライフスタイルを志向しているのか。他のグループと比べて比較的多かったのは、「家の中で自分の好きなことをしてごす」であった。実に約4割（42.8%）を占めていた。の人生満足度は、上記の生活満足度と同様に、他のグループの人よりも「満足」の割合が低い。

図表 12:「不参加・意欲なし」の人の実態(ライフスタイル)

		ライフスタイル						合計
		仕事中心にすごしている	家事や介護等、家族の対応に追われている	地域の活動を中心にごしている	外に出て自分の好きなことをしてすごしていることが多い	家の中で自分の好きなことをしてすごしていることが多い	いずれも該当しない	
社会参加	参加	300 27.8%	92 8.5%	105 9.7%	189 17.5%	328 30.4%	65 6.0%	1079 100.0%
	不参加・意欲あり	540 38.7%	132 9.5%	16 1.1%	180 12.9%	463 33.2%	64 4.6%	1395 100.0%
	不参加・意欲なし	754 29.8%	194 7.7%	3 .1%	277 11.0%	1080 42.8%	218 8.6%	2526 100.0%
合計		1594 31.9%	418 8.4%	124 2.5%	646 12.9%	1871 37.4%	347 6.9%	5000 100.0%

⑨外出頻度

「不参加・意欲なし」の人たちの外出頻度をみると、他のグループと比べて少ない人が多いことが確認される。週1回程度及び未満の人が37%を占めていた。

図表 13:「不参加・意欲なし」の人の実態(外出頻度)

		外出頻度						合計
		毎日2回以上	毎日1回以上	週4-5回程度	週2-3回程度	週1回程度	週1回未満	
社会参加	参加	100 9.3%	265 24.6%	222 20.6%	278 25.8%	128 11.9%	86 8.0%	1079 100.0%
	不参加・意欲あり	78 5.6%	366 26.2%	223 16.0%	368 26.4%	245 17.6%	115 8.2%	1395 100.0%
	不参加・意欲なし	125 4.9%	561 22.2%	370 14.6%	621 24.6%	472 18.7%	377 14.9%	2526 100.0%
合計		303 6.1%	1192 23.8%	815 16.3%	1267 25.3%	845 16.9%	578 11.6%	5000 100.0%

⑩近所の人との会話

「不参加・意欲なし」の人たちがどれだけ近所の人と会話しているかをみても、他のグループと比べて少ない人が多いことが確認される。週1回程度及び未満の人が37%を占めていた。

図表 14:「不参加・意欲なし」の人の実態(近所の人たちとの会話)

		会話					合計
		ほとんど毎日	週に4-5回	週に2-3回	週に1回	ほとんどない	
社会参加	参加	96	106	275	294	308	1079
		8.9%	9.8%	25.5%	27.2%	28.5%	100.0%
	不参加・意欲あり	57	80	287	403	568	1395
		4.1%	5.7%	20.6%	28.9%	40.7%	100.0%
	不参加・意欲なし	79	101	318	490	1538	2526
		3.1%	4.0%	12.6%	19.4%	60.9%	100.0%
合計		232	287	880	1187	2414	5000
		4.6%	5.7%	17.6%	23.7%	48.3%	100.0%

⑪社会的孤立の可能性と回避意欲

将来、「孤立」状態になる可能性があるか尋ねた回答では、「不参加・意欲なし」の人たちは他のグループの人たちと比べて、「**そう思う**」以上の回答者が多いことが確認される。また将来の孤立状態を回避したいと思っているかを尋ねた回答でも他のグループと比べて**回避意欲が少ない人が多い**ことも確認された。

図表 15:「不参加・意欲なし」の人の実態(将来の孤立リスク)

		孤立懸念(リスク)						合計
		とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全くそうは思わない	わからない	
社会参加	参加	72	188	333	333	99	54	1079
		6.7%	17.4%	30.9%	30.9%	9.2%	5.0%	100.0%
	不参加・意欲あり	101	314	488	339	76	77	1395
		7.2%	22.5%	35.0%	24.3%	5.4%	5.5%	100.0%
	不参加・意欲なし	286	556	819	508	128	229	2526
		11.3%	22.0%	32.4%	20.1%	5.1%	9.1%	100.0%
合計		459	1058	1640	1180	303	360	5000
		9.2%	21.2%	32.8%	23.6%	6.1%	7.2%	100.0%

図表 16:「不参加・意欲なし」の人の実態(将来の孤立リスクに対する回避意欲)

		孤立回避意欲						合計
		とてもそう思っている	そう思っている	どちらともいえない	そうは思っていない	全くそうは思っていない	わからない	
社会参加	参加	101	524	296	78	36	44	1079
		9.4%	48.6%	27.4%	7.2%	3.3%	4.1%	100.0%
	不参加・意欲あり	100	732	406	72	23	62	1395
		7.2%	52.5%	29.1%	5.2%	1.6%	4.4%	100.0%
	不参加・意欲なし	67	572	1020	414	182	271	2526
		2.7%	22.6%	40.4%	16.4%	7.2%	10.7%	100.0%
合計		268	1828	1722	564	241	377	5000
		5.4%	36.6%	34.4%	11.3%	4.8%	7.5%	100.0%

(3) 普段の外出先(よく出かけるところ)

では普段、どこに外出することが多いのかを尋ねてみたが(複数回答)、全体では、「職場」に続き、「散歩」「趣味、スポーツ・遊び・習い事」、「友人らと交流する場」が多かった。前述の「不参加・意欲なし」の人たちは、家で過ごすことを好む人が多い結果を表すように全体的にいずれの場所へも出かける割合が低いことが確認された。また「病院・診療所」の割合は、他のグループの人たちとほぼ変わらない状況であり、健康状態のために家にいることが多いということでもないことが推察される。

図表 17: 普段の外出先(よく出かけるところ)(複数回答)

(合計)

		職場	地域活動の場	趣味・スポーツ・遊び・習い事	散歩	スポーツジム	図書館	喫茶店	パチンコゲームセンター	家族・親戚の家	友人・知人と交流する場	病院診療所	計
50代	参加	238	101	153	117	26	97	45	16	87	130	81	415
		57.3%	24.3%	36.9%	28.2%	6.3%	23.4%	10.8%	3.9%	21.0%	31.3%	19.5%	100.0%
	不参加 意欲あり	414	20	210	216	66	132	73	27	133	160	124	694
		59.7%	2.9%	30.3%	31.1%	9.5%	19.0%	10.5%	3.9%	19.2%	23.1%	17.9%	100.0%
	不参加 意欲なし	642	5	245	250	77	178	90	83	204	194	240	1248
	51.4%	0.4%	19.6%	20.0%	6.2%	14.3%	7.2%	6.7%	16.3%	15.5%	19.2%	100.0%	
	計	1294	126	608	583	169	407	208	126	424	484	445	2357
		54.9%	5.3%	25.8%	24.7%	7.2%	17.3%	8.8%	5.3%	18.0%	20.5%	18.9%	100.0%
60代	参加	163	242	325	269	78	181	73	31	158	256	184	664
		24.5%	36.4%	48.9%	40.5%	11.7%	27.3%	11.0%	4.7%	23.8%	38.6%	27.7%	100.0%
	不参加 意欲あり	240	33	256	328	78	177	96	28	170	215	175	701
		34.2%	4.7%	36.5%	46.8%	11.1%	25.2%	13.7%	4.0%	24.3%	30.7%	25.0%	100.0%
	不参加 意欲なし	295	9	356	437	122	211	110	72	211	278	320	1278
	23.1%	0.7%	27.9%	34.2%	9.5%	16.5%	8.6%	5.6%	16.5%	21.8%	25.0%	100.0%	
	計	698	284	937	1034	278	569	279	131	539	749	679	2643
		26.4%	10.7%	35.5%	39.1%	10.5%	21.5%	10.6%	5.0%	20.4%	28.3%	25.7%	100.0%
合計	参加	401	343	478	386	104	278	118	47	245	386	265	1079
		37.2%	31.8%	44.3%	35.8%	9.6%	25.8%	10.9%	4.4%	22.7%	35.8%	24.6%	100.0%
	不参加 意欲あり	654	53	466	544	144	309	169	55	303	375	299	1395
		46.9%	3.8%	33.4%	39.0%	10.3%	22.2%	12.1%	3.9%	21.7%	26.9%	21.4%	100.0%
	不参加 意欲なし	937	14	601	687	199	389	200	155	415	472	560	2526
	37.1%	0.6%	23.8%	27.2%	7.9%	15.4%	7.9%	6.1%	16.4%	18.7%	22.2%	100.0%	
	計	1992	410	1545	1617	447	976	487	257	963	1233	1124	5000
		39.8%	8.2%	30.9%	32.3%	8.9%	19.5%	9.7%	5.1%	19.3%	24.7%	22.5%	100.0%

(男性)

		職場	地域活動の場	趣味・スポーツ・遊び・習い事	散歩	スポーツジム	図書館	喫茶店	パチンコゲームセンター	家族・親戚の家	友人・知人と交流する場	病院診療所	計
50代	参加	149	46	76	53	8	31	22	13	30	42	34	198
		75.3%	23.2%	38.4%	26.8%	4.0%	15.7%	11.1%	6.6%	15.2%	21.2%	17.2%	100.0%
	不参加 意欲あり	253	9	93	120	27	54	38	22	43	37	53	346
		73.1%	2.6%	26.9%	34.7%	7.8%	15.6%	11.0%	6.4%	12.4%	10.7%	15.3%	100.0%
	不参加 意欲なし	386	3	125	133	34	77	38	62	58	54	95	613
	63.0%	0.5%	20.4%	21.7%	5.5%	12.6%	6.2%	10.1%	9.5%	8.8%	15.5%	100.0%	
	計	788	58	294	306	69	162	98	97	131	133	182	1157
		68.1%	5.0%	25.4%	26.4%	6.0%	14.0%	8.5%	8.4%	11.3%	11.5%	15.7%	100.0%
60代	参加	111	123	135	155	33	79	33	23	50	96	90	333
		33.3%	36.9%	40.5%	46.5%	9.9%	23.7%	9.9%	6.9%	15.0%	28.8%	27.0%	100.0%
	不参加 意欲あり	168	22	112	178	32	91	46	22	53	73	93	353
		47.6%	6.2%	31.7%	50.4%	9.1%	25.8%	13.0%	6.2%	15.0%	20.7%	26.3%	100.0%
	不参加 意欲なし	182	4	137	232	42	92	44	55	56	65	147	588
	31.0%	0.7%	23.3%	39.5%	7.1%	15.6%	7.5%	9.4%	9.5%	11.1%	25.0%	100.0%	
	計	461	149	384	565	107	262	123	100	159	234	330	1274
		36.2%	11.7%	30.1%	44.3%	8.4%	20.6%	9.7%	7.8%	12.5%	18.4%	25.9%	100.0%
合計	参加	260	169	211	208	41	110	55	36	80	138	124	531
		49.0%	31.8%	39.7%	39.2%	7.7%	20.7%	10.4%	6.8%	15.1%	26.0%	23.4%	100.0%
	不参加 意欲あり	421	31	205	298	59	145	84	44	96	110	146	699
		60.2%	4.4%	29.3%	42.6%	8.4%	20.7%	12.0%	6.3%	13.7%	15.7%	20.9%	100.0%
	不参加 意欲なし	568	7	262	365	76	169	82	117	114	119	242	1201
	47.3%	0.6%	21.8%	30.4%	6.3%	14.1%	6.8%	9.7%	9.5%	9.9%	20.1%	100.0%	
	計	1249	207	678	871	176	424	221	197	290	367	512	2431
		51.4%	8.5%	27.9%	35.8%	7.2%	17.4%	9.1%	8.1%	11.9%	15.1%	21.1%	100.0%

(女性)

		職場	地域活動の場	趣味・スポーツ・遊び・習い事	散歩	スポーツジム	図書館	喫茶店	パチンコゲームセンター	家族・親戚の家	友人・知人と交流する場	病院診療所	計
50代	参加	89 41.0%	55 25.3%	77 35.5%	64 29.5%	18 8.3%	66 30.4%	23 10.6%	3 1.4%	57 26.3%	88 40.6%	47 21.7%	217 100.0%
	不参加 意欲あり	161 46.3%	11 3.2%	117 33.6%	96 27.6%	39 11.2%	78 22.4%	35 10.1%	5 1.4%	90 25.9%	123 35.3%	71 20.4%	348 100.0%
	不参加 意欲なし	256 40.3%	2 0.3%	120 18.9%	117 18.4%	43 6.8%	101 15.9%	52 8.2%	21 3.3%	146 23.0%	140 22.0%	145 22.8%	635 100.0%
	計	506 42.2%	68 5.7%	314 26.2%	277 23.1%	100 8.3%	245 20.4%	110 9.2%	29 2.4%	293 24.4%	351 29.3%	263 21.9%	1200 100.0%
60代	参加	52 15.7%	119 36.0%	190 57.4%	114 34.4%	45 13.6%	102 30.8%	40 12.1%	8 2.4%	108 32.6%	160 48.3%	94 28.4%	331 100.0%
	不参加 意欲あり	72 20.7%	11 3.2%	144 41.4%	150 43.1%	46 13.2%	86 24.7%	50 14.4%	6 1.7%	117 33.6%	142 40.8%	82 23.6%	348 100.0%
	不参加 意欲なし	113 16.4%	5 0.7%	219 31.7%	205 29.7%	80 11.6%	119 17.2%	66 9.6%	17 2.5%	155 22.5%	213 30.9%	173 25.1%	690 100.0%
	計	237 17.3%	135 9.9%	553 40.4%	469 34.3%	171 12.5%	307 22.4%	156 11.4%	31 2.3%	380 27.8%	515 37.6%	349 25.5%	1369 100.0%
合計	参加	141 25.7%	174 31.8%	267 48.7%	178 32.5%	63 11.5%	168 30.7%	63 11.5%	11 2.0%	165 30.1%	248 45.3%	141 25.7%	548 100.0%
	不参加 意欲あり	233 33.5%	22 3.2%	261 37.5%	246 35.3%	85 12.2%	164 23.6%	85 12.2%	11 1.6%	207 29.7%	265 38.1%	153 22.0%	696 100.0%
	不参加 意欲なし	369 27.8%	7 0.5%	339 25.6%	322 24.3%	123 9.3%	220 16.6%	118 8.9%	38 2.9%	301 22.7%	353 26.6%	318 24.0%	1325 100.0%
	計	743 28.9%	203 7.9%	867 33.7%	746 29.0%	271 10.5%	552 21.5%	266 10.4%	60 2.3%	673 26.2%	866 33.7%	612 23.8%	2569 100.0%

(4)現在及び過去の参加団体・活動

次に、社会活動に参加している人（過去に参加も含む。計 1079 名）が、具体的にどのような団体及び活動に参加しているかをみた。

参加者の多さ（参加率）は、男女で若干の違いは見られるが、「自治体・町内会」、「趣味やスポーツ、遊び仲間のグループ」、「NPO・ボランティア団体」が上位に続く。ただ、そもそも 50-60 代の人の社会活動への参加割合が引くため、全体の参加率（図表内の参加率②）としては、上位の 2 つを除けば、参加率は 5 %未満の状況にある。既存の地域団体・活動において、「若い人がいない、入らない」という声をよく耳にするが、その証左と言える。

図表 18: 参加している団体・活動及び参加率（参加者の回答・複数回答）

	男性				女性				計		
			計	男性内 順位			計	女性内 順位	計	参加率 ①	参加率 ②
	50代	60代			50代	60代					
1 自治会、町内会	122	201	323	1	100	162	262	1	585	54.2%	11.7%
2 趣味やスポーツ、遊び仲間のグループ	70	124	194	2	56	130	186	2	380	35.2%	7.6%
3 NPO・ボランティア団体	25	66	91	4	49	78	127	4	218	20.2%	4.4%
4 学校や職場の同窓会、同期会	40	77	117	3	27	61	88	5	205	19.0%	4.1%
5 習い事のグループ	6	26	32	9	43	107	150	3	182	16.9%	3.6%
6 市民活動団体	16	42	58	5	15	39	54	6	112	10.4%	2.2%
7 インターネット上でのコミュニティ	15	23	38	8	23	20	43	9	81	7.5%	1.6%
8 宗教団体	8	19	27	10	18	19	37	10	64	5.9%	1.3%
9 防災会・自主防災組織	16	34	50	6	4	9	13	15	63	5.8%	1.3%
10 生協・消費者団体	4	7	11	15	17	33	50	8	61	5.7%	1.2%
11 生涯学習（社会人向け大学、高齢者大学等）	3	17	20	12	11	24	35	11	55	5.1%	1.1%
12 同業者の団体、農協等	17	22	39	7	8	6	14	14	53	4.9%	1.1%
13 婦人会	0	0	0	17	20	31	51	7	51	4.7%	1.0%
14 老人会	0	21	21	11	1	16	17	13	38	3.5%	0.8%
15 学校の父母会（PTA活動）	11	4	15	13	16	4	20	12	35	3.2%	0.7%
16 シルバー人材センター	0	15	15	13	1	7	8	16	23	2.1%	0.5%
17 無尽講・頼母子講・模合	3	4	7	16	0	0	0	19	7	0.6%	0.1%
18 ハローワーク	0	0	0	17	2	1	3	17	3	0.3%	0.1%
18 協同組合（ワーカーズコープ等）	0	0	0	17	2	1	3	17	3	0.3%	0.1%
- その他・該当しない	28	38	66	-	24	31	55	-	121	11.2%	2.4%
※参加率①：社会活動参加ありと回答した1079名における参加率											
※参加率②：本調査対象者50-60代・5000名を分母とした場合の参加率											

(5) 今後参加したい団体・活動（将来的な参加意欲のある人の回答）

現在は社会活動に参加していないが、将来的に参加意欲がある人が、具体的にどのような団体・活動への参加に関心を持っているかを見ると、上位には、「趣味やスポーツ、遊び仲間のグループ」、「自治会・町内会」、「習い事のグループ」が並ぶ。特段、目新しい結果が得られたわけではないが、今後の社会参加を促す場・機会の設定において参考になる。

図表 19: 今後参加したい団体・活動（将来的な参加意欲のある人の回答・複数回答）

	男性				女性				計		
	計			男性内 順位	計			女性内 順位	計	希望者 割合	
	50代	60代			50代	60代					
1	趣味やスポーツ、遊び仲間のグループ	171	191	362	1	199	198	397	1	759	54.4%
2	自治会、町内会	135	163	298	2	91	96	187	4	485	34.8%
3	習い事のグループ	56	47	103	6	132	138	270	2	373	26.7%
4	NPO・ボランティア団体	99	93	192	3	95	66	161	5	353	25.3%
5	生涯学習(社会人向け大学、高齢者大学等)	69	59	128	5	91	98	189	3	317	22.7%
6	シルバー人材センター	81	102	183	4	54	74	128	6	311	22.3%
7	学校や職場の同窓会、同期会	46	51	97	7	40	46	86	7	183	13.1%
8	市民活動団体	45	42	87	8	36	40	76	8	163	11.7%
9	インターネット上でのコミュニティ	40	39	79	10	35	32	67	9	146	10.5%
10	老人会	28	52	80	9	26	36	62	10	142	10.2%
11	防災会・自主防災組織	32	39	71	11	9	8	17	13	88	6.3%
12	婦人会	0	1	1	19	31	30	61	11	62	4.4%
13	ハローワーク	13	14	27	13	8	8	16	14	43	3.1%
14	同業者の団体、農協等	18	13	31	12	4	2	6	17	37	2.7%
15	生協・消費者団体	4	2	6	16	11	11	22	12	28	2.0%
16	宗教団体	5	7	12	14	7	3	10	15	22	1.6%
17	協同組合(ワーカーズコープ等)	5	3	8	15	4	4	8	16	16	1.1%
18	学校の父母会(PTA活動)	5	1	6	16	3	0	3	18	9	0.6%
18	無尽講・頼母子講・模合	2	0	2	18	0	2	2	19	4	0.3%
-	その他	3	4	7	-	1	6	7	-	14	1.0%

※希望者割合：現在、社会活動に参加していないが、今後の参加意欲がある1395名における割合

(6)社会活動に参加しない理由（社会活動に参加で今後の参加意欲もない人の回答）

他方、前述の「不参加・意欲なし」の人が、「なぜ参加しないのか」その理由を尋ねると、最も多いのは「地域活動に魅力や必要性を感じないため」であった（42.7%）。「地域活動の情報がないため」と回答した人も15.9%いる。

地域との関係（人と人との関係）の変化、個人主義化が進む価値観の変容といった極めて根深い問題も背景にあると思われるが、次代の高齢者のニーズに合った魅力ある場づくりは社会（地域）の大きな課題である。

図表 20: 社会活動へ参加しない理由（社会活動に参加で今後の参加意欲もない人の回答・複数回答）

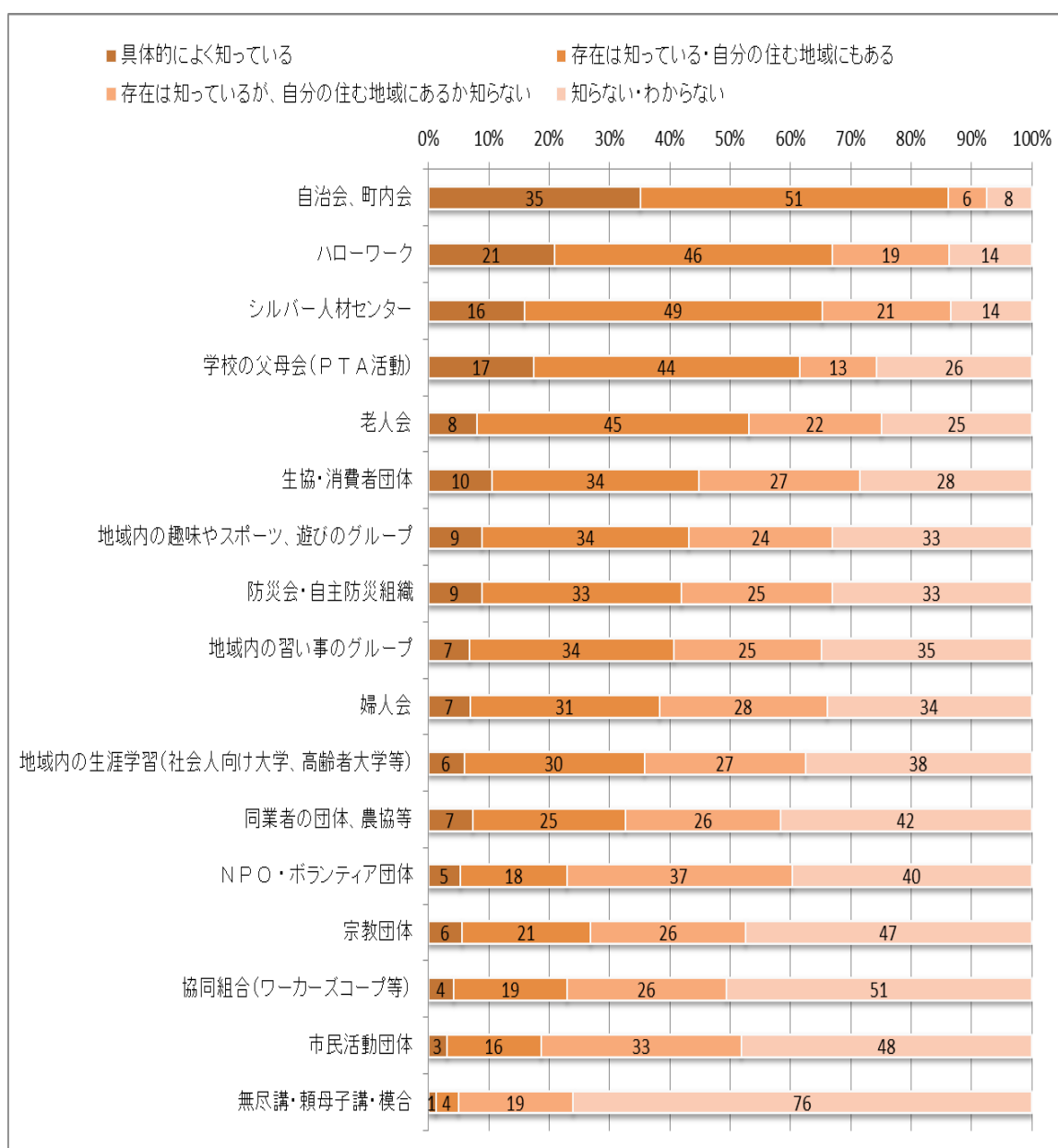
	男性				女性				計		
			計	男性内 順位			計	女性内 順位		希望者 割合	
	50代	60代			50代	60代					
1	そもそも地域活動に魅力や必要性を感じないため	258	272	530	1	251	298	549	1	1079	42.7%
2	仕事で忙しいため(時間がないため)	242	122	364	2	165	103	268	3	632	25.0%
3	地域活動の情報はあるが魅力的な活動がないため	74	102	176	4	124	150	274	2	450	17.8%
4	地域活動の情報がないため(わからないため)	91	98	189	3	99	114	213	4	402	15.9%
5	健康状態がよくないため	62	68	130	5	73	70	143	5	273	10.8%
6	その他	10	20	30	6	32	44	76	6	106	4.2%

(7)諸団体・活動の認知度と役立ちに対する評価

中高齢者に対し、今後の社会活動への参加を促すにも、「それぞれの団体や活動がどれだけ認知されているのか」、また「どれだけ地域社会に役立っていると評価しているか」を尋ねてみた。

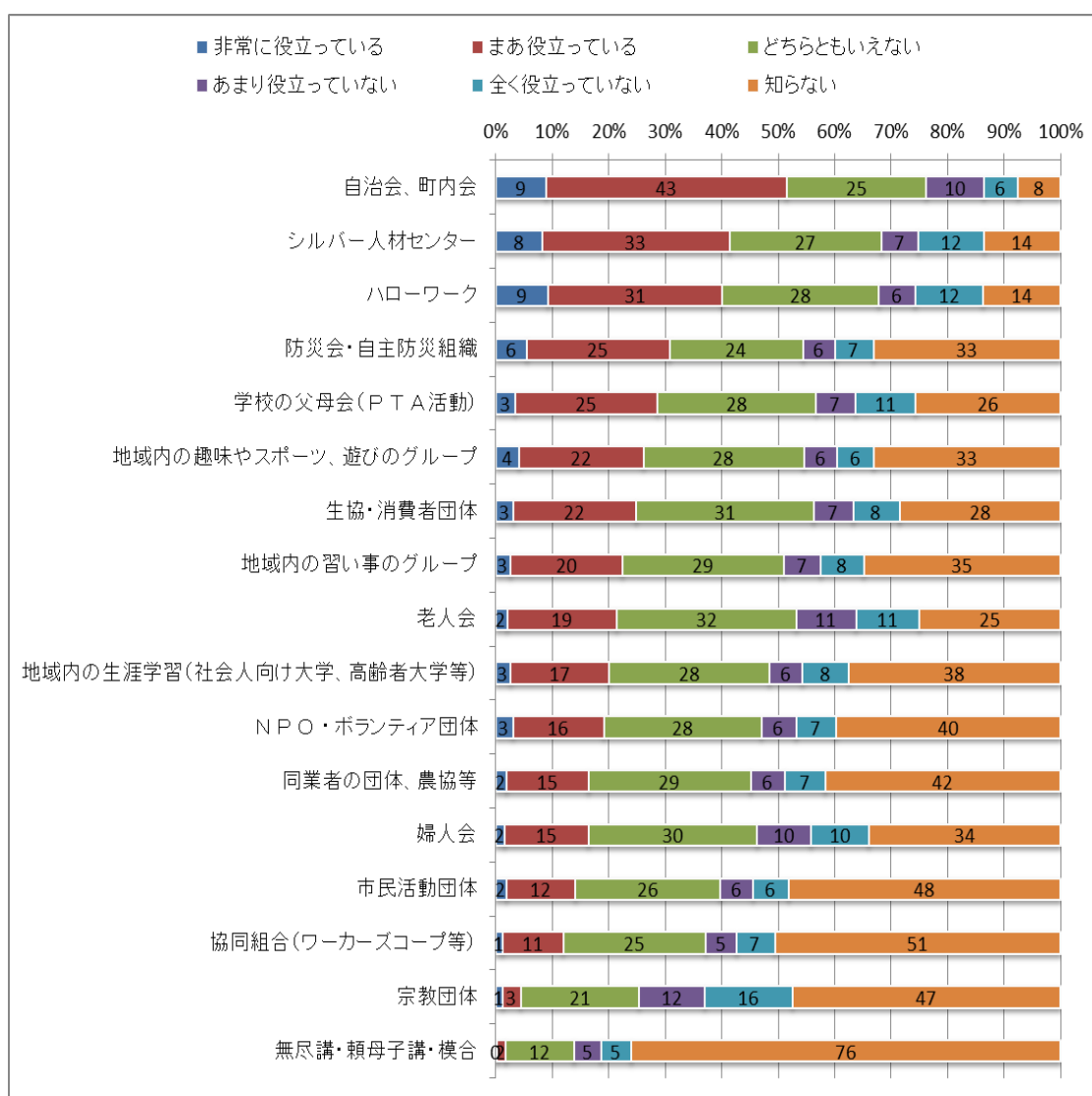
認知度については、「自治体・町内会」、「ハローワーク」、「シルバー人材センター」が上位に続くが、前述の「今後の参加希望」の上位であった「趣味やスポーツ、遊び仲間のグループ」、「習い事のグループ」の認知度は高くない。具体的に自分の住む地域の中のどこでどのような活動があるかは知られていない（情報が無い）のが実態と推察される。

図表 21: 諸団体・活動の認知度



また、諸団体・活動がどれだけ地域社会の中で役立っていると思うかどうかについては、図表 22 の結果であった。この評価は難しいところがあるが、少なくとも多くの団体・活動について、そもそも知らないから評価できない、という状況が推察された。

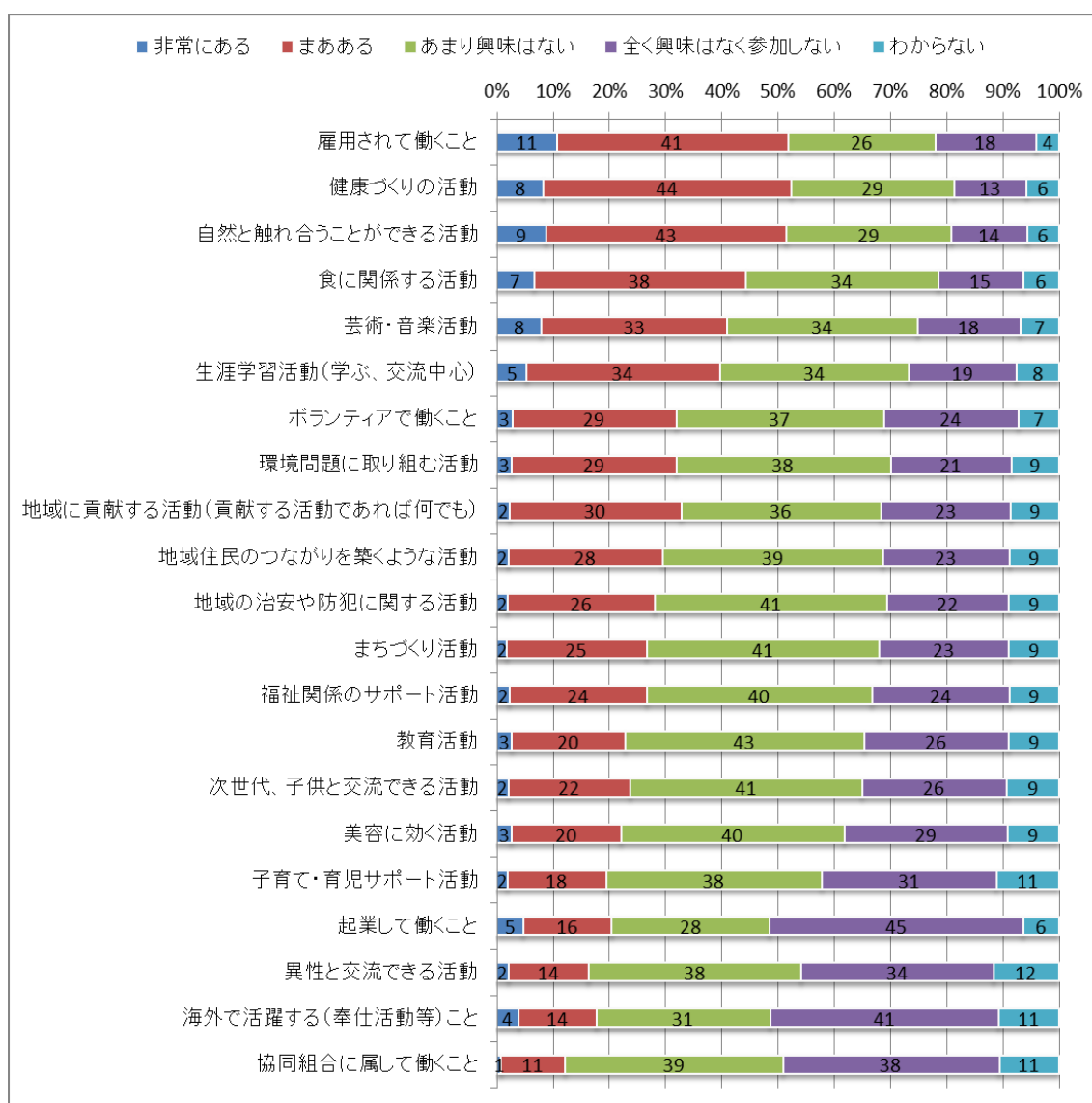
図表 22: 諸団体・活動の地域社会における役立ちの評価



(8)今後参加したい「活動」の具体内容 ※全員の回答

最後に、全員に対して、65-79歳の期間をイメージしてもらった上で、次の活動へどれだけ参加の関心があるかを尋ねた。働かざるを得ないという将来不安も少なからずあると想像するものの、「日本人の就労意識」の高さが伺えた。年齢に関わらず、いつまでも活躍（働ける）場づくりは、個人にとっても、社会にとっても重要な課題であると思われる。以下の状況も含めて、次代の高齢者が求める新たな社会活動の場づくりの参考になる。

図表 23: 将来(65-79歳)における諸活動への参加関心度(全体)



図表 24: 将来(65-79 歳)における諸活動への参加関心度(活動スタンス別/男女別)

	全体									
	活動スタンス別						男女別			
	対象A 活動あり・意欲あり		対象B 活動・意欲なし		男性		女性			
	平均 得点	順位	平均 得点	順位	平均 得点	順位	平均 得点	順位		
雇用されて働くこと	3.36	1	3.51	3	3.22	1	3.46	1	3.27	5
健康づくりの活動	3.36	2	3.68	1	3.05	2	3.29	3	3.43	1
自然と触れ合うことができる活動	3.35	3	3.67	2	3.05	3	3.36	2	3.35	2
食に関係する活動	3.23	4	3.50	4	2.97	4	3.11	4	3.35	3
芸術・音楽活動	3.17	5	3.42	6	2.92	5	3.04	5	3.29	4
生涯学習活動(学ぶ、交流中心)	3.11	6	3.47	5	2.76	6	3.02	6	3.19	6
ボランティアで働くこと	2.97	7	3.40	8	2.54	12	2.96	10	2.97	8
環境問題に取り組む活動	2.96	8	3.31	10	2.62	7	2.98	8	2.94	9
地域に貢献する活動(貢献する活動であれば何でも)	2.95	9	3.40	7	2.51	14	3.00	7	2.90	10
地域住民のつながりを築くような活動	2.92	10	3.32	9	2.52	13	2.94	12	2.89	11
地域の治安や防犯に関する活動	2.90	11	3.22	13	2.59	8	2.98	9	2.84	13
まちづくり活動	2.88	12	3.26	11	2.50	17	2.95	11	2.80	14
福祉関係のサポート活動	2.87	13	3.24	12	2.50	16	2.85	14	2.89	12
教育活動	2.82	14	3.10	15	2.55	11	2.84	15	2.80	15
次世代、子供と交流できる活動	2.82	15	3.13	14	2.51	15	2.83	16	2.80	16
美容に効く活動	2.77	16	2.97	16	2.58	9	2.50	21	3.03	7
子育て・育児サポート活動	2.68	17	2.94	17	2.42	20	2.59	20	2.76	17
起業して働くこと	2.67	18	2.80	18	2.55	10	2.83	17	2.52	19
異性と交流できる活動	2.61	19	2.79	19	2.44	18	2.86	13	2.37	21
海外で活躍する(奉仕活動等)こと	2.60	20	2.77	20	2.43	19	2.61	19	2.58	18
協同組合に属して働くこと	2.53	21	2.69	21	2.38	21	2.61	18	2.45	20

Ⅲ. 社会参加が高齢者本人の健康や生きがい等に与える効果検証事業(効果WG)

1. 概要

本効果検証事業として行った検査等の内容及び対象者数は下記のとおり。

A) 認知・運動機能検査(集団式)

・2013年7月に52名、2013年8月に32名、2013年11月に11名、2014年2月に105名

B) 認知・運動機能検査(個別式)

・2013年7月に28名、2013年8月に26名、2013年11月に13名、2014年2～3月に60名

C) 医学的検査

・2014年1月に44名

D) アンケート調査

・2013年8月に297名

E) 身体活動量計測

・2013年7月に19名

F) 社会的コミュニケーションに関する計測

・2013年7～9月に31名

以上はいずれもこれまでに研究対象となっていた高齢者に関する2回目もしくは3回目の追跡調査であり、ベースラインとなる初回時点でのデータと比較することで、生きがい就労が高齢者に与える影響の検討を行った。

2. 結果の概要

- ・社会参加(就労)の効果として、「認知能力の向上(順唱課題)」、「健康習慣の改善(一日あたり平均歩数)」、「健康状態の向上(血管内皮機能)等、いくつかの項目において改善を示唆する結果を得た。
- ・しかし多くの項目において、就労者の状態が非就労者よりも明確に改善するという結果を得ることはできなかった。例えば共同体意識の上昇や抑うつ度の低下といった変化は、就労者と非就労者の双方で確認されたため、生きがい就労セミナーへの参加の効果である可能性が考えられる。また認知機能の多くについても両者で上昇が見られたが、これは学習による効果も否定できない。
- ・今後さらに継続的に観察を続けると共に、比較的初期状態が悪い人などへの効果を確認するなど、さらなる検討が必要であると考えられる。

※効果検証結果の詳細は、巻末の「資料5」に掲載

IV. 考察・まとめ

本調査研究事業では、高齢者の社会参加の実態とニーズに関するきめ細かな把握をもとに、高齢者の社会参加を促す策を開発すること、また社会参加が高齢者本人の健康や生きがいにもたらす効果を明らかにすることを目的とした。このため、全国の50～69歳の男女を対象にした「社会参加の実態とニーズ調査に関する調査研究事業（全国）」、千葉県柏市内の60歳以上の男女を対象とした「社会参加の実態とニーズ調査に関する調査研究事業（千葉県柏市）」、ならびに千葉県柏市の60歳以上の男女を対象とした「高齢者の社会参加（就労）がもたらす健康・生きがい等に与える効果測定」の三つの調査事業を行った。

その中の「社会参加の実態とニーズ調査に関する調査研究事業」からは、次代の高齢者となる50-60代の就労と社会参加の実態が明らかとなった。高齢者の就労と社会活動参加別に見た類型別の実態、ならびに今後の社会活動参加のニーズ等を確認できた。また、今後の課題としては次の三点が考えられる。一つ目は、“社会参加意欲がない人”をどこまで参加に向かわせられるかということである。現在の中高齢者について社会参加の態度にみると、「2：3：5」の割合に区分された。退職後の地域社会への参加に関して参加意欲があり実績のある2割、参加の関心はあるが実績のない3割、関心がない5割である（地域活動に無関心でも就労継続には意欲ありを含む）。前者の2割はおそらく既存のシステムの中でも社会参加に辿りつける期待が持てるが、後者の3割、5割の計8割の層は新たな仕組み、しかけが必要と考えられる。彼らを如何に社会参加に結び付けるかが、日本社会にとって極めて重要な課題である。二つ目は、前記の8割層を生涯現役社会へ誘うための、高齢期の社会参加に向けた「動機づけ」と、本人のニーズ・特性等応じた活躍フィールドへの「マッチング」である。しかしながら、退職後の生活に関する動機づけ機会（企業内研修等）は、形式的かつ情報が限定的で実効性に欠けるとの指摘が多い。三つ目は、高齢者が活躍できる「受け皿」の問題である。退職後の活躍機会としては、就労の継続及び新たな就労への移行と、地域社会への参加に大別できるが、いずれにおいても課題が現存する。前者の就労に関しては高齢者の雇用市場が極めて限定的で制約的なこと（高齢者が求める雇用市場は極めて狭い）、後者については、敷居の高さ（参加者の固定化傾向）と参加に向けた魅力不足がある（既存の老人会等の組織には一部の固定された人しか参加しない。新参加者には敷居が高く、かつ魅力が極めて薄い）。以上の課題を解決することが、真の“生涯現役社会”の創造につながる第一歩と考えられる。

また「高齢者の社会参加（就労）がもたらす健康・生きがい等に与える効果測定」からは、高齢者が就労を行うことで、生活習慣や健康状態が改善される可能性のあることが示唆される結果を得た。

なお、本事業において、所期する目標をすべて満たすことができなかった。この点は大いに反省しつつ、今回、得られたデータ等をもとに、継続的な分析と発信を行う予定である。

資料1 高齢者の社会参加に関する事前検討資料(先行事例レビュー等)

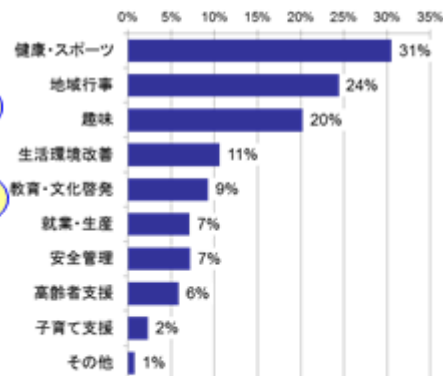
1. 高齢者の社会参加の現状

都会で働き地域に戻ってくる団塊世代の多くは**地域とのつながりが薄い**
 サロンや老人クラブ、自治会等の既存の場所・活動は**敷居が高く感じる**
 ⇒ **自宅に閉じこもりがちになってしまう懸念**

新たな生活創造の渦中にある団塊世代



<高齢者の社会参加状況(複数回答)>



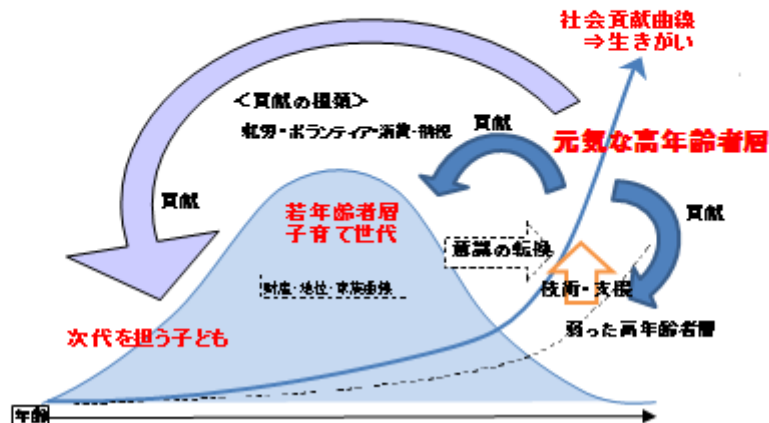
資料:内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査(平成20年度)」

32

2. 求められる高齢者の活躍(社会の期待)

先述の超高齢未来の到来を見据えれば、まだまだ元気で有能な高齢者(団塊世代)が老親世代、子育て世代他の多世代を支えていく**社会モデル**が求められる(健康長寿・介護予防にもつながる)

<社会を支える高齢者の活躍イメージ>

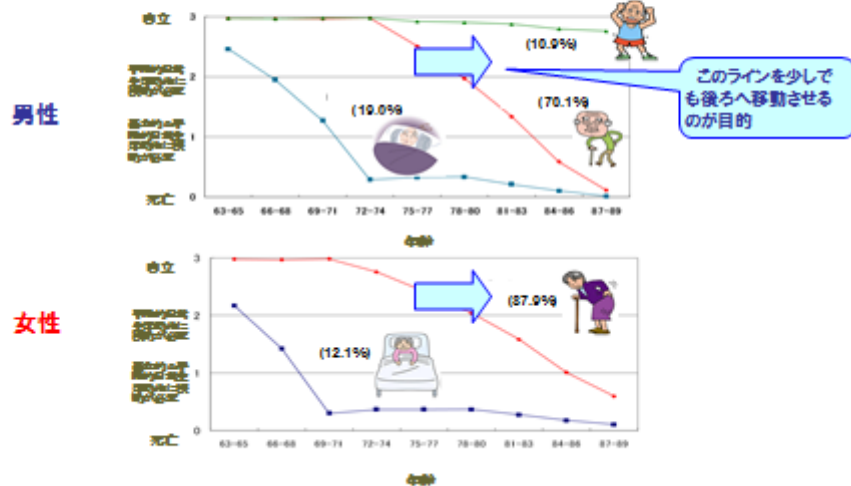


33

3. 社会参加の継続が健康に貢献することはわかっている

高齢者の自立度は年齢とともに低下
それを防ぐための社会参加は極めて重要

<自立度の変化パターン - 全国高齢者20年の追跡調査(n=5715名)>



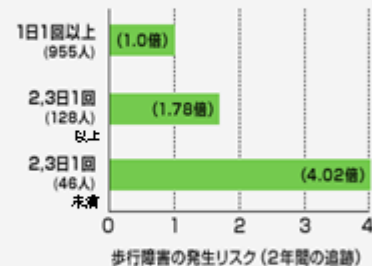
出典) 秋山 貞子 老年時代の科学と社会の構想【科学】老成書店, 2010

34

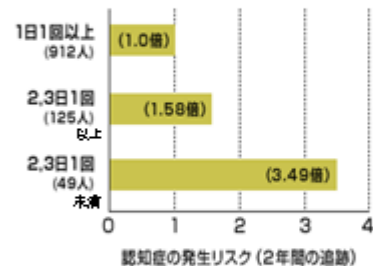
<参考>外出機会と健康の関係

外出することは、健康予防、認知症予防にも効果あり！

● 外出頻度と歩行障害の発生リスク



● 外出頻度と認知症の発生リスク



新潟県Y市で65歳以上の高齢者を対象に2001年から2年間追跡調査した結果

※両グラフとも、もともとの健康状態や社会的役割の差による影響を除いて比較

(資料) 財団法人 東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所(第93・95回老年会公開講座 第三のキーワード1)より

資料1 オヤコトNETホームページ http://www.oyakoto-net.co.jp/edk/ed-outdoor/outdoor_001.html より引用

35

<参考>外出機会(就労)と健康の関係

高齢者の多くが働ければ、地域の医療・福祉の状況も好転

図表 3-6-3 都道府県別 1人当たり老人医療費と高齢者就業率(70歳以上人口に占める就業者の割合)の相関関係



資料：厚生労働省保険局「老人医療事業年報」(2004年度)、総務省統計局「国勢調査」(2005年)より厚生労働省政策統括官付政策評価官室作成。

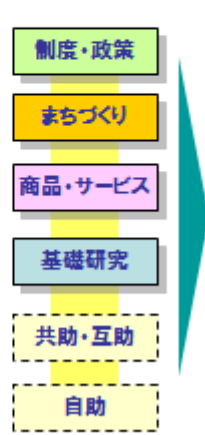
5. 高齢化課題解決に向けた世の中の動向をみると

様々な機関がそれぞれの目的で高齢化課題解決(高齢者の社会参加を含む)に向けた取組みを進めているが、「**点在**」している状況。**情報も「散在」**

<推進主体>



<手段>



<目的/具体取組事項>

1. 課題解決に向けた取組み・ビジネス
 - (1)見守り・安否確認・緊急通報、孤独死ゼロ化対策
 - (2)生活支援・相談対応
 - (3)買物支援(買物弱者対策)
 - (4)外出支援・人と人のつながり強化
 - (5)移動支援
 - (6)住まいとまちづくり
2. 高齢者のニーズに応える取組み・ビジネス
 - (1)健康増進・予防
 - (2)旅行・レジャー
 - (3)趣味・生きがいづくり
 - (4)生涯現役・生き生き働く
 - (5)高齢者に優しく、高齢生活を快適する工夫・創造
 - (6)その他

6-①. 高齢者の社会参加を中心に事例をみると

1-(1)見守り・安否確認・緊急通報、孤独死ゼロ化対策

■東京都日野市「高齢者見守り支援ネットワーク」

○2005年度からボランティアの「ふれあい見守り推進員」が、対象者に応じた声かけや見守り等を実施(2009年度末ふれあい見守り推進員は228名、サービス登録高齢者は185名)

■東京都立川市・大山団地「24時間対応の居住者支援」(大山団地自治会)

○大山団地自治会には約3000人の入居者全員が参加、自治会事務所は主に子育て世代、独居老人の支援を中心に、24人のスタッフで24時間の対応を実施。

○10年近く前より、東京電力、東京ガス、市水道局、新聞販売所店と協力関係を結び、検針や集金時に異常があれば連絡してもらう体制を構築。その結果、ここ数年間、孤独死はゼロ、国内でもトップクラスの地域力を発揮。

■孤独死対策としては、千葉県松戸市羊蹄平団地、新宿区自治会の活動も有名

1-(2)生活支援・相談対応

■東京都品川区「街のコンシェルジュ活動」(NPO/バリアフリー協会) ※近年、活動が継続したとの話あり

○品川区中延商店街を中心に、中・高齢世帯の困りごとを有償ボランティアがお手伝い。

■神奈川県横浜市長区「イタッチ」(地域通貨プロジェクト)

○相互扶助などをおして辛区が活性化することを目指す。

○2006年に第1次実験、本郷中央地区で裏に取引を記録する紙券型で相互扶助のために実験的に発行、2008年度から本格的な流通を開始し始めた。

42

6-②. 高齢者の社会参加を中心に事例をみると

■ボランティア活動に対するポイント制度

○全国36市区町村以上が制度を実施(2010.8)

○ボランティア活動に応じてスタンプを押印(30分単位)、年度末までにためた数に応じて市内で使える商品券や地域産野菜他に交換できる。単価は1時間50～100円程度、年間の交換できる上限は5000～1万円が一般的。財源は介護保険の介護予防の予算枠。

○導入を否定する自治体も多い。理由は「ボランティアに対価は似合わない」等。

＜高齢者のボランティアへのポイント制度がある主な自治体＞

2007年	東京都板橋区、千代田区
08年度	東京都世田谷区、足立区、墨田区、豊島区、八王子市、日野市、山形県天童市、茨城県鹿嶋市 など
09年度	東京都葛飾区、江戸川区、豊田区、新潟区、町田市、福井市、横浜府、大阪府吹田市、鹿児島県高島市 など
10年度	静岡県浜松市、千葉県印西市、栃木県小山市、日光市、福岡県桂東町 など

43

6-③. 高齢者の社会参加を中心に事例をみると

1-(3) 買物支援(買物弱者対策)

〇経済産業省は、2010年度の補助事業として、高齢者向けの宅配サービスや店舗までの交通手段を提供する民間事業者等の初期投資を補助する対策(買物が難しい高齢者対策)を講じた。予算は約3億円。この中では、1社の商店が1軒ごとに配達することは時間とコストがかさむため、たとえば、商店と介護事業者等が連携する等の多事業連携が積極的に行われることを期待。

＜主な取り組み事例＞

種類	地域	内容
移動販売	埼玉県吉野ヶ里町	社会福祉協議会が店から近い地域を巡回し、食料品や日用品を販売
	福井県	生活協同組合が買物の不便な地域で移動店舗サービス
宅配・買物代行	和歌山県	食品スーパーのオーナーが共同で、山間部を対象にネットスーパー
	群馬県成田市	商店街が高齢者からの電話で注文を受けて配達する共同組合サービス
	横浜市	市が委託した福祉事業会社が買物代行
	岡山市	岡通ホールディングス(岡山市)がグループ食品スーパーと共同で事業を組み合わせた宅配サービス
店舗	熊本県大津町	民生委員、住民ボランティアが市立の共同で買物代行サービス
	大分県中津市	JJA時の店舗で住民らの共同出資で店舗を運営
交通手段	三重県四日市市	路線バス駅近後、補助金やスーパーの協賛金を得て住民が生活バスを運営
	静岡県浜北市	連絡バス(浜北市)は住宅地と店舗間の無料送迎
福祉	北海道釧路市	町が高齢者の買物送迎

44

6-④. 高齢者の社会参加を中心に事例をみると

1-(4) 外出支援・人と人のつながり強化

■公益社団法人長寿社会文化協会(WAC)「全国コミュニティ・カフェ・ネットワーク(コミュニティ・カフェ全国連絡会)」(2010年度～)発足

〇「コミュニティ・カフェ/食堂」は地域社会の中で「たまり場」「居場所」になっているところの総称。全国に数万以上あり、

■東京都立川市・富士見町団地「老人祭り」(NPO老人祭り日本支部)

～世界29カ国で開催され、800万人が参加するお祭り

〇17年前、フランス(パリ)で起きた高齢者の孤独死の事件をきっかけに、人と人のつながりづくりの必要性を提唱するためにスタートしたお祭り。

〇団地の住民が自ら持参したものを食べながら歓談する。

〇高齢者対策とか少子化対策とか不要なしぼりはなく、世代を超えて誰もが交流し合えることのきっかけづくりを目指すもの

2-(4) 生涯現役・生き生き働く

■「いろいろり」(徳島県上勝町): つまもの(葉っぱ)ビジネス

■「高齢社」(東京都千代田区)、シニア専門人材派遣会社

〇定年退職した人達のなかで、気力・体力・知力を持った方に「働く場」と「生きがい」を提供したい、との考えからガス会社やその関係会社の業務を譲り受ける人材派遣会社を設立(2000年)

■「ナガホリ農園」(埼玉県上尾市)

〇年間を通じて小松菜を栽培(45ha)。パート従業員193名中、60歳以上177名(92%)。最高78歳。ほとんどホウイトカラーサラリーマン出身

■兵庫県伊丹市シルバー人材センター「みどり保育園」

〇シルバーパワーで育児を応援

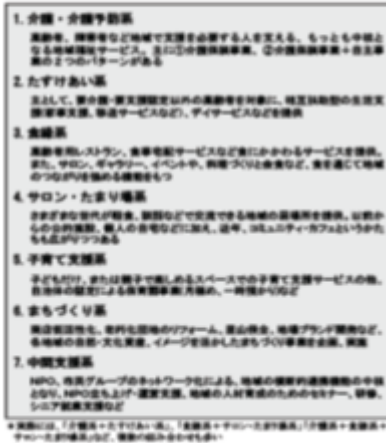
45

7-①. 高齢者の社会参加に関する現状の課題と対策視点

1. (次代の)高齢者のニーズに叶う参加・活躍場所の追究と創造

○高齢者のセカンドライフにおけるニーズは多様(就労、ボランティア、生涯学習・・・)。
参加・活躍のメニュー(選択肢)を地域社会としてどこまで提供できるか。

現在の地域密着型サービスの機能別パターン分類



<高齢者向けサービスの現状>

【図】現在の地域密着型サービスのイメージマップ

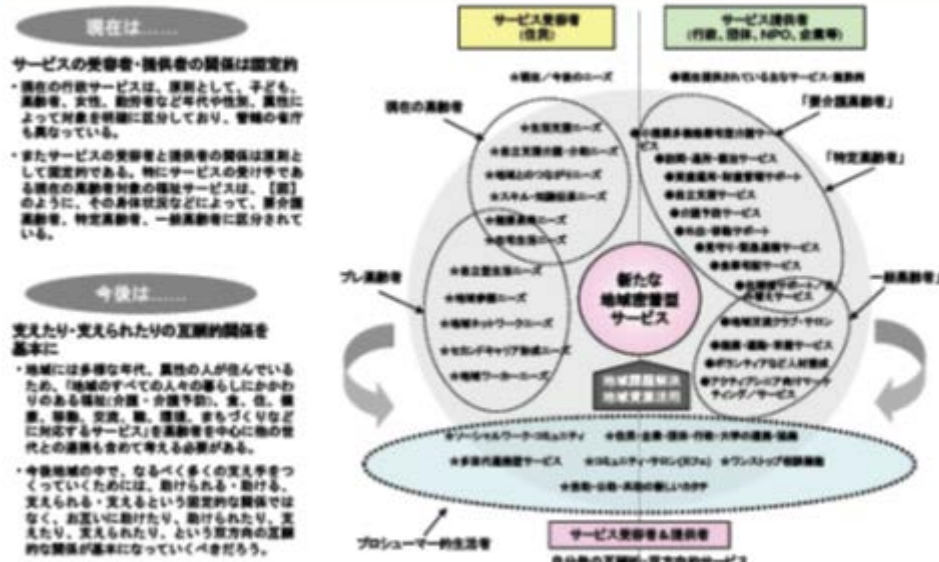


介護・介護予防系が高齢者中心、子育て支援系が子育て世代や子ども中心のサービスを提供しているのに対して、その他のサービスは多世代を対象としているが、なかでも食糧系と重なる部分が多いサロン・たまり場系は、地域の幅広い年代、多様な属性の人口が出入りし、交流する場として、大きな役割を果たしている。

資料: 社団法人 長寿社会文化協会 (WAC) 「地域密着型サービス調査研究(平成19年度厚生労働省老人福祉事業推進費補助事業)」報告書より

46

<参考>現状の地域密着型サービスの位置づけと今後の展望



資料: 社団法人 長寿社会文化協会 (WAC) 「地域密着型サービス調査研究(平成19年度厚生労働省老人福祉事業推進費補助事業)」報告書より

47

7-②. 高齢者の社会参加に関する現状の課題と対策視点

2. 「情報」の一元化の必要性

- より有効な施策を講じるためにも、また生活者の人生設計を手助けするためにも、高齢期の社会参加に関する点在・散在する情報を一元化することが望ましい。

3. 「参加者が限定的である(情報の非対称性)」という課題の克服

- 現在の社会参加の取り組みに参加する人、サービスを受ける人が限定的で固定化されている実態が散見される。国民に広く参加の機会の情報が行き渡らせるとともに、誰もがスムーズに参加できる仕組みの構築が求められる。

4. NPO他の社会貢献的事業の持続性の問題解決

- 取り組みを推進する多くの組織(NPO等)は事業・活動の持続性について常に不安視している実態が散見される。ヒト・お金の面で持続性を確保する(サポートする)仕組みの創造が必要である。

5. 国民の意識改革、社会教育(生涯学習)における積極的啓発の必要性

- 高齢期も元気に活躍し続ける、特に多世代を支える、共助を推進するにしても、制度・システムづくりとともに、教育啓発面の取組みも欠かせない。

48

7-③. 高齢者の社会参加に関する現状の課題と対策視点

6. コミュニティ創造における推進組織のあり方の改善

- 有志による単体組織の頑張りや、活動に対する助成(補助)をするだけでなく、地域住民、民間企業他、マルチステークホルダーを積極的に巻き込むことが必要であり非常に重要。
- そのことをより円滑に進める制度構築、政策・施策的指導を期待。

7. セカンドライフをナビゲートする拠点(主体)の必要性

- 現在の様々な取組みも「点」であり、情報も散在している。生活者からすれば、自らの努力の範囲で情報収集と参加に臨んでいる状況。セカンドライフの選択肢(可能性)を一元的にナビゲートするような拠点の設画と普及が強く望まれる。



49

＜参考＞高齢者の社会参加(含、まちづくり)【事例】

①内閣府（高齢社会対策）：「エイジレス・ライフ実践者及び社会参加活動事例」

※H22-24 年度に表彰された活動事例から一部抜粋

No.	推薦都道府県・指定都市・中核市名	グループ等の名称	(表彰)内容	構成員数	65歳以上の者の占
2012年度(H24)表彰活動 <計39件>					
1	宮城県(宮城郡七ヶ浜町)	友愛リーダー会	高齢者同士が互いに支え合う友愛活動に、平成5年から積極的に取り組み始め、今日まで続けてきた。近年、高齢者の孤立や認知症、介護問題等が増え続ける中で、平成19年度から再度積極的な取り組みを実施している。友愛リーダーが中心になり、閉じこもりや孤立を防止、一人暮らしや寝たきりの方に対する話し相手や日常生活援助等を行ってきた。平成23年3月11日の東日本大震災で甚大な被害を受けた際も、安否確認や仮設住宅への慰問を行っている。	24名	100%
2	東京都(港区)	チャレンジコミュニティ・クラブ	地域課題の解決に向けて、会員相互の情報交換と会員の地域リーダーとしての資質向上を目指すと共に、行政との協働のもと、地域コミュニティの育成や地域の活性化への活動を推進することを目的に活動を行っている。具体的には、(1)港区の区民協働への参画活動、(2)港区の社会福祉団体等への参画活動、(3)地域コミュニティ育成・活性化のための自主的学習と提言、(4)活動推進のための情報提供、(5)チャレンジコミュニティ大学への講師派遣、(6)その他前記の目的を達成するための活動、などを行っている。	約300名	約77%
3	東京都(足立区)	NPO法人あだち学習支援ボランティア「楽学の会」	“区民主導”による「あだち区民大学塾」を行政との協働のもとに、区民を対象として、区民講師を中心とした学習講座を企画・運営している。具体的には、公的機関等が開催する講座等への運営の連携・協働実施、現代的課題や地域的課題・地域活動を支援する内容の講座・講演会の企画運営(委託事業)、生涯学習ボランティアの養成及び研修、区内及び各地の社会教育関係団体との交流・ネットワークづくりなどを行っている。	70名	85%
4	東京都(八王子市)	八王子千人塾塾生の会	シニア世代の方が、自分の興味や関心のあるテーマ「食」「旅」「健康」「歴史」等について、図書館などにある豊富な資料を使って、塾生間で発表会や懇親会なども開いて交流を図りながら、グループあるいは個人で楽しく調べ学んでいる。当初、図書館主催の「千人塾」で調べ方などを1年間学び、以降は「塾生の会」を自主的に開いて、元気に活動している。	43名	95%
5	横須賀市	鴨居みかん台ボランティア会	住民自らが自分たちの声をアンケートで確認し、コミュニティの場所の確保と生きがいづくりを8年以上実践している。週1回の「みかん台井戸端(ミニディサービス)」と毎朝の「公園健康ラジオ体操」、子どもの登下校の見守り、ひとり暮らし高齢者の訪問や買い物代行など、個人の得意分野を活かした活動につなぐ。見知らぬ仲間と一緒に過ごす時間が地域の孤立化を軽減させ、役割を持って生活でき、ボランティアをする側の満足度も高い。	70名	71%
6	石川県(羽咋市)	邑知長寿会	世代間交流活動として、邑知保育園児とデイサービス施設を訪問し、慰問交流活動を実施しており、さらに、邑知小学校の児童を対象に、母の日や父の日プレゼント作りを行い児童との交流を行うとともに、家庭内での交流にも貢献している。また、代々受け継いで来た手法で、しめ縄に必要な材料をすべて会員で手作りし、神棚や玄関用のしめ縄を400個ほど作成して希望者へ配布しており、地域に密着している。	478名	100%
7	静岡県(藤枝市)	さわやかクラブふじえだ連合会	市の子ども会世話人連絡会の要請を受け、子ども達と手づくりのおもちゃを作って遊ぶ活動を15年以上続けている。その他、会員から募金を募り、25年以上にわたり「赤い羽根共同募金」や社会福祉協議会の善意銀行への寄附を継続して行っている。会員向けには、30年間、書や絵画、手工芸などの作品の展示会を企画し、生きがいづくりの場としている。	6,058名	100%
8	神戸市	KOBE在宅ケア・ボランティアグループ ぽほえみ	在宅ケアボランティア養成講座の修了生により結成されたグループだが、現在は時代の流れに沿って社会福祉施設の行事協力の他、障がい者の外出介助や子育て支援を中心とした活動を行っている。活動は30年の長きにわたり、グループ全体としても積極的な活動に取り組んでいる。市内のボランティアグループの草分けとして活動を続けており、地域福祉の推進に貢献している。	172名	80%
9	島根県(邑智郡美郷町)	美郷町長寿大学卒業生会	5小学校の統合を機に、廃校となった地域の活性化につながることを期待して、地域で「古き遊びのふれあい道場」を実施し、高齢者の子どもの頃の遊び、古き物づくりを伝承し、子どもたちとの世代間交流を図っている。この「ふれあい道場」では、栄養士らによる食育の重要性にも学ぶなどである。また、この活動の一環として、銭太鼓を作成し、子どもと保護者が一緒に、地域とのふれあい、親子のかかわりを重視することにより、青少年の健全育成に力を入れている。この銭太鼓は、毎年、小学校の学習発表会や、チャリティーショーで発表している。	122名	81%
10	高知県(須崎市)	須崎市曜日・木曜市販売組合	須崎市曜日・木曜市組合は、大正時代から続いている朝市を運営するグループである。毎週日曜日・木曜日の早朝から正午まで、農業や商業を営む高齢者が、須崎市街地の街路の露地で、野菜、果物、海産物、加工食品、植木、雑貨品等を販売している。利用者も高齢者が多く、出店する高齢者の就労と生きがいの場になっていると共に、閉じこもりの予防や世代間交流、農産物と市街地の文化交流、情報交換の場としての役割を果たしている。	182名	100%
11	広島市	大毛寺白寿クラブ	年間475回(平成22年度)も友愛訪問活動を行うに当たり、ひとり暮らし高齢者などそれぞれ相手の状況に応じて、訪問の回数や方法、担当者等を決め、きめ細かい対応を行っている。また、友愛訪問活動に際し、クラブの動向や講演会などの内容報告、行事などにまつわるエピソードなどをまとめた会報「白寿ニュース」を作成するなど、地域に密着した情報の発信に取り組んでいる。	310名	100%
12	宮崎県(都城市)	都城市高齢者クラブ連合会保健体育部会	高齢者が、気軽に楽しい健康づくりができるよう、ミニボウリングを取り入れ、理解しやすいルールを考案など普及活動に努めた。90歳以上の高齢者や身体の不自由な人でもプレー可能であるため次第に普及し、現在では都城市全域で高齢者のミニボウリングが盛んである。手の不自由だった車いすの人が、ミニボウリングを始め手が動くようになるなど、大きな成果をあげるとともに、子供達との交流など、地域の活性化にも寄与している。	連合会役員数 49名	連合会役員 98%
2011年度(H23)表彰活動 <計27件>					
1	群馬県(富岡市)	寝たきり予防の会	いつでも、どこでも、誰にでもできる「寝たきり予防体操」の普及を目的として活動している。一般市民を対象とした講習会を開催するほか、自治体と連携して高齢者健康教室や介護予防サポーター教室に参加したり、子育て支援を担うNPOとの交流なども行っている。また、健康、医療などについての学習も行い、指導者、普及者の養成にも力を入れている。	64人	
2	東京都(江戸川区)	江戸川シニアパソコン・ネットワーククラブ	本会は、パソコン関係の情報交換及び技術の向上、会員相互の親睦を深め、地域社会に貢献することを目的としている。主な活動内容は、シニア向けのパソコン講座の開催である。基本操作からワードやエクセル等のソフトウェアの使い方、デジカメの活用術まで幅広いメニューを提供している。更に、会員相互だけでなく、60歳以上の区民を対象にした「初めてのパソコン教室」を年6回開催。毎回、定員を大幅に上回り、人気教室として多くのシニアから支持を受けている。	462人	

3	横浜市	桂山クラブ	桂山クラブは、シニアクラブ(老人会)としての活動である会員の趣味・健康に関する活動に加えて、社会参加活動を組織的・継続的に行なっている。活動対象は幼稚園(保育園)、小学校、中学校、他シニアクラブ、そして自治会で、活動は延2,800人(全活動は延17,300人)である。具体的には自治会地域の刊行物配布、公園清掃、歩道橋清掃、学校行事、サロン活動など。	493人
4	石川県(白山市)	宮保地区老友会	市の要請で、公共の場所に苗を配付し、幼・保・小・中学校などで栽培の指導を実施。さらに、用土の配合を行い地区住民希望者に配付し、市を代表する「あさがお」や「菊」作りを通し、美しい町づくりに貢献している。また、栽培講習会を実施し、苗を配付した家庭を巡回して、必要に応じ指導もしている。朝顔展や菊展を開催し、成果を競いながら花づくりを楽しんでおり、市主催の千代女朝顔展でも、上位に入賞している。	303人
5	姫路市	太尾生涯クラブ	地元の町内5箇所に、花壇・プランターを整備し、市配布の地域緑化用草花を植栽。花壇・プランターの植栽準備(除草、耕し、施肥等)、植栽後の灌水、草引き、花柄つみなど、1年中花の世話をしている。この活動は15年間継続しており、共同作業を通じての参加者の連帯感が高まっている。また、地域美化活動に貢献するとともに、道行く人々に潤いを与えている。	155人
6	山口県(宇部市)	島五十路会	閉じこもり予防、世代間交流のため、ラジオ体操による健康づくりを、年間を通じて実施しており、年間継続している。また、自分たちの使う道路を美しくするため、市の企画するピカロード里親制度に登録、週一回の吸い殻拾いや、年間4回の除草作業など、環境美化活動にも尽力。他にも、週一回、謡曲の稽古を行い、会員相互の親睦と健康の維持に努めている。	43人
7	熊本県(荒尾市)	桜ゆりかご会	童謡の持つ優しさ、温かさを子ども達に伝えたいと始まった活動で、市内の小学校(3・4年生対象)と年間5校程度交流を続けており、24年たった今も最初の想いを大事に子ども達に童謡を伝えていく。その他にも数々の演奏会やイベントにも参加して女性コーラスとして頼まれていく。また、週1回の練習も会の最高齢である82歳の人が指揮をして、和気あいあいと健康で楽しく歌って活動を長く続けている。	58人
8	鹿児島県(薩摩川内市)	清色婦人ボランティアグループ	地区婦人会を母体にボランティア活動を約30年行ってきた。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会づくりを目指して、福祉施設での交流活動やふれあい活動の拠点としての「ふれあいサンキューサロン」の開設と自主運営、高齢者への「愛の手作り弁当」の配布や声かけ訪問、「長寿マスコット和紙人形」の製作・贈呈や国内外での災害発生時の募金活動など、多岐にわたる活動に毎年取り組んでいる。	93人
9	北九州市	穴生学舎クッキングボランティアの会	高齢者のための研修施設「穴生学舎」で学んだ有志により発足。地域の一人暮らし等の高齢者を対象に、高齢者の生きがい、ふれあい、健康づくりを目的とした「穴生学舎ふれあいサロン〜こもれ陽の部屋〜」を月に2回開催している。サロンでは看護士資格を持つ会員による健康相談や手作りの昼食を提供するふれあい昼食会、会員によるハンドベル演奏やマジック等のレクリエーションを実施している。	65人

2010年度(H22)表彰活動 <計37件>

1	秋田県(大仙市)	大仙市交流プラザ「のびのびらんど」	寂れた市中心部の駅前通に、子どもからお年寄りまで誰でも気軽に立ち寄れる市民の居場所として、空き店舗を活用。大晦日と元日を除く毎日午前10時から午後5時まで、2人以上のボランティアが待機し、来客の対応にあたる他、毎月11種の定例イベントと、季節ごとの企画イベントを実施。イベントに多くの市民が集い、世代間交流など活気に満ちた活動を展開している。	51
2	茨城県(神栖市)	神栖シルバーリハビリ体操指導士会	茨城県で養成しているシルバーリハビリ指導士の団体であり、高齢者自身の健康と地域の生活能力の維持や介護力を高めるため、体力測定や脳トレを織り交ぜた体操教室を実施している。平成18年度月2回2教室から始まった本事業も活動回数を増やし、現在は年間参加者総数9,200名、延べ475回(1人あたり33回平均実施)になっており、今後も更に地域で活躍していくと見込まれる。	70
3	石川県(珠洲市)	直長生会	地元の特産大豆やもち米、その他野菜などの栽培・加工を地区の小学生へ体験させるなど、積極的に交流活動を行っている。また、収穫物は学校給食にも活用されており、食育にも大いに役立っている。そのほか、子ども達に音遊びを体験させたいとの思いから、おはじき、けん玉、あやとりのほか、わら細工や紙すきからの卒業証書づくりも一緒に進めており、子どもの成長や社会教育に尽力している。	99
4	福井県(鯖江市)	SBE80!	平均年齢80歳の女性グループ12人が、市の理学療法士が考案した転倒予防体操を習得し、自らの健康の保持増進に努めている。平成17年からは、市内の老人クラブやいきいきサロンに集う高齢者たちへの普及活動や、保育園や児童館などで幼児たちとの交流事業に取り組んでいる。最近では、新たなメンバー3人が加わり、新曲の振り付けもマスターして新ダンスユニットとして活躍している。	16
5	三重県(伊勢市)	お伊勢さん観光ガイドの会	伊勢神宮外宮を中心に、ボランティア(移動にかかる交通費、有料施設の入館料等除く)で観光ガイドを行っている。事前予約の案内だけでなく、毎日約1~2名程度が伊勢市観光協会の観光案内所に常駐し、事務所内での観光案内及び当日のガイド申込への対応を行い、年間平均約1,850件を案内している。また、新たなメンバーを募集した際には、現在のメンバーが案内をしながら指導をし、後輩の育成も行っている。	56
6	兵庫県(豊岡市)	但馬高齢者生きがい創造学院	昭和54年の設立以来30年にわたって、創作活動を通じた高齢者の生きがいづくりの場として活動を続けている。設立当初は県の財政的支援を受けたが、3年経過後の昭和57年からは、学院生の授業料等による自主運営となり、現在は陶芸、木彫、盆栽、麦わら細工、書道、表具、俳句、短歌、絵画、民謡、編み物、囲碁、写真、謡曲、篆刻、ダンス、パソコンの17講座24教室で60歳から95歳の557名が活動している。	557

7	姫路市	姫路市立好古学園大学校ボランティアセンター	60歳以上の市民の学習の場である好古学園大学校の学生で組織した総合ボランティアグループ。メンバーがそれぞれの得意な分野で小グループを作り、福祉施設の慰問、手芸、俳句、囲碁・将棋等の指導、地域のイベントの手伝いなど幅広い活動を続けている。平成21年度の活動回数は約500回にのぼり、地域社会にて大きな貢献をしている。	2,512
8	山口県(下関市)	下関老人大学受講生友の会	老人大学の受講生が、講義・学習で得た知識を生かし、健康づくり・スポーツ活動や文化教養活動を行っている。会員相互の交流を深める地区別懇談会の他、体育部・研修部・福祉部・演芸部の4つの専門部で活動。社会奉仕を行う福祉部や福祉施設での発表を行う演芸部を中心に地域にも積極的に貢献。また、市内の施設を訪問し、入所者への語りかけ活動等も展開している。	337
9	熊本県(荒尾市)	助丸区花菖蒲愛好会	休耕田を利用して地域の憩いの場を作ろうと始められた活動で、年間を通じて除草作業や苗の管理等を行っている。花が咲く6月には花菖蒲祭りを開催する。今年も多くの人に楽しんで貰おうと、81歳の女性会員が写真を撮り、祭りのチラシを作成するなど、一人一人の知恵と技術を活かした花菖蒲園作りを行っている。散歩道として地域の交流の場となり、会員全員が65歳以上だが元気に活動することで、介護予防活動にも結びついている。	35

②社会福祉協議会：報告書「生活支援サービスが支える地域の暮らし」（2011年3月）



- 特定非営利活動法人 ハートム[配食サービス・集い・助け合い](宮崎県・宮崎市).....
市域を越えた地域活動によるふれあいづくり
- 生活協同組合しまね[助け合い・集い](高知県・松江市).....
組合員を越えた支え合い「おたがいでさま」
- 特定非営利活動法人 ねっとわあくアミダス[助け合い・集い・移送](静岡県・浜松市).....
地域の課題解決に向けた連絡会議と担い手の養成、人材派遣
- 特定非営利活動法人 めくもり福祉会たんぼぼ[集い・助け合い・グループホーム等・就労支援](埼玉県・飯沼市).....
担い手の養成における多様なアプローチ
- 特定非営利活動法人 あかねグループ[食事・集い・その他](宮城県・仙台市).....
市内7団体による連携を通じた活動の展開
- 特定非営利活動法人 かべ工房村[集い・助け合い](広島県・広島市).....
地域に根ざした実践の展開
- 特定非営利活動法人 かながわ福祉移動サービスネットワーク[移動](神奈川県・横浜市).....
市民参加型でコミュニティバスを走らせよう
- 特定非営利活動法人 地域福祉サポートちた[その他](愛知県・知多市).....
広域な連携を活かした多様なネットワーク
- 社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会[その他](新潟県・新潟市).....
拡大し続ける緩やかなネットワーク活動
- 社会福祉法人 立川市社会福祉協議会
立川市南部西ふじみ地域包括支援センター[その他](東京都・立川市).....
地域ケアの基盤づくりを目指した多様な機関による連携

③東京都：報告書「高齢者見守り活動・事業事例集」（2011年3月）



1、見守り活動をしよう

中央区	月島二之部あんしん協力員会
足立区	千住仲町まちづくり協議会 熟年いきいき部会
練馬区	練馬区老人クラブ連合会
東大和市	見守り・声かけ活動地区委員会(東大和市社会福祉協議会)
あきる野市	ふれあい福祉委員会(あきる野市社会福祉協議会)
三鷹市	ほのぼのネット活動(三鷹市社会福祉協議会)
武蔵村山市	小地域福祉組織化事業(武蔵村山市社会福祉協議会)
大田区	多摩川芙蓉ハイソシニアクラブ
荒川区	傾聴ボランティアグループ「ダンボの会」
江東区	都賀亀戸9丁目2号自治会
立川市	大山ママさんサポートセンター(大山MSC)
足立区	ころつえシニア相談所
世田谷区	ふれあいサービス(世田谷区社会福祉協議会)
八王子市	片倉台福祉ネットワーク
国立市	NPO 法人すずらん
武蔵村山市	武蔵村山市商工会・村山園地中央商店街
立川市	高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会
足立区	あだち配食サービス協力店連絡会

2、見守りのネットワークを作ろう

板橋区	板橋区高齢者あんしん協力店
日野市	日野市認知症徘徊高齢者SOSネットワーク
練馬区	練馬区認知症高齢者徘徊対策ネットワーク事業
中野区	中野区地域支えあいネットワーク
渋谷区	渋谷区セーフティネット見守りサポート事業
墨田区	墨田区文花高齢者みまもり相談室

3、つながりを作ろう

足立区	あだち団塊ネット「サエラ」
西東京市	きらっとシニア倶楽部
武蔵野市	ボランティアセンター武蔵野 おとば実行委員会
江東区	ニューライフマンション木場自治会
国分寺市	黒鷲自治会
東久留米市	コンフォール東久留米管理組合
稲城市	ふれあいセンター平尾
世田谷区	茶論 ONECOIN (地域共生のいえづくり支援事業)
多摩市	ぶらっとラウンジ
西東京市	いきいき泉
北区	高齢者ふれあい食事会

資料2-1 【全国】アンケート調査票

2014年1月

高齢期のライフスタイルと社会活動に関するアンケート

東京大学高齢社会総合研究機構/セカンドライフ就労研究チーム

各設問の指示に沿って、該当する番号に○をするか、数字等を記入してください。

■1■ あなたご自身について伺います

Q1 あなたの性別を教えてください

1. 男性	2. 女性
-------	-------

Q2 あなたの年齢を教えてください

<input type="text"/>	<input type="text"/>	歳
----------------------	----------------------	---

Q3 あなたの婚姻状況について教えてください（1つだけ）

1. 配偶者がいる	2. 死別した	3. 離別した	4. 未婚である
-----------	---------	---------	----------

Q4 あなたにはお子さんがいますか（1つだけ）

1. いる	2. いない（いたが死別した）
-------	-----------------

Q5 あなたと同居している（同じ敷地内に住んでいる）のは、次のうちどなたですか（いくつでも）

1. 配偶者	4. あなたの父	7. 配偶者の母	10. 孫
2. 子ども	5. あなたの母	8. 兄弟・姉妹	11. その他
3. 子どもの配偶者	6. 配偶者の父	9. 祖父母	12. 同居している人はいない

Q6 あなたの健康状態は次のうちどの状態に近いですか（1つだけ）

1. よくない	2. あまりよくない	3. どちらともいえない	4. まあよい	5. とてもよい
---------	------------	--------------	---------	----------

Q7 経済的に日々の暮らしに困ることがありますか（1つだけ）

1. 困っている	2. 少し困っている	3. どちらともいえない	4. あまり困っていない	5. 困っていない
----------	------------	--------------	--------------	-----------

Q8 老後の生活資金についてどれくらいの蓄えがありますか。（1つだけ）

1. 十分な蓄えがある	2. 少しの蓄えはある	3. 余裕はない（最低限の暮らしを営める程度）	4. 蓄えは全くない（将来、困窮する可能性がある）
-------------	-------------	-------------------------	---------------------------

Q9 あなたのお住まいは次のどれにあてはまりますか。(1つだけ)

1. 一戸建持ち家	5. 公営の賃貸住宅
2. 分譲マンション	6. 社宅・官舎
3. 民間賃貸アパート・マンション	7. 高齢者向け住宅・施設
4. UR都市機構、住宅供給公社の賃貸住宅	8. その他 ()

Q10 これまでに収入を伴う仕事をしましたか。また、現在収入を伴う仕事をしていますか(1つだけ)

1. これまで働いたことはない
2. 以前は働いていたが、現在は働いていない
3. 定年退職を経験せず(または定年がなく)現在も働いている
4. 定年退職を経験して、現在は現役時代とは異なる仕事をしている
5. 定年とは関係なく様々な仕事を経験し、現在も働いている
6. いずれも該当しない

(Q10で3.4.5と回答した方)

Q10SQ1 現在、どのような雇用形態で働いていますか。複数の仕事をしている場合は、収入のもっとも多いものをお答えください(1つだけ)

1 正社員・正職員	2 契約社員・嘱託	3 パート・アルバイト
4 派遣社員	5 自営業(業務委託を含む)	6 家族従業
7 その他 ()		

(Q10で3.4.5と回答した方)

Q10SQ2 現在の仕事の内容(業種)はどのようなものですか。複数の仕事をしている場合は、収入のもっとも多いものに○をつけてください(1つだけ)

1 農林漁業	2 鉱業	3 建設業	4 製造業
5 電気・ガス・熱供給・水道業	6 情報通信業	7 運輸業	
8 卸売・小売業	9 金融・保険業	10 不動産業	11 飲食店、宿泊業
12 医療・福祉	13 教育・学習支援	14 郵便・保険業	15 サービス業
16 公務	17 その他 ()		

(Q10で2.3.4.5と回答した方)

Q10SQ3 これまで就いた仕事での最高役職をお答えください(1つだけ)

1 会長、社長、代表取締役、経営者、顧問・相談役	2 取締役・監査役など役員クラス
3 部長クラスの管理職	4 課長クラス
5 係長・主任クラス	
6 一般社員クラス	7 その他(具体的に:)

Q11 次におけるそれぞれの項目について、あなたができることをお知らせください(それぞれ1つだけ)

	はい	いいえ
1. バスや電車を使って一人で外出ができますか	1	2
2. 日用品の買い物ができますか	1	2
3. 自分で食事の用意ができますか	1	2
4. 請求書の支払ができますか	1	2
5. 銀行預金、郵便貯金の出し入れが自分でできますか	1	2
6. 年金などの書類が書けますか	1	2
7. 新聞などを読んでいますか	1	2
8. 本や雑誌を読んでいますか	1	2
9. 健康についての記事や番組に関心がありますか	1	2
10. 友達の家を訪ねることがありますか	1	2

11. 家族や友達の相談にのることがありますか	1	2
12. 病人を見舞うことができますか	1	2
13. 若い人に自分から話しかけることができますか	1	2
14. 町内会・自治会で活動していますか	1	2
15. 地域のお祭りや行事などに参加していますか	1	2
16. 奉仕活動やボランティア活動をしていますか	1	2
17. 自治会やグループ活動の世話役や役職を引き受けることができますか	1	2
18. 携帯電話やパソコンのメールができますか	1	2
19. 携帯電話を使うことができますか	1	2
20. ATMを使うことができますか	1	2
21. ビデオやDVDプレイヤーの操作ができますか	1	2
22. 教育・教養番組を視聴していますか	1	2
23. 外国のニュースや出来事に 관심이ありますか	1	2
24. 美術品、映画、音楽を鑑賞することができますか	1	2
25. 健康に関する情報の信ぴょう性について判断できますか	1	2
26. 病人の看病ができますか	1	2
27. 孫や家族、知人の世話をしていますか	1	2
28. 生活の中でちょっとした工夫をすることができますか	1	2
29. 詐欺、ひったくり、空き巣等の被害にあわないように対策をしていますか	1	2

Q12 あなたは何をしているときが楽しいですか。次にあげるそれぞれの事項について、楽しさの度合いをお答えください

	1. あてはまる	2. ややあてはまる	3. どちらともいえない	4. あまりあてはまらない	5. あてはまらない
1. (1) 自らすすんで友達を作るほうだ	1	2	3	4	5
2. 友人とは頻りに会ったり、電話やメールを交わすほうだ	1	2	3	4	5
3. 健康を維持するために、積極的に運動やスポーツをしている	1	2	3	4	5
4. 楽しみが増えるので、運動やスポーツをしている	1	2	3	4	5
5. 趣味や教養の、習得レベルを高めるようにしている	1	2	3	4	5
6. 食用油や飲料などの特定保健用食品を積極的に取り入れている	1	2	3	4	5
7. 食用油や飲料などの特定保健用食品に興味がある	1	2	3	4	5
8. 住まいをよくするために、お金をかけるようにしている	1	2	3	4	5
9. 気がかりや不安があっても、くよくよしないほうである	1	2	3	4	5
10. 自分は精神的に強いほうだと思う	1	2	3	4	5
11. 今よりも、もっと健康になるように努力している	1	2	3	4	5
12. 健康維持のために、長い間続けていることがある	1	2	3	4	5
13. 自分の健康状態に自信がある	1	2	3	4	5
14. 同世代と比較すると、体力に自信があるほうだ	1	2	3	4	5
15. 近頃は、気力の衰えを感じることもある	1	2	3	4	5
16. 日頃から、気がかりや不安が多い	1	2	3	4	5

Q13 同居・別居を問わず、あなたのご家族の中に、高齢や病気のため、身の回りの世話（介護）を必要とする人がいますか（1つだけ）

1. 介護を必要とする家族がいる	2. 介護を必要とする家族はいない
------------------	-------------------

Q14 現在、家事の負担はどのくらいありますか（1つだけ）

1. 非常に負担がある	2. 少し負担がある	3. あまり負担はない	4. 全く負担はない
-------------	------------	-------------	------------

Q15 現在、自由になる時間はどのくらいありますか（1つだけ）

1. 十分にある	2. まあある	3. あまりない	4. 全くない
----------	---------	----------	---------

Q16 あなたは現在の生活に満足していますか（1つだけ）

1. とても満足している	2. 満足している	3. どちらともいえない	4. 不満である	5. とても不満である
--------------	-----------	--------------	----------	-------------

Q17 あなたの人生を振り返って満足できますか（1つだけ）

1. そう思う	2. どちらともいえない	3. そう思わない
---------	--------------	-----------

■2■あなたの普段の生活や周囲の方との交流状況について伺います

Q18 あなたは日頃、どのような生活をおくっていますか。次の中から最も近いものを1つ選んでください。（1つだけ）

1. 仕事中心に過ごしている	4. 外に出て、自分の好きなことをして過ごすことが多い
2. 家事や介護等、家族の対応に追われて過ごしている	5. 家の中で、自分の好きなことをして過ごすことが多い
3. 地域の活動（ボランティアや自治会活動等）を中心にご過ごしている	6. いずれも該当しない

Q19 あなたは何をしているときが楽しいですか。次にあげるそれぞれの事項について、楽しさの度合いをお答えください

	1. とても楽しい	2. まあ楽しい	3. どちらともいえない	4. あまり楽しくない	5. 楽しくない	6. 該当しない
配偶者との会話・団楽	1	2	3	4	5	6
子どもとの会話・団楽	1	2	3	4	5	6
孫との会話・団楽	1	2	3	4	5	6
友人との会話・団楽	1	2	3	4	5	6
仕事	1	2	3	4	5	6
地域の活動	1	2	3	4	5	6
趣味やスポーツ、習い事	1	2	3	4	5	6
食事	1	2	3	4	5	6
買物	1	2	3	4	5	6
旅行	1	2	3	4	5	6
TVやビデオ、映画鑑賞	1	2	3	4	5	6
インターネットの閲覧、交流	1	2	3	4	5	6
新聞や雑誌を読む、読書	1	2	3	4	5	6

Q20 あなたは日頃、家事としての買物以外でどのくらいの頻度で外出しますか（1つだけ）

1. 毎日2回以上	3. 週4～5回程度	5. 週1回程度
2. 毎日1回程度	4. 週2～3回程度	6. 週1回未満

	1日1回以上	2～3日に1回程度	週に1回程度	月に2～3回	月に1回程度	年に数回	年に1回以下
1. 配偶者（内縁関係を含む）	1	2	3	4	5	6	7
2. 子ども	1	2	3	4	5	6	7
3. 両親（義理の親を含む）	1	2	3	4	5	6	7
4. 兄弟・姉妹	1	2	3	4	5	6	7
5. その他の家族・親族	1	2	3	4	5	6	7
6. 近隣住民（血縁関係のある人を除く）	1	2	3	4	5	6	7
7. 同級生などの学生時代の友人・知人	1	2	3	4	5	6	7
8. 勤務先の同僚や仕事を介した友人・知人	1	2	3	4	5	6	7
9. ソーシャルネットワーク（SNS）などインターネット上で知り合った友人・知人	1	2	3	4	5	6	7
10. その他の友人・知人	1	2	3	4	5	6	7

■3■ あなた自身の将来に対するお考えを伺います

Q24 あなたは今後の暮らし方について、具体的な計画を立てていますか（1つだけ）

※ここでいう「暮らし方」とは、「どこで誰と暮らすか、普段どんな活動をするか、お金の対策を講じているか等、生活全般の計画」を指します。

1. 具体的にたてている	3. 今は考えていない（そのうち考えるつもり）
2. 大雑把にはたてている	4. 特に計画を立てるつもりはない（成り行きに任せる）

〔Q24で1.または2.の方に〕

Q24SQ お考えの計画は、おおよそ何歳ごろまでのこととお考えですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください（いくつでも）

1. 現役生活を引退するころまで	6. 外出や旅行を苦にしない程度には元気なころまで
2. 子供が独立するころまで	7. 普段の生活に介護が必要になるころまで
3. 配偶者が仕事を辞める頃まで	8. 死後の準備まで
4. おおよそ70歳ごろまで	9. その他（ ）
5. おおよそ80歳ごろまで	

Q25 あなたは将来、どのような住まい方をしたいと考えていますか。次の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください（1つだけ）

1. 現在の住居で最期まで暮らしたい	3. いろいろな住居を住み替えながら最期まで暮らしたい
2. いずれ住居を定めて（転居して）そこで最期まで暮らしたい	4. 特に考えていない

Q26 あなたは将来、どのような場所で暮らしたいと思いますか。次の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください（1つだけ）

1. どちらかと言えば都会暮らし	4. 都会と田舎を行き来する暮らし
2. どちらかと言えば田舎暮らし	5. 海外生活
3. 都会とも、田舎ともいえないところ暮らし	6. その他

Q27 あなたは将来（65～79歳の生活をイメージしてください）、どのような生活をおくっていると思いますか。次の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください（1つだけ）

1. 働けるうちはいつまでも働き続けている	4. 家族中心の暮らしを続けている
2. 働きたくはないがずっと働いている	5. 自由気ままに毎日自分の好きなことをしている (趣味やスポーツ、学習などを楽しむ生活等)
3. 地域の活動（ボランティアや自治会活動等）を中心にすごしている	6. 今は考えられない・わからない

Q28 次に挙げるような高齢期※の生き方（生活パターン）について、あなたはどのように思いますか。それぞれあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。（1つだけ）

※ここでの高齢期は、現役生活からリタイア後の10～15年程度の期間でお考えください。年齢としては65～79歳をイメージしてください。

	1. とても興味があり、ぜひ実現したい	2. 興味はある	3. どちらともいえない	4. あまり興味はない	5. 全く興味がない
1. 今までの暮らしを継続した平穏安定な生活	1	2	3	4	5
2. 地域にある既存の組織・団体に参加して、地域に貢献しながらの生活	1	2	3	4	5
3. 仲間と新たにNPOやボランティア活動を展開する生活	1	2	3	4	5
4. 働く子供世帯を家事や育児などでサポートする生活	1	2	3	4	5
5. 生涯現役で仕事をし続ける生活	1	2	3	4	5
6. 仲間と起業して仕事をし続ける生活	1	2	3	4	5
7. 独りで事業を立ち上げて仕事をし続ける生活	1	2	3	4	5
8. 趣味を仕事に活かす生活	1	2	3	4	5
9. 他人と共同生活する暮らし	1	2	3	4	5
10. 自然の中で暮らす生活	1	2	3	4	5
11. 本格的に農業を営む生活	1	2	3	4	5
12. 自給自足する生活	1	2	3	4	5
13. 転居しながら様々な地域での暮らしを楽しむ生活	1	2	3	4	5
14. ロングステイを含む海外での生活	1	2	3	4	5
15. 地域の人々と交流を深める生活	1	2	3	4	5
16. 夫婦で楽しみを追求し続ける生活	1	2	3	4	5
17. 親や子供、孫、兄弟姉妹など家族との絆を大切にしている生活	1	2	3	4	5
18. 配偶者を失った後は再婚する生活	1	2	3	4	5
19. 昔からの友人と楽しみを共有する生活	1	2	3	4	5
20. 多世代との交流を楽しむ生活	1	2	3	4	5
21. 異性との交流を楽しむ生活	1	2	3	4	5
22. 共通の趣味の仲間と楽しむ生活	1	2	3	4	5
23. 趣味を通じて社会参加を楽しむ生活	1	2	3	4	5
24. インターネット（SNS：ソーシャル・ネットワーキング・サービス等）で他人とのつながりを日々楽しむ生活	1	2	3	4	5

	1. とても興味があり、ぜひ実現したい	2. 興味はある	3. どちらともいえない	4. あまり興味はない	5. 全く興味がない
25. 生涯学習に励む生活（セミナーへの参加を含む）	1	2	3	4	5
26. 次世代に自分の経験・知識等を継承する生活	1	2	3	4	5
27. 次世代の人生設計をサポートする生活	1	2	3	4	5
28. 芸術（絵画や音楽等）を楽しむ生活	1	2	3	4	5
29. 旅行三昧の生活	1	2	3	4	5
30. 最終的には出家した生活	1	2	3	4	5

Q28S Q28 の選択肢以外で「こんな生活及び生き方をしたい」と思っていることがありましたら自由に記入してください（自由回答）

Q29 誰もがいずれは身体が弱っていきますが、あなたはそうした虚弱期の生活[※]について考えたことがありますか。次の中から1つ選んでください（1つだけ）

※虚弱期の生活とは、介護サービスが必要とまではならないものの、出かけることが困難になったり、日常の家事や買物等に支障が出る生活をイメージしてください

1. 考えたことが「ある」	2. 考えたことは「ない」
---------------	---------------

Q29S（Q29で「1」と回答したのみ）何歳頃考えましたか。

⇒（ ）歳頃

Q30 虚弱期の生活に対するあなたの考え方について最も近いものを次の中から1つ選んでください。（1つだけ）

1. 非常に不安である	4. 考えたことがない
2. 不安はあるが、何とかかなと思う	5. その他（ ）
3. 全く心配していない	

Q31 将来、配偶者との死別等で独り暮らしになる可能性がありますか（1つだけ）

1. ある	2. ない	3. すでに独りである	4. わからない
-------	-------	-------------	----------

Q31S1（Q31で1と回答した人のみ）晩年に配偶者と死別等で独居になった後、あなたはどのように暮らしていこうと考えますか。次の中からあなたの該当するものを一つ選びなさい（いくつでも）

1. そのまま独りで暮らし続ける	4. 子どもの近くに引っ越す	6. 一緒に暮らす人を探す
2. 子どもを自宅に呼び寄せる	5. 共同生活型住宅や施設等に転居する	7. その他（ ）
3. 子どもの家に同居する		

Q31S2 晩年に配偶者と死別等で独居になったとき、誰を頼りに暮らしていきたいと思いますか。次の人の中から頼りにしたい順に3人まであげてください。（それぞれ1つ）

1. 子ども	5. 公共サービスで世話をしてくれる人	7. 自分（誰にも頼らない）
2. 兄弟姉妹	6. SNSなどのインターネットサービスを通じて知り合った友人	8. その他（具体的に： ）
3. 近所以外の友人		
4. 近所の友人		

優先順位 第1位 第2位 第3位

(全員に)

Q32 晩年に「独りで暮らす」ことについて、あなたはどのように考えますか (1つだけ)

5. 寂しいと思う	6. 気楽でよいと思う	7. どちらでもない
-----------	-------------	------------

Q33 あなたは将来、自分が孤立してしまう可能性があると思いますか (1つだけ)

※ここでの「孤立」とは家族他との同居の有無に関わらず、人との交流がほとんどなくなってしまった状態としてお答えください

1. とてもそう思う	2. そう思う	3. どちらとも いえない	4. そうは思わない	5. まったくそう は思わない	6. わからない
------------	---------	------------------	------------	--------------------	----------

Q34 あなたは将来、自分が孤立しないように、活動したり努力したりしようと思っっていますか (1つだけ)

1. とてもそう思 っている	2. そう思っ ている	3. どちらとも いえない	4. そうは思っ ていない	5. まったくそ うは思っ ていない	6. わからない
-------------------	----------------	------------------	------------------	--------------------------	----------

■4■ 高齢期の仕事及び社会活動に対する考え方等について伺います

【高齢期の就労】

Q35 あなたはいつまで働きたいですか (1つだけ)

※働き方については問いません (常勤～パートまで含みます)

1. 働けるうちはいつまでも	5. 70歳くらいまで
2. 85歳くらいまで	6. 65歳くらいまで
3. 80歳くらいまで	7. 60歳くらいまで
4. 75歳くらいまで	8. できればすぐにでも辞めたい (働きたくない)

Q36 高齢期に働くにあたって次に挙げる事項はあなたにとってどれくらい重要ですか (それぞれ1つ)

※ここでの高齢期は、現役生活からリタイア後の10～15年程度の期間でお考えください。年齢としては65～79歳をイメージしてください。

	非常に重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない
1. 自分の経験や能力、スキルを活かせること	1	2	3	4	5
2. 自分が経験してきた仕事(業種、職種)であること	1	2	3	4	5
3. 自分のペースで働けること(出勤及び勤務時間が柔軟)	1	2	3	4	5
4. 自宅で働けること(テレワークが可能なこと)	1	2	3	4	5
5. 職場までの距離(自宅から近いこと)	1	2	3	4	5
6. 働く職場の雰囲気	1	2	3	4	5
7. 経営者や仲間との人間関係	1	2	3	4	5
8. 自分の体力との関係(勤務時間や労働の負荷量)	1	2	3	4	5
9. 自分の健康の維持増進につながること	1	2	3	4	5
10. 賃金水準	1	2	3	4	5
11. ボランティア(無償)ではなく仕事(有償)であること	1	2	3	4	5
12. 家族の理解と承諾	1	2	3	4	5
13. 自分の立場が過去の役職に比べて下がらないこと	1	2	3	4	5

3. 婦人会	13. 協同組合（ワーカーズコープ等）
4. 学校の父母会（PTA活動）	14. 宗教団体
5. 防災会・自主防災組織	15. 生涯学習（社会人向け大学、高齢者大学等）
6. 無尽講・頼母子講・模合	16. 習い事のグループ
7. 市民活動団体	17. 趣味やスポーツ、遊び仲間のグループ
8. NPO・ボランティア団体	18. インターネット上でのコミュニティ
9. 同業者の団体、農協、労働組合	19. 学校や職場の同窓会、同期会
10. 生協・消費者団体	20. その他（いくつでも：）

(Q38 で 2 を選んだ方のみ)

Q38SQ3 あなたが今後、参加したいと思っている活動・団体はどれですか（いくつでも）

1. 自治会、町内会	11. ハローワーク
2. 老人会	12. シルバー人材センター
3. 婦人会	13. 協同組合（ワーカーズコープ等）
4. 学校の父母会（PTA活動）	14. 宗教団体
5. 防災会・自主防災組織	15. 生涯学習（社会人向け大学、高齢者大学等）
6. 無尽講・頼母子講・模合	16. 習い事のグループ
7. 市民活動団体	17. 趣味やスポーツ、遊び仲間のグループ
8. NPO・ボランティア団体	18. インターネット上でのコミュニティ
9. 同業者の団体、農協、労働組合	19. 学校や職場の同窓会、同期会
10. 生協・消費者団体	20. その他（いくつでも：）

(Q38 で 3 を選んだ方のみ)

Q38SQ4 現在、地域活動に参加していない理由は何ですか（いくつでも）

1. 仕事で忙しいため（時間がないため）	4. そもそも地域活動に魅力や必要性を感じないため
2. 地域活動の情報がないため（わからないため）	5. 健康状態がよくないため
3. 地域活動の情報はあるが魅力的な活動がないため	6. その他（）

Q39 あなたはそれぞれの団体について、そもそもどれくらい知っていますか（1つだけ）

	具体的によく知 っている	域にもある て自分の住む地 存在は知ってい る	存在は知ってい るが自分の住む 地域にあるか知 らない	知らない・わか らない
1. 自治会、町内会	1	2	3	4
2. 老人会	1	2	3	4
3. 婦人会	1	2	3	4
4. 学校の父母会（PTA活動）	1	2	3	4
5. 防災会・自主防災組織	1	2	3	4
6. 無尽講・頼母子講・模合	1	2	3	4
7. 市民活動団体	1	2	3	4
8. NPO・ボランティア団体	1	2	3	4
9. 同業者の団体、農協、労働組合	1	2	3	4
10. 生協・消費者団体	1	2	3	4
11. ハローワーク	1	2	3	4
12. シルバー人材センター	1	2	3	4
13. 協同組合（ワーカーズコープ等）	1	2	3	4

14. 宗教団体	1	2	3	4
15. 地域内の生涯学習（社会人向け大学、高齢者大学等）	1	2	3	4
16. 地域内の習い事のグループ	1	2	3	4
17. 地域内の趣味やスポーツ、遊びのグループ	1	2	3	4

Q40 あなたはそれぞれの団体について、どれだけ地域社会のために役立っている（必要であり重要）と評価できますか。あなたのお考えに合うものを選んでください（1つだけ）

	非常に役立っている	まあ役立っている	ない	どちらともいえない	あまり役立っていない	全く役立っていない
1. 自治会、町内会	1	2	3	4	5	
2. 老人会	1	2	3	4	5	
3. 婦人会	1	2	3	4	5	
4. 学校の父母会（PTA活動）	1	2	3	4	5	
5. 防災会・自主防災組織	1	2	3	4	5	
6. 無尽講・頼母子講・模合	1	2	3	4	5	
7. 市民活動団体	1	2	3	4	5	
8. NPO・ボランティア団体	1	2	3	4	5	
9. 同業者の団体、農協、労働組合	1	2	3	4	5	
10. 生協・消費者団体	1	2	3	4	5	
11. ハローワーク	1	2	3	4	5	
12. シルバー人材センター	1	2	3	4	5	
13. 協同組合（ワーカーズコープ等）	1	2	3	4	5	
14. 宗教団体	1	2	3	4	5	
15. 地域内の生涯学習（社会人向け大学、高齢者大学等）	1	2	3	4	5	
16. 地域内の習い事のグループ	1	2	3	4	5	
17. 地域内の趣味やスポーツ、遊びのグループ						

Q41 あなたが高齢期に新たに活動を始める場合、次に挙げる活動に対してどれだけ参加意欲がありますか

※ここでの高齢期は、現役生活からリタイア後の10～15年程度の期間でお考えください。年齢としては65～79歳をイメージしてください。

	非常にある	まあある	い	あまり興味はない	全く興味はなく参加しない	わからない
1. 雇用されて働くこと	1	2	3	4	5	
2. 起業して働くこと	1	2	3	4	5	
3. ボランティアで働くこと	1	2	3	4	5	
4. 協同組合に属して働くこと	1	2	3	4	5	
5. 地域に貢献する活動（貢献する活動であれば何でも）	1	2	3	4	5	
6. まちづくり活動	1	2	3	4	5	
7. 福祉関係のサポート活動	1	2	3	4	5	
8. 地域住民のつながりを築くような活動	1	2	3	4	5	
9. 環境問題に取り組む活動	1	2	3	4	5	
10. 子育て・育児サポート活動	1	2	3	4	5	

11. 地域の治安や防犯に関する活動	1	2	3	4	5
12. 生涯学習活動（学ぶ、交流中心）	1	2	3	4	5
13. 教育活動	1	2	3	4	5
14. 次世代、子供と交流できる活動	1	2	3	4	5
15. 異性と交流できる活動	1	2	3	4	5
16. 健康づくりの活動	1	2	3	4	5
17. 美容に効く活動	1	2	3	4	5
18. 芸術・音楽活動	1	2	3	4	5
19. 食に関係する活動	1	2	3	4	5
20. 自然と触れ合うことができる活動	1	2	3	4	5
21. 海外で活躍する（奉仕活動等）こと	1	2	3	4	5

Q42 あなたは今お住まいの地域について、どう思われますか（1つだけ）

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえ	ない	どちらともいえない	どちらかといえ	そう思わない	わからない
1. 私はこの地域に住む多くの住人と顔見知りである	1	2	3	4	5	6		
2. この地域は、私にとって居心地がよい	1	2	3	4	5	6		
3. この地域の住人のほとんどが私のことを知っている	1	2	3	4	5	6		
4. 私はこの地域の人々に私がどう思われているかが気になることがある	1	2	3	4	5	6		
5. 私はこの地域のあり方に対して影響力を持っている	1	2	3	4	5	6		
6. この地域で何か問題が生じた時は、住人がそれを自ら解決することができる	1	2	3	4	5	6		
7. この地域は私にとって住むのに適している	1	2	3	4	5	6		
8. この地域に住む人々は、皆同じような価値観を共有している	1	2	3	4	5	6		
9. 私とこの地域に住む人々は、地域に同じものを期待している	1	2	3	4	5	6		
10. この地域に住むことは私にとって大切である	1	2	3	4	5	6		
11. この地域に住む人々はお互いに良い関係を保っていると思う	1	2	3	4	5	6		
12. 地域住民同士のつながりはだんだん希薄になってきていると思う	1	2	3	4	5	6		

Q43 「リタイア後に何をしようか」、そうしたセカンドライフの計画づくりや希望する活躍場所（仕事や様々な団体等）の紹介や参加を支援してくれるような「セカンドライフ支援組織」が今後、あなたの地域にも整備された場合、あなたはどのように考えますか（1つだけ）

1. 非常に歓迎であり、期待したい。ぜひ支援も受けたい。
2. 期待はするものの、その組織及び機能次第であって現時点ではなんともいえない
3. あまり期待できない
4. よくわからない

Q44 Q42の「セカンドライフ支援組織」はどの機関が主体となって運営することが望ましいと考えますか（1つだけ）

1. 自治体 2. 民間企業 3. 官民が連携した組織 4. NPO
5. いずれの機関でもよい 6. よくわからない 7. その他（⇒ ）

045 Q42の「セカンドライフ支援組織」の機能として以下の支援が組み込まれるとした場合、あなたにとってそれぞれどれくらい必要（重要）だとお考えになりますか（それぞれ1つ）

	とても必要	まあ必要	い あまり必要でない	全く必要でない	わからない
1. リタイア後の仕事の紹介とマッチング支援	1	2	3	4	5
2. 起業支援	1	2	3	4	5
3. NPOやボランティア等の地域活動への参加支援	1	2	3	4	5
4. 趣味や遊びの仲間づくりに向けた活動支援	1	2	3	4	5
5. 老親の介護相談、サポート支援	1	2	3	4	5
6. 身体が弱ったときの生活支援	1	2	3	4	5
7. 住まいに関する相談等の支援	1	2	3	4	5
8. お金や権利擁護に関する相談等の支援	1	2	3	4	5
9. その他（ ）	1	2	3	4	5

046 あなたが仮に「これから地域に参加しよう」あるいは「これまでより地域活動にもっと積極的に参加しよう」とお考えになったときに、参加を阻む要因、地域にある既存の団体や活動における課題（改善点）としてどのようなことがありますか。自由に記載してください（自由回答）

047 あなたはどのような場や集まりであれば、魅力を感じ、積極的に参加したいと思いますか。思いつくまま自由に記載してください（自由回答）

お伺いすることはこれですべてです。ご協力ありがとうございました。

資料2-2【全国】アンケート調査結果(単純集計※抜粋)

Q10-1.現在、どのような雇用形態で働いていますか。複数の仕事をしている場合は、収入の最も多いものをお答えください。

		回答数	%
全体		2504	100.0
1	正社員・正職員	1027	41.0
2	契約社員・嘱託	287	11.5
3	パート・アルバイト	589	23.5
4	派遣社員	28	1.1
5	自営業（業務委託を含む）	463	18.5
6	家族従業	27	1.1
7	その他	83	3.3

Q10-3.これまで就いた仕事での最高役職をお答えください。

		回答数	%
全体		4460	100.0
1	会長、社長、代表取締役、経営者、顧問・相談役	390	8.7
2	取締役・監査役など役員クラス	162	3.6
3	部長クラスの管理職	451	10.1
4	課長クラス	537	12.0
5	係長・主任クラス	537	12.0
6	一般社員クラス	2046	45.9
7	その他	337	7.6

Q19.あなたは何をしているときが楽しいですか。次にあげるそれぞれの事項について、楽しさの度合いをお答えください。

Q19-1.配偶者との会話・団欒

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても楽しい	542	10.8
2	まあ楽しい	1977	39.5
3	どちらともいえない	1049	21.0
4	あまり楽しくない	252	5.0
5	楽しくない	204	4.1
6	該当しない	976	19.5

Q19-2.子どもとの会話・団欒

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても楽しい	803	16.1
2	まあ楽しい	2173	43.5
3	どちらともいえない	831	16.6

4	あまり楽しくない	98	2.0
5	楽しくない	31	0.6
6	該当しない	1064	21.3

Q19-3.孫との会話・団欒

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても楽しい	656	13.1
2	まあ楽しい	835	16.7
3	どちらともいえない	432	8.6
4	あまり楽しくない	33	0.7
5	楽しくない	16	0.3
6	該当しない	3028	60.6

Q19-4.友人との会話・団欒

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても楽しい	937	18.7
2	まあ楽しい	2650	53.0
3	どちらともいえない	974	19.5
4	あまり楽しくない	131	2.6
5	楽しくない	49	1.0
6	該当しない	259	5.2

Q19-5.仕事

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても楽しい	235	4.7
2	まあ楽しい	1365	27.3
3	どちらともいえない	1501	30.0
4	あまり楽しくない	298	6.0
5	楽しくない	138	2.8
6	該当しない	1463	29.3

Q19-6.地域の活動

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても楽しい	65	1.3
2	まあ楽しい	595	11.9
3	どちらともいえない	1790	35.8
4	あまり楽しくない	581	11.6
5	楽しくない	286	5.7
6	該当しない	1683	33.7

Q19-7.趣味やスポーツ、習い事

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても楽しい	1085	21.7
2	まあ楽しい	2022	40.4
3	どちらともいえない	1050	21.0
4	あまり楽しくない	121	2.4
5	楽しくない	60	1.2
6	該当しない	662	13.2

Q19-8.食事

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても楽しい	997	19.9
2	まあ楽しい	2805	56.1
3	どちらともいえない	1067	21.3
4	あまり楽しくない	81	1.6
5	楽しくない	24	0.5
6	該当しない	26	0.5

Q19-9.買物

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても楽しい	849	17.0
2	まあ楽しい	2574	51.5
3	どちらともいえない	1329	26.6
4	あまり楽しくない	161	3.2
5	楽しくない	58	1.2
6	該当しない	29	0.6

Q19-10.旅行

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても楽しい	2015	40.3
2	まあ楽しい	1909	38.2
3	どちらともいえない	577	11.5
4	あまり楽しくない	85	1.7
5	楽しくない	43	0.9
6	該当しない	371	7.4

Q19-11.TV やビデオ、映画鑑賞

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても楽しい	1111	22.2

2	まあ楽しい	2869	57.4
3	どちらともいえない	819	16.4
4	あまり楽しくない	83	1.7
5	楽しくない	43	0.9
6	該当しない	75	1.5

Q19-12.インターネットの閲覧、交流

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても楽しい	875	17.5
2	まあ楽しい	2907	58.1
3	どちらともいえない	1044	20.9
4	あまり楽しくない	75	1.5
5	楽しくない	28	0.6
6	該当しない	71	1.4

Q19-13.読書

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても楽しい	783	15.7
2	まあ楽しい	2636	52.7
3	どちらともいえない	1273	25.5
4	あまり楽しくない	117	2.3
5	楽しくない	55	1.1
6	該当しない	136	2.7

Q20.あなたは日頃、家事としての買物以外でどのくらいの頻度で外出しますか。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	毎日2回以上	303	6.1
2	毎日1回程度	1192	23.8
3	週4～5回程度	815	16.3
4	週2～3回程度	1267	25.3
5	週1回程度	845	16.9
6	週1回未満	578	11.6

Q22.週に何回ぐらい、近所の人たちと話をしていますか。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	ほとんど毎日	232	4.6
2	週に4、5回	287	5.7
3	週に2、3回	880	17.6
4	週に1回	1187	23.7
5	ほとんどない	2414	48.3

Q23. あなたには、日頃からつきあいのある人は何人くらいいらっしゃいますか。年に1回の時候の挨拶を含めて、次にあげるそれぞれについて、つきあいのある方的人数をお答えください。

	平均	回答数
配偶者（内縁関係を含む）	1.03	5000
子ども	2.02	5000
両親（義理の親を含む）	1.14	5000
兄妹・姉妹	1.82	5000
その他の家族・親族	3.69	5000
近隣住民（血縁関係のある人を除く）	4.06	5000
同級生などの学生時代の友人・知人	4.51	5000
勤務先の同僚や仕事を介した友人・知人	8.01	5000
ソーシャルネットワーク（SNS）などインターネット上で知り合った友人・知人	4.36	5000
その他の友人・知人	3.18	4373

Q24.あなたは今後の暮らし方について、具体的な計画を立てていますか。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	具体的に立てている	197	3.9
2	大雑把には立てている	2130	42.6
3	今は考えていない（そのうち考えるつもり）	1777	35.5
4	特に計画を立てるつもりはない（成り行きに任せる）	896	17.9

Q24-1.お考えの計画は、おおよそ何歳頃までのこととしてお考えですか。次の中からあてはまるものを全てお選びください。（複数回答）

		回答数	%
全体		2327	100.0
1	現役生活を引退するころまで	352	15.1
2	子供が独立するころまで	151	6.5
3	配偶者が仕事を辞める頃まで	179	7.7
4	おおよそ70歳ごろまで	611	26.3
5	おおよそ80歳ごろまで	593	25.5
6	外出や旅行を苦にしない程度には元気なころまで	685	29.4
7	普段の生活に介護が必要になるころまで	380	16.3
8	死後の準備まで	251	10.8
9	その他	12	0.5

Q25.あなたは将来、どのような住まい方をしたいと考えていますか。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	現在の住居で最期まで暮らしたい	2788	55.8
2	いずれ住居を定めて（転居して）そこで最期まで暮らしたい	1089	21.8
3	いろいろな住居を住み替えながら最期まで暮らしたい	181	3.6
4	特に考えていない	942	18.8

Q26.あなたは将来、どのような場所で暮らしたいと思いますか。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	どちらかと言えば都会暮らし	1717	34.3
2	どちらかと言えば田舎暮らし	1108	22.2
3	都会とも、田舎ともいえないところ暮らし	1494	29.9
4	都会と田舎を行き来する暮らし	377	7.5
5	海外生活	123	2.5
6	その他	181	3.6

Q27.あなたは将来（65～79歳の生活をイメージしてください）、どのような生活を送っているといますか。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	働けるうちはいつまでも働き続けている	1425	28.5
2	働きたくはないがずっと働いている	361	7.2
3	地域の活動（ボランティアや自治会活動等）を中心にすごしている	151	3.0
4	家族中心の暮らしを続けている	976	19.5
5	自由気ままに毎日自分の好きなことをしている（趣味やスポーツ、学習などを楽しむ生活等）	1499	30.0
6	今は考えられない・わからない	588	11.8

Q28.次に挙げるような高齢期の生き方（生活パターン）について、あなたはどのように思いますか。

Q28-1.今までの暮らしを継続した平穏安定な生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	1281	25.6
2	興味はある	2513	50.3
3	どちらともいえない	1035	20.7
4	あまり興味はない	129	2.6
5	全く興味がない	42	0.8

Q28-2.地域にある既存の組織・団体に参加して、地域に貢献しながらの生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	161	3.2
2	興味はある	1191	23.8
3	どちらともいえない	1766	35.3
4	あまり興味はない	1335	26.7
5	全く興味がない	547	10.9

Q28-3.仲間と新たに NPO やボランティア活動を展開する生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	123	2.5
2	興味はある	765	15.3
3	どちらともいえない	1663	33.3
4	あまり興味はない	1595	31.9
5	全く興味がない	854	17.1

Q28-4.働く子ども世帯を家事や育児などでサポートする生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	159	3.2
2	興味はある	1008	20.2
3	どちらともいえない	1874	37.5
4	あまり興味はない	1204	24.1
5	全く興味がない	755	15.1

Q28-5.生涯現役で仕事をし続ける生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	393	7.9
2	興味はある	1156	23.1
3	どちらともいえない	1470	29.4
4	あまり興味はない	1080	21.6
5	全く興味がない	901	18.0

Q28-6.仲間と起業して仕事をし続ける生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	82	1.6
2	興味はある	504	10.1
3	どちらともいえない	1192	23.8
4	あまり興味はない	1453	29.1
5	全く興味がない	1769	35.4

Q28-7.一人で事業を立ち上げて仕事をし続ける生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	124	2.5
2	興味はある	497	9.9
3	どちらともいえない	1121	22.4
4	あまり興味はない	1304	26.1
5	全く興味がない	1954	39.1

Q28-8.趣味を仕事に活かす生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	358	7.2
2	興味はある	1497	29.9
3	どちらともいえない	1439	28.8
4	あまり興味はない	864	17.3
5	全く興味がない	842	16.8

Q28-9.他人と共同生活する暮らし

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	37	0.7
2	興味はある	320	6.4
3	どちらともいえない	1158	23.2
4	あまり興味はない	1522	30.4
5	全く興味がない	1963	39.3

Q28-10.自然の中で暮らす生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	279	5.6
2	興味はある	1299	26.0
3	どちらともいえない	1688	33.8
4	あまり興味はない	932	18.6
5	全く興味がない	802	16.0

Q28-11.本格的に農業を営む生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	74	1.5
2	興味はある	434	8.7
3	どちらともいえない	1220	24.4
4	あまり興味はない	1337	26.7
5	全く興味がない	1935	38.7

Q28-12.自給自足する生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	96	1.9
2	興味はある	681	13.6
3	どちらともいえない	1225	24.5
4	あまり興味はない	1216	24.3
5	全く興味がない	1782	35.6

Q28-13.転居しながら様々な地域での暮らしを楽しむ生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	60	1.2
2	興味はある	381	7.6
3	どちらともいえない	1028	20.6
4	あまり興味はない	1415	28.3
5	全く興味がない	2116	42.3

Q28-14.ロングステイを含む海外での生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	232	4.6
2	興味はある	794	15.9
3	どちらともいえない	898	18.0
4	あまり興味はない	985	19.7
5	全く興味がない	2091	41.8

Q28-15.地域の人々と交流を深める生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	87	1.7
2	興味はある	986	19.7
3	どちらともいえない	2011	40.2
4	あまり興味はない	1178	23.6
5	全く興味がない	738	14.8

Q28-16.夫婦で楽しみを追求し続ける生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	807	16.1
2	興味はある	1918	38.4
3	どちらともいえない	1193	23.9
4	あまり興味はない	364	7.3
5	全く興味がない	718	14.4

Q28-17.親や子ども、孫、兄弟姉妹など家族との絆を大切にする生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	800	16.0
2	興味はある	2121	42.4
3	どちらともいえない	1476	29.5
4	あまり興味はない	300	6.0
5	全く興味がない	303	6.1

Q28-18.配偶者を失った後は再婚する生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	62	1.2
2	興味はある	290	5.8
3	どちらともいえない	1410	28.2
4	あまり興味はない	1179	23.6
5	全く興味がない	2059	41.2

Q28-19.昔からの友人と楽しみを共有する生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	276	5.5
2	興味はある	1741	34.8
3	どちらともいえない	1839	36.8
4	あまり興味はない	669	13.4
5	全く興味がない	475	9.5

Q28-20.多世代との交流を楽しむ生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	126	2.5
2	興味はある	1185	23.7
3	どちらともいえない	2123	42.5
4	あまり興味はない	991	19.8
5	全く興味がない	575	11.5

Q28-21.異性との交流を楽しむ生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	143	2.9
2	興味はある	842	16.8
3	どちらともいえない	1784	35.7
4	あまり興味はない	1165	23.3
5	全く興味がない	1066	21.3

Q28-22.共通の趣味の仲間と楽しむ生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	516	10.3
2	興味はある	2191	43.8
3	どちらともいえない	1559	31.2
4	あまり興味はない	424	8.5
5	全く興味がない	310	6.2

Q28-23.趣味を通じて社会参加を楽しむ生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	292	5.8
2	興味はある	1718	34.4
3	どちらともいえない	1844	36.9
4	あまり興味はない	687	13.7
5	全く興味がない	459	9.2

Q28-24. インターネットで他人とのつながりを日々楽しむ生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	124	2.5
2	興味はある	748	15.0
3	どちらともいえない	1723	34.5
4	あまり興味はない	1256	25.1
5	全く興味がない	1149	23.0

Q28-25.生涯学習に励む生活（セミナーへの参加を含む）

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	173	3.5
2	興味はある	1109	22.2
3	どちらともいえない	1861	37.2
4	あまり興味はない	1101	22.0
5	全く興味がない	756	15.1

Q28-26.次世代に自分の経験・知識等を継承する生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	126	2.5
2	興味はある	849	17.0
3	どちらともいえない	2062	41.2
4	あまり興味はない	1189	23.8
5	全く興味がない	774	15.5

Q28-27.次世代の人生設計をサポートする生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	54	1.1
2	興味はある	587	11.7
3	どちらともいえない	2098	42.0
4	あまり興味はない	1340	26.8
5	全く興味がない	921	18.4

Q28-28.芸術（絵画や音楽等）を楽しむ生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	383	7.7
2	興味はある	1567	31.3
3	どちらともいえない	1610	32.2
4	あまり興味はない	868	17.4
5	全く興味がない	572	11.4

Q28-29.旅行三昧の生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	641	12.8
2	興味はある	1847	36.9
3	どちらともいえない	1475	29.5
4	あまり興味はない	617	12.3
5	全く興味がない	420	8.4

Q28-30.最終的には出家した生活

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とても興味があり、ぜひ実現したい	34	0.7
2	興味はある	193	3.9
3	どちらともいえない	808	16.2
4	あまり興味はない	1082	21.6
5	全く興味がない	2883	57.7

Q29. 誰もがいずれは身体が弱っていきますが、あなたはそうした虚弱期の生活※について考えたことがありますか。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	考えたことが「ある」	3027	60.5
2	考えたことは「ない」	1973	39.5

Q30. 虚弱期の生活に対するあなたの考え方について最も近いものを次の中から一つ選んでください。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	非常に不安である	1083	21.7
2	不安はあるが、何とかかなると思う	3049	61.0
3	全く心配していない	269	5.4
4	考えたことがない	581	11.6
5	その他	18	0.4

Q31.将来、配偶者との死別等で一人暮らしになる可能生がありますか。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	ある	2421	48.4
2	ない	420	8.4
3	すでに独りである	781	15.6
4	わからない	1378	27.6

Q31-1. 晩年に配偶者と死別等で独居になった後、あなたはどのように暮らしていこうと考えますか。

		回答数	%
全体		2421	100.0
1	そのまま独りで暮らし続ける	1742	72.0
2	子どもを自宅に呼び寄せる	95	3.9
3	子どもの家に同居する	67	2.8
4	子どもの近くに引っ越す	106	4.4
5	共同生活型住宅や施設に転居する	234	9.7
6	一緒に暮らす人を探す	109	4.5
7	その他	68	2.8

Q31-2. 晩年に配偶者と死別等で独居になったとき、誰を頼りに暮らしていきたいと思えますか。次の人の中から頼りにしたい順に3人まであげてください。

<第一位>

		回答数	%
全体		2421	100.0
1	子ども	1277	52.7
2	兄弟姉妹	140	5.8
3	近所以外の友人	34	1.4
4	近所の友人	50	2.1
5	公共サービスで世話をしてくれる人	412	17.0
6	SNSなどのインターネットサービスを通じて知り合った友人	16	0.7
7	自分（誰にも頼らない）	466	19.2
8	その他	26	1.1

<第二位>

		回答数	%
全体		2421	100.0
1	子ども	287	11.9
2	兄弟姉妹	587	24.2
3	近所以外の友人	162	6.7
4	近所の友人	173	7.1
5	公共サービスで世話をしてくれる人	562	23.2
6	SNSなどのインターネットサービスを通じて知り合った友人	27	1.1
7	自分（誰にも頼らない）	599	24.7
8	その他	24	1.0

<第三位>

		回答数	%
全体		2421	100.0
1	子ども	97	4.0
2	兄弟姉妹	203	8.4
3	近所以外の友人	174	7.2
4	近所の友人	174	7.2
5	公共サービスで世話をしてくれる人	354	14.6
6	SNSなどのインターネットサービスを通じて知り合った友人	24	1.0
7	自分（誰にも頼らない）	1355	56.0
8	その他	40	1.7

Q32.晩年に「独りで暮らす」ことについて、あなたはどのように考えますか。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	寂しいと思う	2066	41.3
2	気楽でよいと思う	1775	35.5
3	どちらでもない	1159	23.2

Q33.あなたは将来、自分が孤立してしまう可能性があると思いますか。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とてもそう思う	459	9.2
2	そう思う	1058	21.2
3	どちらともいえない	1640	32.8
4	そうは思わない	1180	23.6
5	まったくそうは思わない	303	6.1
6	わからない	360	7.2

Q34.あなたは将来、自分が孤立しないように、活動したり努力したりしようと思っ
ていますか。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	とてもそう思っている	268	5.4
2	そう思っている	1828	36.6
3	どちらともいえない	1722	34.4
4	そうは思っていない	564	11.3
5	まったくそうは思っていない	241	4.8
6	わからない	377	7.5

Q35.あなたはいつまで働きたいですか。

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	働けるうちはいつまでも	1665	33.3

2	85歳くらいまで	12	0.2
3	80歳くらいまで	65	1.3
4	75歳くらいまで	272	5.4
5	70歳くらいまで	656	13.1
6	65歳くらいまで	839	16.8
7	60歳くらいまで	291	5.8
8	できればすぐにも辞めたい（働きたくない）	1200	24.0

Q36.高齢期に働くにあたって次に挙げる事項はあなたにとってどれくらい重要ですか。

Q36-1.自分の経験や能力、スキルが活かせること

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	非常に重要である	709	14.2
2	まあ重要である	2502	50.0
3	どちらともいえない	1288	25.8
4	あまり重要でない	348	7.0
5	全く重要でない	153	3.1

Q36-2.自分が経験してきた仕事（業種・職種）であること

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	非常に重要である	541	10.8
2	まあ重要である	2194	43.9
3	どちらともいえない	1578	31.6
4	あまり重要でない	494	9.9
5	全く重要でない	193	3.9

Q36-3.自分のペースで働けること（出勤及び勤務時間が柔軟）

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	非常に重要である	1214	24.3
2	まあ重要である	2650	53.0
3	どちらともいえない	917	18.3
4	あまり重要でない	110	2.2
5	全く重要でない	109	2.2

Q36-4.自宅で働けること（テレワークが可能なこと）

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	非常に重要である	468	9.4
2	まあ重要である	1687	33.7
3	どちらともいえない	2047	40.9
4	あまり重要でない	569	11.4

5	全く重要でない	229	4.6
---	---------	-----	-----

Q36-5.職場までの距離（自宅から近いこと）

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	非常に重要である	980	19.6
2	まあ重要である	2585	51.7
3	どちらともいえない	1123	22.5
4	あまり重要でない	187	3.7
5	全く重要でない	125	2.5

Q36-6.働く職場の雰囲気

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	非常に重要である	1465	29.3
2	まあ重要である	2380	47.6
3	どちらともいえない	920	18.4
4	あまり重要でない	121	2.4
5	全く重要でない	114	2.3

Q36-7.経営者や仲間との人間関係

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	非常に重要である	1318	26.4
2	まあ重要である	2382	47.6
3	どちらともいえない	1053	21.1
4	あまり重要でない	125	2.5
5	全く重要でない	122	2.4

Q36-8.自分の体力との関係（勤務時間や労働の負荷量）

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	非常に重要である	1400	28.0
2	まあ重要である	2555	51.1
3	どちらともいえない	865	17.3
4	あまり重要でない	84	1.7
5	全く重要でない	96	1.9

Q36-9.自分の健康の維持増進に繋がること

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	非常に重要である	870	17.4
2	まあ重要である	2407	48.1
3	どちらともいえない	1454	29.1

4	あまり重要でない	165	3.3
5	全く重要でない	104	2.1

Q36-10.賃金水準

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	非常に重要である	476	9.5
2	まあ重要である	1884	37.7
3	どちらともいえない	2068	41.4
4	あまり重要でない	418	8.4
5	全く重要でない	154	3.1

Q36-11.ボランティア（無償）ではなく仕事（有償）であること

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	非常に重要である	765	15.3
2	まあ重要である	2216	44.3
3	どちらともいえない	1582	31.6
4	あまり重要でない	267	5.3
5	全く重要でない	170	3.4

Q36-12.家族の理解と承諾

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	非常に重要である	576	11.5
2	まあ重要である	2149	43.0
3	どちらともいえない	1719	34.4
4	あまり重要でない	281	5.6
5	全く重要でない	275	5.5

Q36-13.自分の立場が過去の役職に比べて下がること

		回答数	%
全体		5000	100.0
1	非常に重要である	125	2.5
2	まあ重要である	517	10.3
3	どちらともいえない	2056	41.1
4	あまり重要でない	1252	25.0
5	全く重要でない	1050	21.0

Q37. 賃金（専門性）と就労時間等で分けた以下の1～20のパターンの中で、あなたが高齢期に働く場合に最も望むパターンはどれですか。いずれも該当しない場合は、「99」と入力してください。

		回答数	%
全体		5000	100

1	フルタイム・最低賃金	66	1.3
2	フルタイム・1000円程度	160	3.2
3	フルタイム・1500円以上	209	4.2
4	週4～5日・4～6時間・最低賃金	213	4.3
5	週4～5日・4～6時間・1000円程度	529	10.6
6	週4～5日・4～6時間・1500円以上	240	4.8
7	週4～5日・2～3時間・最低賃金	97	1.9
8	週4～5日・2～3時間・1000円程度	136	2.7
9	週4～5日・2～3時間・1500円以上	56	1.1
10	週2～3日・4～6時間・最低賃金	343	6.9
11	週2～3日・4～6時間・1000円程度	661	13.2
12	週2～3日・4～6時間・1500円以上	296	5.9
13	週2～3日・2～3時間・最低賃金	266	5.3
14	週2～3日・2～3時間・1000円程度	322	6.4
15	週2～3日・2～3時間・1500円以上	110	2.2
16	週1日・4～6時間・最低賃金	57	1.1
17	週1日・4～6時間・1000円程度	71	1.4
18	週1日・4～6時間・1500円以上	39	0.8
19	週1日・2～3時間・最低賃金	142	2.8
20	週1日・2～3時間・1000円程度	133	2.7
21	週1日・2～3時間・1500円以上	85	1.7
22	ボランティア	176	3.5
23	起業	159	3.2
99	該当無し	434	8.7

資料3-1 【柏】アンケート調査票

2014年1月

ライフスタイルと社会活動に関するアンケート

東京大学高齢社会総合研究機構/セカンドライフ就労研究チーム

各設問の指示に沿って、該当する番号に○をするか、数字等を記入してください

■1■ あなたご自身について伺います

Q1 あなたの性別を教えてください

1. 男性	2. 女性
-------	-------

Q2 あなたの年齢を教えてください

		歳
--	--	---

Q3 あなたは結婚していらっしゃいますか。(1つだけ)

1. 未婚	2. 既婚(配偶者あり)	3. 既婚(離別)	4. 既婚(死別)
-------	--------------	-----------	-----------

Q4 あなたと同居している(同じ敷地内に住んでいる)のは、次のうちどなたですか。(いくつでも)

1. 配偶者	4. あなたの父	7. 配偶者の母	10. 孫
2. 子ども	5. あなたの母	8. 兄弟・姉妹	11. その他
3. 子どもの配偶者	6. 配偶者の父	9. 祖父母	12. 同居している人はいない

Q5 同居・別居を問わず、あなたのご家族の中に、高齢や病状のため、身の回りの世話(介護)を必要とする人がいますか。(1つだけ)

1. 介護を必要とする家族がいる	2. 介護を必要とする家族はいない
------------------	-------------------

Q6 あなたの健康状態は次のうちどの状態に近いですか(1つだけ)

1. よくない	2. あまりよくない	3. どちらともいえない	4. まあよい	5. とてもよい
---------	------------	--------------	---------	----------

Q7 経済的に日々の暮らしに困ることがありますか(1つだけ)

1. 困っている	2. 少し困っている	3. どちらともいえない	4. あまり困っていない	5. 困っていない
----------	------------	--------------	--------------	-----------

Q8 現在のお住まいの地域に住んで何年になりますか。次の中から最も近いものを選んでください。(1つだけ)

※市内で引越された場合は、通算してください

1. 50年以上	4. 20年以上
2. 40年以上	5. 10年以上
3. 30年以上	6. 10年未満

09 あなたの住まいは次のどれにあてはまりますか。(1つだけ)

1. 一戸建持ち家	5. 公営の賃貸住宅
2. 分譲マンション	6. 社宅・官舎
3. 民間賃貸アパート・マンション	7. 高齢者向け住宅・施設
4. UR都市機構、住宅供給会社の賃貸住宅	8. その他 ()

010 次におけるそれぞれの項目について、あなたができることをお知らせください。(それぞれ1つだけ)

	はい	いいえ
1. バスや電車を使って一人で外出ができますか	1	2
2. 日用品の買い物ができますか	1	2
3. 自分で食事の用意ができますか	1	2
4. 請求書の支払ができますか	1	2
5. 銀行預金、郵便貯金の出し入れが自分でできますか	1	2
6. 年金などの書類が書けますか	1	2
7. 新聞などを読んでいますか	1	2
8. 本や雑誌を読んでいますか	1	2
9. 健康についての記事や番組に関心がありますか	1	2
10. 友達の家を訪ねることがありますか	1	2
11. 家族や友達の相談にのることがありますか	1	2
12. 病人を見舞うことができますか	1	2
13. 若い人に自分から話しかけることがありますか	1	2
14. 町内会・自治会で活動していますか	1	2
15. 地域のお祭りや行事などに参加していますか	1	2
16. 奉仕活動やボランティア活動をしていますか	1	2
17. 自治会やグループ活動の世話役や役職を引き受けることができますか	1	2
18. 携帯電話やパソコンのメールができますか	1	2
19. 携帯電話を使うことができますか	1	2
20. ATMを使うことができますか	1	2
21. ビデオやDVDプレイヤーの操作ができますか	1	2
22. 教育・教養番組を視聴していますか	1	2
23. 外国のニュースや出来事に関心がありますか	1	2
24. 美術品、映画、音楽を鑑賞することがありますか	1	2
25. 健康に関する情報の信ぴょう性について判断できますか	1	2
26. 病人の看病ができますか	1	2
27. 孫や家族、知人の世話をしていますか	1	2
28. 生活の中でちょっとした工夫をすることがありますか	1	2
29. 詐欺、ひったくり、空き巣等の被害にあわないように対策をしていますか	1	2

011 あなたは現在の生活に満足していますか。(1つだけ)

1. とても満足している	2. 満足している	3. どちらとも いえない	4. 不満である	5. とても不満 である
--------------	-----------	------------------	----------	-----------------

012 あなたはこれまでの人生において幸せだと感じますか。(1つだけ)

1. とても幸せ だと思	2. 幸せだと思	3. どちらとも いえない	4. 不幸せ だと思	5. とても不幸せ だと思
-----------------	----------	------------------	---------------	------------------

■2■あなたの普段の生活や周囲の方との交流状況について伺います

013 あなたは日頃、どのような生活をおくっていますか。次の中から最も近いものを1つ選んでください。(1つだけ)

1. 仕事中心にすごしている	4. 基本的に家の中で、毎日自分の好きなことをしてすごしている
2. 地域の活動(ボランティアや自治会活動等)を中心にすごしている	5. 家事や介護等、家族の対応に追われてすごしている
3. できるだけ外に出て、毎日自分の好きなことをしてすごしている	6. 特にいずれも該当しない

014 あなたは何をしているときが楽しいですか。次にあげる事項について、楽しさの度合いをお答えください(1つだけ)

	1. とても楽しい	2. まあ楽しい	3. どちらともいえない	4. あまり楽しくない	5. 楽しくない	6. 該当しない
1. 配偶者との会話・団楽	1	2	3	4	5	6
2. 子どもとの会話・団楽	1	2	3	4	5	6
3. 孫との会話・団楽	1	2	3	4	5	6
4. 友人との会話・団楽	1	2	3	4	5	6
5. 仕事	1	2	3	4	5	6
6. 地域の活動	1	2	3	4	5	6
7. 趣味やスポーツ、習い事	1	2	3	4	5	6
8. 食事	1	2	3	4	5	6
9. 買物	1	2	3	4	5	6
10. 旅行	1	2	3	4	5	6
11. TV	1	2	3	4	5	6
12. インターネット	1	2	3	4	5	6

015 あなたは日頃、買物以外でどのくらいの頻度で外出しますか(1つだけ)

1. 毎日2回以上	3. 週4~5回程度	5. 週1回程度
2. 毎日1回程度	4. 週2~3回程度	6. 週1回未満

016 あなたは日頃、買物以外で自宅からよく行く場所はどのようなところですか。次の中からあてはまるものをお選びください(いくつでも)

1. 職場	5. 家族・親族などの家
2. 地域活動や社会貢献活動などを行う場所	6. 友人、知人など他の人と交流するための場所
3. 趣味やスポーツ、遊びや習い事で行く場所	7. 病院、診療所
4. 自宅の外でくつろいだり、時間をつぶしたりする場所(喫茶店等)	8. その他()
	9. 特にない

017 ご近所の方とは、どの程度のお付き合いをしていますか(1つだけ)

1. 会えば挨拶を交わす	4. 1~2年に1度、交流する機会がある
2. 見かければ声を掛け合う	5. 時々交流している
3. 時々立ち話をする	6. 近所の人にはまったく会わない。会っても挨拶もしない

Q18 あなたには、日頃からつきあいのある人は何人くらいいらっしゃいますか。年に1回の時の挨拶を含めて、次にあげるそれぞれについて、つきあいのある方の人数をお答えください。

※あてはまる方がいらっしゃらない場合は、0人とお答えください。

1. 配偶者（内縁関係を含む）		人くらい
2. 子ども		人くらい
3. 両親（義理の親を含む）		人くらい
4. 兄弟・姉妹		人くらい
5. その他の家族・親族		人くらい
6. 近隣住民（血縁関係のある人を除く）		人くらい
7. 同級生などの学生時代の友人・知人		人くらい
8. 勤務先の同僚や仕事を介した友人・知人		人くらい
9. ソーシャルネットワーク（SNS）などインターネット上で知り合った友人・知人		人くらい
10. その他の友人・知人		人くらい

Q18-1 Q18 でお答えいただいたそれぞれの方とは、おしなべてどれくらいの頻度で連絡をとりあっていますか。つぎにあげるそれぞれの連絡方法について、あてはまる程度をお答えください。（それぞれ1つ）

※複数の方との連絡の頻度がそれぞれ数か月に1回程度の場合は、それらを合計した頻度としてお考えください（例：友人4人それぞれと3か月に1回会っている場合は月に1回となります）。

※連絡方法は、直接会うことのほか、メールや電話、手紙等、すべてを含みます

	1日1回以上	2～3日に1回程度	週に1回程度	月に2～3回	月に1回程度	年に数回	年に1回以下
1. 配偶者（内縁関係を含む）	1	2	3	4	5	6	7
2. 子ども	1	2	3	4	5	6	7
3. 両親（義理の親を含む）	1	2	3	4	5	6	7
4. 兄弟・姉妹	1	2	3	4	5	6	7
5. その他の家族・親族	1	2	3	4	5	6	7
6. 近隣住民（血縁関係のある人を除く）	1	2	3	4	5	6	7
7. 同級生などの学生時代の友人・知人	1	2	3	4	5	6	7
8. 勤務先の同僚や仕事を介した友人・知人	1	2	3	4	5	6	7
9. ソーシャルネットワーク（SNS）などインターネット上で知り合った友人・知人	1	2	3	4	5	6	7
10. その他の友人・知人	1	2	3	4	5	6	7

■3■ あなたの普段の活動について伺います。

Q19 現在収入を伴う仕事をしていますか。(1つだけ)

1. している	2. していない
---------	----------

Q20 次に挙げる団体(活動)について、あなたの参加(所属)の状況を教えてください。また、参加していた活動については、参加年数も教えてください。

※1～21以外で普段参加(活動)しているものがあれば、その他(22～24)にご記入ください

	現在、参加(所属)している	過去、参加(所属)していた	参加(所属)していない・知らない		参加年数
1. 自治会、町内会	1	2	3	→	年
2. 老人会(クラブ)、婦人会	1	2	3	→	年
3. ハローワーク	1	2	3	→	年
4. シルバー人材センター	1	2	3	→	年
5. ボランティアセンター	1	2	3	→	年
6. ファミリーサポートセンター	1	2	3	→	年
7. さわやかサービス活動	1	2	3	→	年
8. 介護支援サポーター活動	1	2	3	→	年
9. 柏市民活動センター	1	2	3	→	年
10. 千葉県生涯学習大学	1	2	3	→	年
11. 高齢者講座・いきいきセミナー	1	2	3	→	年
12. サロン活動	1	2	3	→	年
13. 防災会・自主防災組織	1	2	3	→	年
14. 無尽講・頼母子講・模合	1	2	3	→	年
15. 同業者の団体、農協、労働組合	1	2	3	→	年
16. 消費者団体(生協等)	1	2	3	→	年

資料3-2 【柏】アンケート調査結果(単純集計※抜粋)

Q1.あなたの性別を教えてください

		回答数	%
全体		395	100.0
1	男性	217	55.0
2	女性	178	45.0

Q2.あなたの年齢を教えてください

回答数	395	平均	69.2	最小	60	最大	88	SD	5.4
-----	-----	----	------	----	----	----	----	----	-----

Q3.あなたは結婚していらっしゃいますか

		回答数	%
全体		395	100.0
1	未婚	10	2.5
2	既婚（配偶者あり）	328	83.0
3	既婚（離別）	16	4.1
4	既婚（死別）	41	10.4

Q4.あなたと同居している（同じ敷地内に住んでいる）のは、次のうちどなたですか。（複数回答）

		回答数	%
全体		395	100.0
1	配偶者	322	81.5
2	子ども	115	29.1
3	子どもの配偶者	11	2.8
4	あなたの父	0	0.0
5	あなたの母	7	1.8
6	配偶者の父	1	0.3
7	配偶者の母	5	1.3
8	兄弟・姉妹	0	0.0
9	祖父母	0	0.0
10	孫	16	4.1
11	その他	0	0.0
12	同居している人はいない	49	12.4

Q5.同居・別居を問わず、あなたのご家族の中に、高齢や病気のため、身の回りの世話（介護）を必要とする人がいますか。

		回答数	%
全体		391	100.0
1	介護を必要とする家族がいる	60	15.3
2	介護を必要とする家族はいない	331	84.7

Q6.あなたの健康状態は次のうちどの状態に近いですか。

		回答数	%
全体		392	100.0
1	よくない	2	0.5
2	あまりよくない	19	4.8
3	どちらともいえない	39	9.9
4	まあよい	230	58.7
5	とてもよい	102	26.0

Q7.経済的に日々の暮らしに困ることがありますか

		回答数	%
全体		394	100.0
1	困っている	1	0.3
2	少し困っている	20	5.1
3	どちらともいえない	79	20.1
4	あまり困っていない	158	40.1
5	困っていない	136	34.5

Q8.現在お住まいの地域に住んで何年になりますか。市内で引っ越しされた場合は、通算してください。

		回答数	%
全体		394	100.0
1	50年以上	16	4.1
2	40年以上	83	21.1
3	30年以上	136	34.5
4	20年以上	110	27.9
5	10年以上	25	6.3
6	10年未満	24	6.1

Q9.あなたのお住まいは次のどれに当てはまりますか。

		回答数	%
全体		391	100.0
1	一戸建持ち家	295	75.4
2	分譲マンション	62	15.9
3	民間賃貸アパート・マンション	4	1.0
4	UR都市機構、住宅供給公社の賃貸住宅	23	5.9
5	公営の賃貸住宅	6	1.5
6	社宅・官舎	0	0.0
7	高齢者向け住宅・施設	0	0.0
8	その他	1	0.3

Q11.あなたは現在の生活に満足していますか。

		回答数	%
全体		394	100.0
1	とても満足している	32	8.1

2	満足している	279	70.8
3	どちらともいえない	71	18.0
4	不満である	10	2.5
5	とても不満である	2	0.5

Q12.あなたはこれまでの人生において幸せだとお感じですか。

		回答数	%
全体		394	100.0
1	とても満足している	32	8.1
2	満足している	301	76.4
3	どちらともいえない	58	14.7
4	不満である	3	0.8
5	とても不満である	0	0.0

Q13.あなたは日頃、どのような生活を送っていますか。

		回答数	%
全体		388	100.0
1	仕事中心に過ごしている	45	11.6
2	地域の活動（ボランティアや自治会活動など）を中心に過ごしている	69	17.8
3	できるだけ外に出て、毎日自分の好きなことをして過ごしている	166	42.8
4	基本的に家の中で、毎日自分の好きなことをして過ごしている	71	18.3
5	家事や介護等、家族の対応に追われて過ごしている	12	3.1
6	特にいずれも該当しない	25	6.4

Q15 あなたは日頃、買物以外でどのくらいの頻度で外出しますか

		回答数	%
全体		391	100.0
1	毎日2回以上	48	12.3
2	毎日1回程度	123	31.5
3	週4～5回程度	115	29.4
4	週2～3回程度	83	21.2
5	週1回程度	19	4.9
6	週1回未満	3	0.8

Q16.あなたは日頃、買物以外で自宅からよく行く場所はどのようなところですか（複数回答）

		回答数	%
全体		395	100.0
1	職場	92	23.3
2	地域活動や社会貢献活動などを行う場所	157	39.7
3	趣味やスポーツ、遊びや習い事で行く場所	298	75.4
4	自宅の外でくつろいだり、時間をつぶしたりする場所（喫茶店等）	73	18.5
5	家族・親族などの家	76	19.2
6	友人、知人など他の人と交流するための場所	165	41.8

7	病院、診療所	69	17.5
8	その他	39	9.9
9	特になし	8	2.0

Q17.ご近所の方とは、どの程度のお付き合いをしていますか。

		回答数	%
全体		370	100.0
1	会えば挨拶を交わす	163	44.1
2	見かければ声を掛け合う	81	21.9
3	時々立ち話をする	84	22.7
4	1~2年に1度、交流する機会がある	3	0.8
5	時々交流している	39	10.5
6	近所の人には全く会わない。会っても挨拶もしない	0	0.0

Q18.あなたには、日頃から付き合いのある人は何人くらいいらっしゃいますか。年に1回の時候の挨拶を含めて、付き合いのある方の人数をお答えください。

		平均	最大	SD	回答数
1	配偶者（内縁関係を含む）	1.3	50	3.4	382
2	子ども	2.4	20	1.9	385
3	両親（義理の親を含む）	0.6	5	0.93	378
4	兄弟・姉妹	3.4	30	3.2	382
5	その他の家族・親族	8.4	65	9.4	380
6	近隣住民（血縁関係のある人を除く）	15.0	500	33.1	385
7	同級生などの学生時代の友人・知人	12.0	200	18.8	382
8	勤務先の同僚や仕事を介した友人・知人	14.2	200	22.2	379
9	ソーシャルネットワーク（SNS）などインターネット上で知り合った友人・知人	1.0	50	4.2	371
10	その他の友人・知人	13.9	300	29.2	368

Q18-1.Q18でお答え頂いたそれぞれの方とは、おしなべてどれくらいの頻度で連絡を取り合っていますか。（1：1日1回以上～7：年に1回以下の7段階）

		平均	SD	回答数
1	配偶者（内縁関係を含む）	2.2	2.3	384
2	子ども	3.2	1.9	384
3	両親（義理の親を含む）	6.1	1.7	385
4	兄弟・姉妹	5.3	1.4	385
5	その他の家族・親族	5.8	1.2	382
6	近隣住民（血縁関係のある人を除く）	3.4	1.7	381
7	同級生などの学生時代の友人・知人	5.8	1.2	386
8	勤務先の同僚や仕事を介した友人・知人	5.3	1.8	384
9	ソーシャルネットワーク（SNS）などインターネット上で知り合った友人・知人	6.7	1.0	384
10	その他の友人・知人	5.5	1.6	375

Q19.現在収入を伴う仕事をしていますか。

		回答数	%
全体		392	100.0
1	している	158	40.3
2	していない	234	59.6

Q20.次に挙げる団体（活動）について、あなたの参加（所属）の状況を教えてください。
また、参加していた活動については、参加年数も教えてください。

Q20-1.自治会・町内会

		回答数	%
全体		367	100.0
1	現在、参加（所属）している	205	55.9
2	過去、参加（所属）していた	88	24.0
3	参加（所属していない）・知らない	74	20.2

(参加年数)

回答数	平均	最小	最大	SD
269	15.2	0	50	13.6

Q20-2.老人会（クラブ）、婦人会

		回答数	%
全体		351	100.0
1	現在、参加（所属）している	55	15.7
2	過去、参加（所属）していた	7	2.0
3	参加（所属していない）・知らない	289	82.3

(参加年数)

回答数	平均	最小	最大	SD
61	7.8	0	50	8.4

Q20-3.ハローワーク

		回答数	%
全体		334	100.0
1	現在、参加（所属）している	7	2.1
2	過去、参加（所属）していた	45	13.5
3	参加（所属していない）・知らない	282	84.4

(参加年数)

回答数	平均	最小	最大	SD
47	1.1	0	5	0.8

Q20-4.シルバー人材センター

		回答数	%
全体		342	100.0
1	現在、参加（所属）している	12	3.5
2	過去、参加（所属）していた	25	7.3
3	参加（所属していない）・知らない	305	89.2

(参加年数)

回答数	平均	最小	最大	SD
37	3.7	0.8	16	3.6

Q20-5. ボランティアセンター

		回答数	%
全体		344	100.0
1	現在、参加（所属）している	47	13.7
2	過去、参加（所属）していた	20	5.8
3	参加（所属していない）・知らない	277	80.5
(参加年数)			
回答数	59	平均	5.6
		最小	0
		最大	50
		SD	7.5

Q20-6. ファミリーサポートセンター

		回答数	%
全体		337	100.0
1	現在、参加（所属）している	15	4.5
2	過去、参加（所属）していた	4	1.2
3	参加（所属していない）・知らない	318	94.4
(参加年数)			
回答数	17	平均	4
		最小	0
		最大	12
		SD	3.5

Q20-7. さわやかサービス活動

		回答数	%
全体		334	100.0
1	現在、参加（所属）している	7	2.1
2	過去、参加（所属）していた	6	1.8
3	参加（所属していない）・知らない	321	96.1
(参加年数)			
回答数	10	平均	3.4
		最小	0
		最大	10
		SD	3.6

Q20-8. 介護支援サポーター活動

		回答数	%
全体		340	100.0
1	現在、参加（所属）している	36	10.6
2	過去、参加（所属）していた	6	1.8
3	参加（所属していない）・知らない	298	87.6
(参加年数)			
回答数	38	平均	3.2
		最小	1
		最大	15
		SD	3.1

Q20-9. 柏市民活動センター

		回答数	%
全体		340	100.0
1	現在、参加（所属）している	28	8.2
2	過去、参加（所属）していた	10	2.9
3	参加（所属していない）・知らない	302	88.8
(参加年数)			
回答数	33	平均	4.9
		最小	0
		最大	15
		SD	3.9

Q20-10.千葉県生涯学習大学

		回答数	%
全体		339	100.0
1	現在、参加（所属）している	26	7.7
2	過去、参加（所属）していた	25	7.4
3	参加（所属していない）・知らない	288	85.0
(参加年数)			
回答数	45	平均	2.7
		最小	1
		最大	6
		SD	1.4

Q20-11.高齢者講座・いきいきセミナー

		回答数	%
全体		347	100.0
1	現在、参加（所属）している	63	18.2
2	過去、参加（所属）していた	33	9.5
3	参加（所属していない）・知らない	250	72.3
(参加年数)			
回答数	87	平均	3.4
		最小	1
		最大	15
		SD	3.1

Q20-12.サロン活動

		回答数	%
全体		341	100.0
1	現在、参加（所属）している	47	13.8
2	過去、参加（所属）していた	9	2.6
3	参加（所属していない）・知らない	285	83.6
(参加年数)			
回答数	53	平均	5.2
		最小	0
		最大	20
		SD	4.6

Q20-13.防災会・自主防災組織

		回答数	%
全体		341	100.0
1	現在、参加（所属）している	65	19.1
2	過去、参加（所属）していた	45	13.2
3	参加（所属していない）・知らない	231	67.7
(参加年数)			
回答数	95	平均	5.2
		最小	0
		最大	30
		SD	6.8

Q20-14.無尽講・頼母子講・模合

		回答数	%
全体		337	100.0
1	現在、参加（所属）している	1	0.3
2	過去、参加（所属）していた	1	0.3
3	参加（所属していない）・知らない	335	99.4
(参加年数)			
回答数	3	平均	11
		最小	0
		最大	30
		SD	16.5

Q20-15.同業者の団体、農協など

		回答数	%
全体		340	100.0
1	現在、参加（所属）している	8	2.4
2	過去、参加（所属）していた	12	3.5
3	参加（所属していない）・知らない	320	94.1
(参加年数)			
回答数	16	平均	19.3
		最小	0
		最大	42
		SD	13.8

Q20-16.消費者団体（生協等）

		回答数	%
全体		343	100.0
1	現在、参加（所属）している	43	12.5
2	過去、参加（所属）していた	14	4.1
3	参加（所属していない）・知らない	286	83.4
(参加年数)			
回答数	51	平均	17.1
		最小	0
		最大	40
		SD	12.0

Q20-17.宗教団体

		回答数	%
全体		340	100.0
1	現在、参加（所属）している	21	6.2
2	過去、参加（所属）していた	3	0.9
3	参加（所属していない）・知らない	316	92.9
(参加年数)			
回答数	19	平均	22.5
		最小	0
		最大	60
		SD	17.9

Q20-18.趣味や娯楽のサークル（手芸、書道、絵画、合唱、囲碁、将棋、麻雀等）

		回答数	%
全体		367	100.0
1	現在、参加（所属）している	196	53.4
2	過去、参加（所属）していた	44	12.0
3	参加（所属していない）・知らない	127	34.6
(参加年数)			
回答数	207	平均	10.3
		最小	0
		最大	55
		SD	10.9

Q20-19.健康作りやスポーツのサークル（ウォーキング、グランドゴルフ、体操等）

		回答数	%
全体		356	100.0
1	現在、参加（所属）している	181	50.8
2	過去、参加（所属）していた	47	13.2
3	参加（所属していない）・知らない	128	36.0
(参加年数)			
回答数	197	平均	9.4
		最小	1
		最大	50
		SD	9.4

Q20-20.インターネット上でのコミュニティ

		回答数	%
全体		332	100.0
1	現在、参加（所属）している	23	6.9
2	過去、参加（所属）していた	7	2.1
3	参加（所属していない）・知らない	302	91.0
(参加年数)			
回答数	28	平均	6.3
		最小	0
		最大	50
		SD	9.6

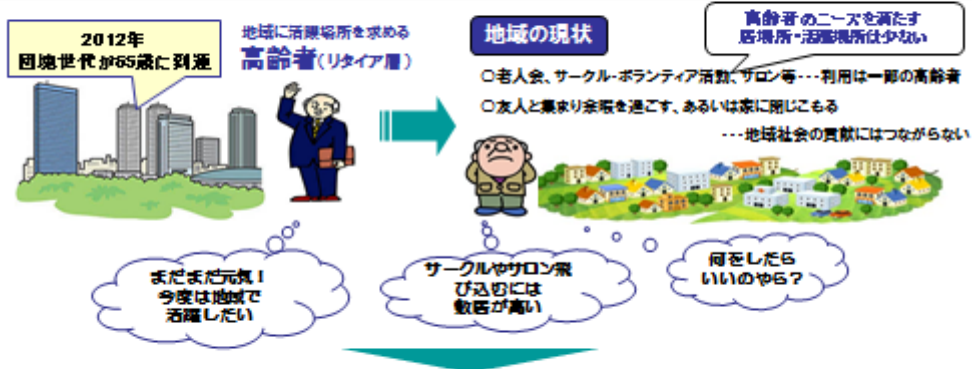
Q20-21.学校や職場の同窓会、同期会

		回答数	%
全体		360	100.0
1	現在、参加（所属）している	215	59.7
2	過去、参加（所属）していた	53	14.7
3	参加（所属していない）・知らない	92	25.6
(参加年数)			
回答数	218	平均	20.4
		最小	0
		最大	60
		SD	16.5

資料4 「生きがい就労事業(柏市)」の概要・実績

課題～現在進行しつつある都市部の高齢化

都市(近郊)の急速な高齢化の問題。地域に活躍場所を求めるリタイア層に対して地域はどのような準備を行うべきか？



高齢者を(自然に)外に引き出す工夫、地域の担い手として活躍できる環境整備が必要

12

狙い～「就労」で課題を解決！



高齢者、特に都市部リタイア層にとって最も抵抗の少ない社会参加のかたち

- 現役時代から慣れ親しんだ生活スタイル
- 帰属意識、社会的役割が明確に与えられる

一方で・・・

リタイア層のライフスタイルに応じた働き方が必要

- 無理なく、出来る範囲で働く・・・就労時間、場所、内容の調整
 - 地域貢献、趣味を活かす、人との関わりを求める
- ・・・生計労働から「生きがい労働」へ



これらが両立する就労は、個人の心身の健康維持に寄与するとともに地域社会の課題解決にもつながると予測



◎働きたいときに無理なく楽しく働ける + ◎地域の課題解決に貢献できる

13

研究開発成果の全体概要

JST/PRISTEX 社会技術研究開発事業「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」研究開発プロジェクト(カテゴリ-II)
「セカンドライフの就労モデル開発研究」(平成22~25年度)

<プロジェクトの舞台は柏市豊四季台地域>

開発体制

- ◆ 柏市、UR都市機構、東大、柏市内に拠点を持つ株式会社等、柏市住民が協働して「生きがい就労事業」を開発



目標・成果

- ◆ 「農」「食」「保育」「生活支援」「福祉」の5つの領域にて9つの就労事業モデルを創造 (⇒174名の生きがい就労を実現) **成果①**
- ◆ 当該事業が高齢者自身等に与える複線的な効果を検証 **成果②**
- ◆ モデル開発のノウハウを「マニュアル化」 **成果③**

生きがい就労のコンセプト

生計維持のための就労(生計就労)

生きがい就労

交流・趣味・場の創造-その他

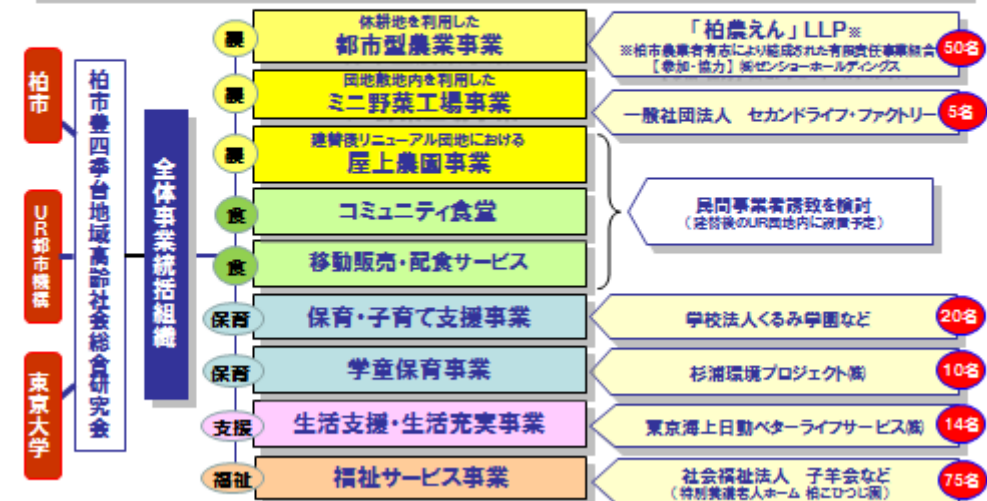
◎働きたいときに無理なく楽しく働ける + ◎地域の課題解決に貢献できる

14

成果①「生きがい就労」開発実績～事業者の開拓と雇用実現

5領域9事業を開拓。のべ174名の生きがい就労者の雇用を実現！

(屋上農園と食事業は事業構想を策定、2014年度事業開始予定) ※2013年9月末時点



17

★「生きがい就労」の特徴★



13

アプローチ・経緯

①-【農業】都市型農業事業

共同圃場での高齢者就農を継続+研修用「農業塾」をスタート

(2010年度)

○ 農政課+福祉政策室+東大での企画調整。農業委員会での検討他

(2011年度)

○ 担い手候補の若手農家グループと継続検討(家族農家の現状理解、営農支援の検討)

○ 若手農家7名(現在8名)によるLLP「**柏農えん**」を立ち上げ(2012/1)

(2012年度)

○ LLPメンバー農家における高齢者の**体験農業**を継続実施。

同時に市内2カ所の休耕地を共同圃場として確保。ダイコン、キャベツなど栽培を開始

○ 販路拡大の取組みを継続

(2013年度)

○ 正規雇用者(シニア)についてメンバー農家の圃場及び

共同圃場における就農を継続

○ 能力・スキルが未達のシニアについては「**農業塾**」での研修へ移行

○ 地元での販路拡大を模索(地元企業への協力取り付け)



25

②-【農業】ミニ野菜工場事業

植物栽培ユニット(2機)の設置。栽培を試行スタート

(2010年度)

- ミニ野菜工場に関する情報収集、事業化に向けた検討(千葉大との検討)
- 柏市内企業「三協フロンティア株」との協議を継続(⇒担い手として内諾)

(2011年度)

- 東日本大震災の関係から「三協フロンティア株」が担い手から辞退⇒担い手探し、構想を再検討

(2012年度)

- 大和ハウス工業株から、新製品「agri-cube」(2機)の寄贈を実現
⇒**団地内空きスペースに設置(2013/3)**
- ※2014年度以降は、団地建替後の新たな場所に移設予定

(2013年度)

- 就労シニア(6名)による**栽培を試行開始**
※2013/5/31「お披露目会」を実施



28

③-【農&食】屋上農園&コミュニティ食堂他事業

団地内商業区の建替え後の設置に向けて計画策定⇒事業者公募へ

(2010-11年度)

- 建替え後の商業区のイメージ・コンセプト・機能について内部検討を継続
- 複数の事業者へのヒアリングを実施

(2012年度)

- 地域住民の健康に貢献、多世代交流できる場としての構想を詰める
⇒構想の中に「**地域のレストラン**」となる

コミュニティ食堂他を組み込み

- 地元の既存事業者、住民へのヒアリングを継続実施
- 公募要領の検討、作成

(2013年度)

- 公募**を実施
- 【建替え】

↓

(2014年度)

- 事業開始(予定)



29

アプローチ・経緯 ④-【保育・子育て】 保育・子育て支援事業

保育士の同業業務部分で高齢者が活躍中

(2010年度)

- 柏市内の子育て事情の情報収集
- 担い手となる事業者を公募⇒採択

(2011年度～)

- 就労シニアは「**まちの先生**」として、主に以下の業務を担当
 - ・早期7時半からの園児受け入れ、保育補助
 - ・園児の午睡の準備と導入、見守り補助
 - ・夕方5時までの保育補助、降園時の親御さんへの引渡し
 - ・読み聞かせ、折り紙、お手玉、百人一首など伝承あそびの実践 他
- その他にも送迎の補助や施設の環境整備など、同業的な業務を担当している

<「読み聞かせ」の様相>



30

アプローチ・経緯 ⑤-【学童】 学童保育事業

シニアとしての区別なく、「学童+塾」経営を支える講師として活躍中

(2010年度)

- 学童事業に関する情報収集
- 事業の担い手探し⇒選定

(2011年度)

- 事業者と事業構想に関する検討を継続
- 豊四季台地域内での新店舗開設に向けた準備・調整

- 学童と塾の機能を兼ね備えた“次世代型進学塾「**ネクスファ柏**」”を開設(2012/3/1)

(2012年度～)

- 就労シニアはこれまでの**経験・スキル**を活かす形で、「英対話」や「英語あそび」のプログラムを担当
- ・新たに「学校～塾」の送迎サービスもシニアが担当

<英対話を教える(上)・英語あそび(下)をやる高齢者>



31

60代の元気シニアが老親高齢世代の生活を支援・活躍中

(2010年度)

- 生活支援サービスに関する情報収集
- 柏市内の既存サービス(社協等)との棲み分けを検討
- 事業の担い手探し⇒選定

(2011年度～)

- 就労シニアは主に以下の業務を担当し活躍⇒居室の掃除・調理、通院介助、買物代行他

＜事業概要＞

【生活支援】
掃除、洗濯、調理、散歩、服薬管理、履替サービス、衣替え掃除・・・など

【生活充実】
緊急時の対応、入院中の身の回りのお世話、大掃除のお手伝い、外出介助(趣味サークル、美容院、お墓参りの付き添う等)・・・など

サービス提供時間

7:00~21:00
(24時間)

年中無休

料金 (単位:円)

	生活支援(生活サポート)	身体介護	生活相談
30分	1,260円	2,420円	934円
60分	2,180円	4,220円	1,868円
90分	3,050円	6,130円	2,802円
120分	3,920円	7,000円	3,736円
150分	4,790円	7,870円	4,670円
180分	5,660円	8,740円	5,604円

※訪問時の交通費(市内)は別途サービス料とは別、ご負担ください。

たとえば、こんな時に

入浴中・通院直後の身の回りのお世話

入浴・通院に伴うご自宅の環境整備

調理・洗濯・買い物などの家事支援全般

その他、お困りごとをサポートします

32

介護士がケアに専念できるように、施設の周辺業務を就労シニアが担当

(2011年度～)

- 初期計画にはなかった分野だが、豊四季台団地内に新設された高齢者介護施設「柏こひつじ園」において、主に次の業務を就労シニアが担当
 - 食事補助や施設のバックヤード業務(洗濯、掃除他)
 - 施設が行う地域住民に向けたカフェの接客サービス
 - 施設周辺での園芸業務
- 2013年度からは新たな特養でも就労シニアの活躍がスタート



33

アプローチ・経緯 事業統括組織の機能～オペレーション・プロセスの概要



38

アプローチ・経緯 就労希望の高齢者を募る市民向け「就労セミナー」の開催

- 柏市民を対象とした「就労セミナー」を2011年11月より計7回開催。延べ**557名**が参加！
- セミナー修了者の中から希望者について、毎月様々なテーマで「勉強会」を実施し、関係を継続させて組織化を行いながら、雇用に結びつけていった
- 2013年4月に、セミナー修了者による社団法人「セカンドライフファクトリー」が設立され、勉強会活動を引き継ぐと同時に、**独自の活動を開始**



39

★事業者と就労シニアの声(定性的効果)★

事業者

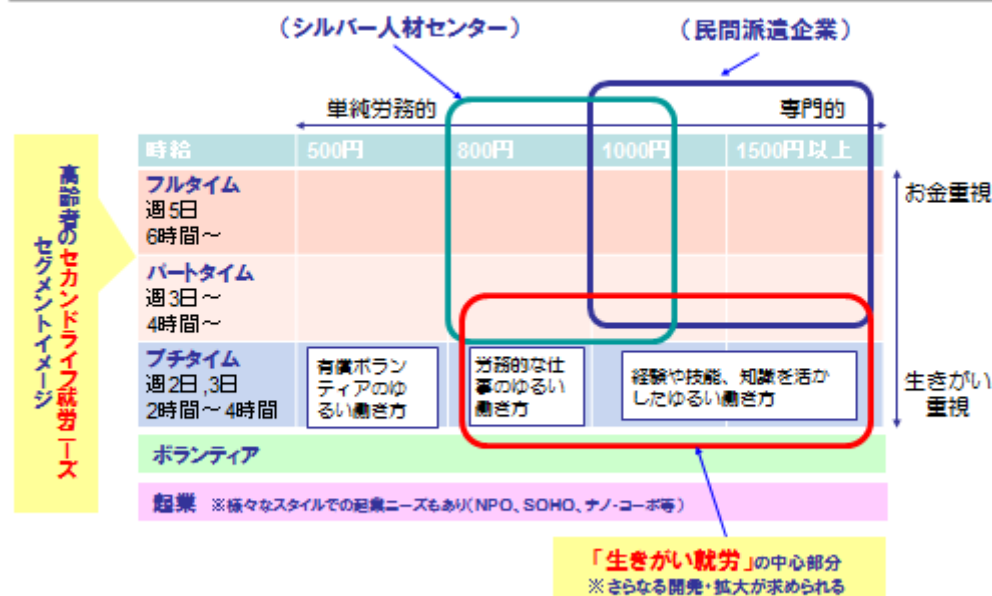
- 「早朝や午後の少しだけ短時間の労力が欲しいときにシニアの就労は助かる(短時間だけでは若者を雇用できない)」
- 「若者は教育コストがかかるが、高齢者はかからない、即戦力として活躍してもらえる」
- 「最低賃金レベルのコスト(学童保育のみ他の雇用者と同賃金)で有能な人材を雇用できるのはありがたい」
- 「高齢者に周辺業務を担ってもらえることで、保育士や介護士が本業に専念できて事業全体としてのパフォーマンスが上がった」等

就労シニア

- ✓ 「シルバー人材センター等からは年齢を理由に全く働く場所を提示してもらえなかったが、こうして新たに働くことができて嬉しい生きがいになった」
- ✓ 「地域に友人はいなかったが、新たに仲間ができてよかった」
- ✓ 「僅かながらも年金以外の収入が得られることで、旅行やおいしいものを食べるといった新たな楽しみがもてて嬉しい」
- ✓ 「何よりも生活のハリができて、規則正しい生活に戻った、就労のある日は身だしなみを整え、気分的にもハリを感じる」等

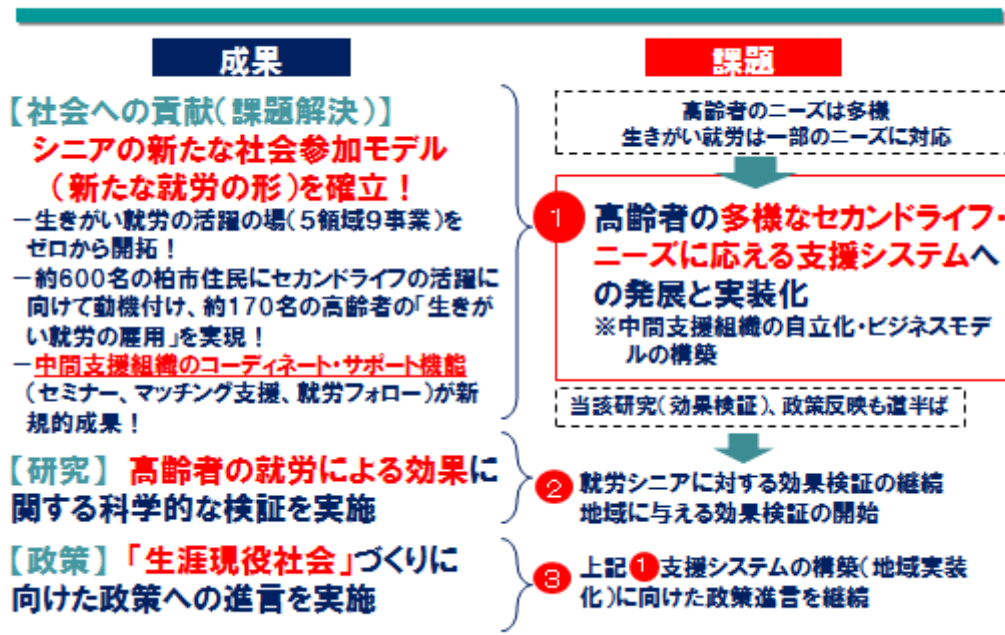
39

本就労形態の位置づけ(イメージ)



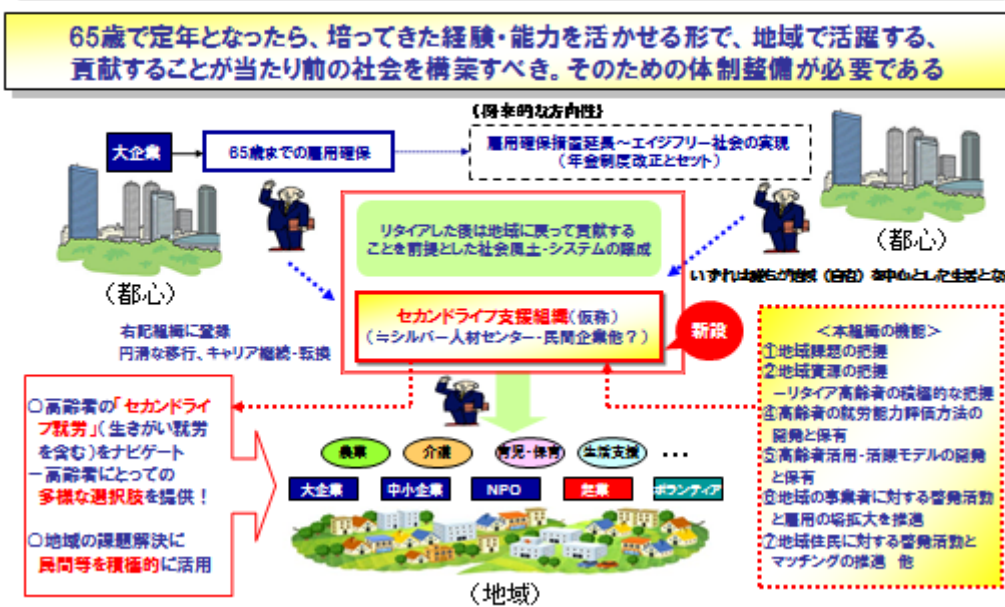
42

これまでの成果と残された課題



41

★最終GOAL:セカンドライフ支援組織・システムのイメージ★



45

資料5 高齢者の社会参加がもたらす効果検証結果(詳細)

(A) 社会・心理的側面に対する影響

ここでは就労セミナー参加者に対して実施したアンケートの結果から、生きがい就労が社会・心理的側面に対して与えた影響について検討を行う。高齢者は就労セミナーに最初に参加した時点で1回目のアンケートに回答をし、その後就労を経験したかどうかに関係なく、さらに2回のアンケートを受けた。2回目のアンケートは2012年9月に、3回目のアンケートは2013年8月に実施された(2012年9月より後に開催されたセミナーの参加者に対しては、2回目のアンケートは行われなかった)。本節では、1回目と3回目のアンケート結果について比較を行った結果を報告する。

全体の有効回答数は295名であり、うち男性は160名、女性は135名であった。また回答者の年齢は60～84歳であり、平均は67.15、SDは4.95であった。これらの人のうち6ヶ月以上の生きがい就労を経験した人を就労群、そうでない人を非就労群と見なし、以下では分析を行う。就労群は78名、非就労群は215名であった。分析は、就労の有無を被験者間要因、アンケートの時点(1回目=ベースライン、3回目=プロジェクト終了)を被験者内要因とし、さらに統制のために性別を被験者間要因、標準化した年齢を共変量として加えた一般線型モデルによって行った。またこれら全ての要因の交互作用についても存在を仮定して分析を実行した。

(外出頻度)

外出頻度について1)ほとんど外出しない～6)ほぼ毎日の6段階で尋ねた項目についての分析結果を、興味の対象である要因についてのみ示す。就労の主効果のみが、1%水準で有意となった。推定周辺平均を見ても、就労有り群の方がどちらの時点においても外出頻度が高いことが確認できる。したがって、就労群は非就労群よりも全体的に外出頻度が高いが、1年半の研究期間を過ぎても就労群、非就労群ともに外出頻度に明確な変化は見られなかったことが分かる。もともと外出頻度が高い積極的な人が就労に参加したと考えられるだろう。なお、統制のために加えた要因について、有意な効果を持つものは存在しなかった。

表 1A：外出頻度に関する分析結果 (主要な要因のみ抜粋)

	SS	F 値	P 値
時点	1.815	1.576	0.210
就労	4.462	7.232	0.008
時点×就労	0.014	0.012	0.913

表 1B：外出頻度の推定周辺平均 (年齢による効果を調整したもの)

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	5.105	5.188
	SD	0.070	0.067
就労有り	平均	5.384	5.483
	SD	0.112	0.107

(地域社会への態度)

居住する地域への愛着や溶け込み具合を測定する地域社会への態度(30点満点)については、時点の主効果が5%水準で有意となった。したがって就労の有無にかかわらず、セミナー参加後の方が地域への帰属意識が高まったことが分かる。これは就労セミナー、もしくはそれに続く就労勉強会に参加する中で地元の仲間が増えるなどコミュニティの形成が行われたことが反映されたためではないかと思われる。また統制のために加えた要因については、年齢の効果が1%水準で有意となった。年齢が高いほど、地域社会への態度の得点が高くなるという傾向が確認された。

表 2A：地域社会への態度に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	34.155	4.741	0.030
就労	7.601	0.819	0.365
時点×就労	2.296	0.319	0.573

表 2B：地域社会への態度の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	23.020	23.522
	SD	0.247	0.234
就労有り	平均	22.749	23.045
	SD	0.392	0.372

（共同体意識）

居住する地域への馴染み具合などを測定する国際的な尺度である Sense of Community Index の合計得点（55 点満点）については、表 18 の通りとなった。分散分析の結果は、時点の主効果のみが 0.1%水準で有意となった。したがって地域社会への態度と同様に、就労の有無にかかわらず、セミナー参加後には共同体意識が上昇したことが確認された。また統制のために加えた要因については、年齢の効果が 5%水準で有意となった。こちらも地域社会への態度を同じく、年齢が高いほど SCI 得点が高くなるという傾向が確認された。

表 3A：SCI 得点に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	309.343	15.350	0.000
就労	63.520	1.760	0.186
時点×就労	12.837	0.637	0.426

表 3B：SCI 得点の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	35.552	37.034
	SD	0.472	0.459
就労有り	平均	34.690	35.673
	SD	0.774	0.753

（人との接触頻度等）

別居家族、近所の人、友人との接触頻度（各 6 点満点を合算して 24 点満点）については、以下の通りとなった。いずれの効果も有意とならず、したがって対人接触頻度については就労群も非就労群も、プロジェクト期間を通じて明確な変化は見られなかったことがわかる。ただし統制のために加えた要因については、年齢の主効果（1%水準）と性別の主効果（0.1%水準）が有意となった。年齢が高いほど接触頻度が高く、また男性よりも女性の方が接触頻度が高い傾向があることが確認された。

表 4A：対人接触頻度に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	4.664	0.821	0.356
就労	10.372	1.828	0.178
時点×就労	10.557	1.859	0.174

表 4B：対人接触頻度の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	11.224	11.153
	SD	0.189	0.189
就労有り	平均	11.443	11.818

	S D	0.313	0.312
--	------------	-------	-------

別居家族、近所の人、友人について一緒に遊んだり楽しい時間を過ごす人がいるかどうかという社会的サポートの有無（3点満点）については、以下の通りとなった。分析の結果は、時点の主効果のみが1%水準で有意となった。したがって就労の有無に関係無く、一緒に遊べる人については、セミナー受講後に増加したことがわかる。また統制のために加えた要因については、性別の主効果が0.1%水準で有意であり、男性よりも女性の方が一緒に遊んだり楽しい時間を過ごす人が多いという結果が得られた。

表 5A：一緒に遊べる人の有無に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	2.851	7.109	0.008
就労	0.001	0.002	0.962
時点×就労	0.013	0.032	0.859

表 5B：一緒に遊べる人の有無の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	2.258	2.385
	S D	0.057	0.050
就労有り	平均	2.255	2.378
	S D	0.092	0.080

別居家族、近所の人、友人について困ったことがあったときに助けや手伝いを頼むことができる人がいるかどうかという社会的サポートの有無（3点満点）については、以下の通りとなった。分析の結果はいずれの効果も有意とならず、したがって就労の有無に関係無くセミナー受講後に社会的サポートは特に変化が見られなかったことが分かる。また統制のために加えた要因については、性別の主効果が0.1%水準で有意であり、男性よりも女性の方が困ったことがあったときに助けや手伝いを頼むことができる人が多いという結果が得られた。

表 6A：困ったときに頼れる人の有無に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	1.463	2.302	0.130
就労	0.419	0.760	0.384
時点×就労	0.009	0.014	0.905

表 6B：困ったときに頼れる人の有無の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	2.246	2.336
	S D	0.062	0.060
就労有り	平均	2.163	2.239
	S D	0.101	0.098

別居家族、近所の人、友人について困ったことがあったときに情報やアドバイスをくれる人がいるかどうかという社会的サポートの有無（3点満点）については、以下の通りとなった。分析の結果は時点の主効果のみが5%水準で有意となった。したがって就労の有無に関係無く、情報やアドバイスをくれる人については、セミナー受講後に増加したことがわかる。また統制のために加えた要因については、性別の主効果が0.1%水準で有意であり、男性よりも女性の方が困ったことがあったときに助けや手伝いを頼むことができる人が多いという結果が得られた。

表 7A：アドバイスをくれる人の有無に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
--	-----------	------------	------------

時点	3.208	5.643	0.018
就労	0.231	0.489	0.485
時点×就労	0.300	0.528	0.468

表 7B：アドバイスを与える人の有無の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	2.246	2.336
	S D	0.062	0.060
就労有り	平均	2.163	2.239
	S D	0.101	0.098

別居家族、近所の人、友人について悩んでいることや、気持ちや考えを話せる人がいるかどうかという社会的サポートの有無（3点満点）については、以下の通りとなった。分析の結果はいずれの効果も有意とならず、したがって就労の有無に関係無くセミナー受講後に社会的サポートは特に変化が見られなかったことが分かる。また統制のために加えた要因については、性別の主効果が0.1%水準で有意であり、男性よりも女性の方が悩んでいることや気持ちや考えを話せる人が多いという結果が得られた。

表 8A：気持ちを話せる人の有無に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	0.752	1.147	0.285
就労	0.294	0.522	0.471
時点×就労	0.773	1.180	0.278

表 8B：気持ちを話せる人の有無の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	2.044	2.165
	S D	0.065	0.056
就労有り	平均	2.030	2.028
	S D	0.108	0.094

（食事頻度）

食事頻度（4点満点）については、以下の通りとなった。いずれの効果も有意とならず、したがって就労群、非就労群ともにセミナー受講の前後で食事頻度に特に変化は見られなかったことになる。ベースラインの時点で毎食きちんと食べる人が非常に多かったため、あまり改善の余地がなかったことが理由ではないかと考えられる。統制のために加えた要因についても、特に有意となったものはなかった。

表 9A：食事頻度に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	0.016	0.083	0.774
就労	0.000	0.001	0.972
時点×就労	0.003	0.015	0.904

表 9B：食事頻度の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	3.882	3.887
	S D	0.031	0.028
就労有り	平均	3.881	3.893
	S D	0.051	0.045

（睡眠の質）

睡眠の質（4点満点）については、以下の通りとなった。いずれの効果も有意とならず、

したがって就労群、非就労群ともにセミナー受講の前後で睡眠の質に特に変化は見られないことがわかった。また統制のために加えた要因についても、特に有意となったものはなかった。

表 10A：睡眠の質に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	0.340	1.130	0.289
就労	0.020	0.091	0.764
時点×就労	0.000	0.000	0.998

表 10B：睡眠の質の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	3.003	2.963
	S D	0.039	0.038
就労有り	平均	2.983	2.944
	S D	0.064	0.062

（運動機能）

運動機能を測定する質問紙である Motor Fitness Scale の合計点（14 点満点）については、以下の通りとなった。いずれの効果も有意とならず、したがって就労群、非就労群ともにセミナー受講の前後で運動機能に特に変化は見られないことがわかった。また統制のために加えた要因については、年齢の主効果が 1%水準で有意となり、年齢が高いほど運動機能が低下することが確認された。

表 11A：運動機能に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	0.251	0.195	0.659
就労	0.199	0.108	0.743
時点×就労	0.004	0.003	0.957

表 11B：運動機能の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	13.032	13.063
	S D	0.103	0.108
就労有り	平均	13.090	13.130
	S D	0.171	0.179

（日常生活能力）

日常生活能力を測定する質問紙である老研式活動能力指標の合計点（13 点満点）については、以下の通りとなった。いずれの効果も有意とならず、したがって就労群、非就労群ともにセミナー受講の前後で老研式活動能力指標の得点に特に変化は見られないことがわかった。MFS と同様にベースラインの時点で得点の高い人が多かったため、あまり改善の余地がなかったことが理由ではないかと考えられる。また統制のために加えた要因についても、いずれの効果も有意とならなかった。

表 12A：老研式活動能力指標に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	0.146	0.258	0.612
就労	0.021	0.033	0.857
時点×就労	2.072	3.647	0.057

表 12B：老研式活動能力指標の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	12.531	12.407

	SD	0.061	0.054
就労有り	平均	12.453	12.526
	SD	0.103	0.108

さらに、老研式活動能力指標に9項目の、より自立的で高度な生活能力を問う項目を加えた項目群の合計点(22点満点)については、以下の通りとなった。分析の結果は老研式活動能力指標と同様にいずれの効果も有意とならず、したがって就労群、非就労群ともにセミナー受講の前後で老研式活動能力指標の得点に特に変化は見られないことがわかった。ただし統制のために加えた要因については、性別の主効果が5%水準で有意となり、男性の方が生活能力が高い傾向があることが確認された。

表 13A：高度な生活能力に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	1.083	0.840	0.360
就労	1.488	0.797	0.373
時点×就労	0.437	0.339	0.561

表 13B：高度な生活能力の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	20.917	20.798
	SD	0.107	0.108
就労有り	平均	21.042	21.046
	SD	0.178	0.179

(抑うつ度)

高齢者の抑うつ度を測定する質問紙である Geriatric Depression Scale (簡易版) の合計点(15点満点)については、以下のような結果となった。分析の結果は、時点の主効果が5%水準で有意であった。したがって就労群、非就労群を問わず、セミナー受講後の方が抑うつ度が低下していることになる。これについても地域意識や社会的サポートと同様に、就労セミナーに参加して仲間ができたことが良い効果をもたらしたのではないかと考えられる。また統制のために加えた要因については、いずれの効果も有意とはならなかった。

表 14A：抑うつ度に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	21.221	4.781	0.030
就労	0.084	0.015	0.901
時点×就労	0.471	0.093	0.761

表 14B：抑うつ度の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	3.049	2.278
	SD	0.197	0.202
就労有り	平均	3.145	0.333
	SD	2.720	0.342

(孤独感)

孤独感(5点満点)については、以下のような結果となった。分析の結果はいずれの効果も有意とならず、したがって就労群、非就労群ともにセミナー受講の前後で孤独感に特に変化は見られないことがわかった。また統制のために加えた要因についても、いずれの効果も有意とはならなかった。

表 15A：孤独感に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	1.641	2.699	0.102
就労	0.032	0.100	0.751
時点×就労	0.506	0.832	0.363

表 15B：孤独感の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	2.543	2.409
	SD	0.050	0.046
就労有り	平均	2.519	2.481
	SD	0.082	0.075

（活力感）

生活の中でやる気や楽しさを感じているかどうかを測定した活力感（20 点満点）については、以下のような結果となった。分析の結果はいずれの効果も有意とならず、したがって就労群、非就労群ともにセミナー受講の前後で活力感に特に変化は見られないことがわかった。ただし統制のために加えた要因については、年齢の主効果が 5%水準で有意となり、年齢が高いほど活力感が高くなる傾向があることが確認された。

表 16A：活力感に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	13.842	2.453	0.118
就労	3.173	0.519	0.472
時点×就労	0.198	0.035	0.852

表 16B：活力感の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	16.263	16.483
	SD	0.194	0.191
就労有り	平均	15.995	16.275
	SD	0.315	0.310

（主観的健康度）

主観的な健康度（100 点満点）については、以下のような結果になった。時点の主効果が 5%水準で有意となり、したがって、就労群、非就労群ともにセミナー受講後に若干だが主観的健康度が低下していることが分かった。これは時間が経過したことにより体調変化が生じた等、何らかの理由があるかもしれない、さらなる検討が必要であると思われる。また統制のために加えた要因については、性別の主効果が 5%水準で有意となり、男性の方が女性よりも主観的健康度が高いことが確認された。

表 17A：主観的健康度に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	1691.089	5.155	0.024
就労	11.131	0.049	0.825
時点×就労	34.023	0.104	0.748

表 17B：主観的健康度の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	74.297	71.924
	SD	1.174	1.300
就労有り	平均	74.240	71.081
	SD	1.916	2.121

(気分)

毎日の気分（100点満点）については、以下に示した通りとなった。分析の結果はいずれの効果も有意とならず、したがって就労群、非就労群ともにセミナー受講の前後で気分に変化は見られないことがわかった。また統制のために加えた要因についても、いずれの効果も有意とはならなかった。

表 18A：気分に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	618.385	2.623	0.106
就労	116.956	0.607	0.437
時点×就労	11.430	0.048	0.826

表 18B：気分の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	75.042	73.599
	SD	1.089	1.151
就労有り	平均	73.811	71.912
	SD	1.771	1.873

(家族関係の満足度)

家族関係の満足度（100点満点）については、以下のような結果となった。分析の結果はいずれの効果も有意とならず、したがって就労群、非就労群ともにセミナー受講の前後で家族関係の満足度に特に変化は見られないことがわかった。ただし統制のために加えた要因については、性別の主効果が0.1%水準で有意となり、女性の方が男性よりも家族関係の満足度が高いことが確認された。

表 19A：家族関係の満足度に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	2314.148	0.439	0.508
就労	3496.121	2.338	0.127
時点×就労	9636.545	1.827	0.178

表 19B：家族関係の満足度の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	79.393	89.392
	SD	1.141	5.218
就労有り	平均	78.020	74.600
	SD	1.868	8.543

(近所づきあいの満足度)

近所づきあいの満足度（100点満点）についての結果は、以下の通りとなった。分析の結果はいずれの効果も有意とならず、したがって就労群、非就労群ともにセミナー受講の前後で近所づきあいの満足度に特に変化は見られないことがわかった。ただし統制のために加えた要因については、年齢の主効果（5%水準）と性別の主効果（5%水準）で有意となった。年齢が高いほど近所づきあいの満足度が高く、また男性よりも女性の方が近所づきあいの満足度が高いことがわかった。

表 20A：近所づきあいの満足度に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	781.565	2.313	0.129
就労	20.555	0.082	0.774
時点×就労	29.269	0.087	0.769

表 20B：近所づきあいの満足度の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	67.513	69.040
	SD	1.291	1.286
就労有り	平均	66.533	68.793
	SD	2.117	2.109

（友人づきあいの満足度）

友人づきあいの満足度（100 点満点）については、以下の通りとなった。分析の結果はいずれの効果も有意とならず、したがって就労群、非就労群ともにセミナー受講の前後で友人づきあいの満足度に特に変化は見られないことがわかった。ただし統制のために加えた要因については、性別の主効果が 0.1%水準で有意となり、女性の方が友人づきあいの満足度が高いことが確認された。

表 21A：友人づきあいの満足度に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	9.280	0.032	0.858
就労	0.183	0.001	0.976
時点×就労	9.162	0.031	0.859

表 21B：友人づきあいの満足度の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	76.506	76.096
	SD	1.158	1.204
就労有り	平均	76.243	76.243
	SD	1.890	1.965

（経済状態の満足度）

経済状態の満足度（100 点満点）については、以下の通りとなった。分析の結果はいずれの効果も有意とならず、したがって就労群、非就労群ともにセミナー受講の前後で経済状態の満足度に特に変化は見られないことがわかった。また統制のために加えた要因についても、いずれの効果も有意とならなかった。

表 22A：経済状態の満足度に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	817.417	2.703	0.101
就労	1154.720	3.191	0.075
時点×就労	1.625	0.005	0.942

表 22B：経済状態の満足度の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	63.793	65.623
	SD	1.468	1.475
就労有り	平均	59.151	61.152
	SD	2.380	2.392

（現在の生活満足度）

現在の生活への満足度（100 点満点）については、以下の通りとなった。分析の結果はいずれの効果も有意とならず、したがって就労群、非就労群ともにセミナー受講の前後で現在の生活満足度に特に変化は見られないことがわかった。ただし統制のために加えた要因については、就労の有無と性別の交互作用が 5%水準で有意となった。

表 23A：現在の生活満足度に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	146.132	0.476	0.491
就労	127.428	0.547	0.460
時点×就労	16.203	0.053	0.819

表 23B：現在の生活満足度の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	71.134	72.218
	S D	1.219	1.250
就労有り	平均	69.885	70.427
	S D	1.996	2.047

（将来の生活への安心度）

将来の生活への安心度（100点満点）については、以下の通りとなった。分析の結果は時点の主効果が5%水準で有意となり、したがって就労群、非就労群を問わずセミナー受講後に将来の生活への安心感が上昇したことが分かった。の前後で現在の生活満足度に特に変化は見られないことがわかった。また統制のために加えた要因については、性別の主効果（1%水準）、性別と就労の有無の交互作用（1%水準）、時点と就労の有無と性別の交互作用（5%水準）が有意となった。女性よりも男性の方が将来の生活への安心感が高いことが確認された。

表 24A：将来の生活への安心度に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	17889.638	4.767	0.030
就労	812.183	2.377	0.124
時点×就労	112.736	0.300	0.584

表 24B：将来の生活への安心度の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	60.503	62.628
	S D	1.474	1.474
就労有り	平均	55.964	59.515
	S D	2.380	2.381

（総合的な生活満足度）

総合的な生活への満足度（100点満点）についての結果は、以下の通りとなった。分析の結果はいずれの効果も有意とならず、したがって就労群、非就労群ともにセミナー受講の前後で総合的な生活満足度に特に変化は見られないことがわかった。また統制のために加えた要因についても、いずれの効果も有意とならなかった。

表 25A：総合的な生活満足度に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	8.957	0.038	0.846
就労	541.329	2.608	0.107
時点×就労	400.523	1.685	0.195

表 25B：総合的な生活満足度の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	72.065	73.210
	S D	1.129	1.170
就労有り	平均	70.278	68.726
	S D	1.843	1.909

(B) 運動機能に対する影響

ここでは生きがい就労が運動機能に対して与えた影響について検討を行う。本プロジェクトを通じて就労情報を提供し就労した人で、かつ、運動機能検査のベースラインと1～1.5年後のフォローアップの期間に6か月以上就労した人、55名を就労群とした。また、この期間にまったく就労しなかった36名を非就労群とした。就労群は、平均年齢が67.1歳 (SD=5.3)。男性が31名、女性が24名であった。非就労群は、平均年齢が67.9歳 (SD=4.9) で、男性が21名、女性が15名であった。

分析は、就労の有無を被験者間要因、検査時点 (1回目=ベースライン、3回目=フォローアップ) を被験者内要因とし、さらに統制のために性別を被験者間要因、標準化した年齢を共変量として加えた一般線型モデルによって行った。またこれら全ての要因の交互作用についても存在を仮定して分析を実行した。

(握力)

握力については、握力計を用いて聞き手による1回の測定を行い、上腕の筋力 (kg) を測定した。結果は以下に示すとおりとなった。分析の結果はいずれの効果も有意とならず、したがって就労の有無を問わず、ベースラインとフォローアップとで握力に変化は見られないことが分かった。ただし統制のために加えた要因については、性別の主効果が5%水準で有意となり、男性の方が女性よりも握力が高いことが確認された。

表 1A：握力に関する分析結果 (主要な要因のみ抜粋)

	SS	F 値	P 値
時点	3.529	0.790	0.377
就労	31.209	0.757	0.387
時点×就労	4.676	1.047	0.309

表 1B：握力の推定周辺平均 (年齢による効果を調整したもの)

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	30.724	30.715
	SD	0.853	0.763
就労有り	平均	31.916	31.241
	SD	0.686	0.613

(開眼片足立ち)

開眼片足立ちでは下肢のバランス能力を測定するため、目の高さの目印に視線を向け、利き足片足で立ち、ぐらついて足が床につくまでの時間 (秒) を測定した。試行は2回行い、より長時間立っていた場合の結果を採用した。また1分以上続けて立っていた場合には、そこで測定を打ち切った。分析の結果は以下に示すとおりとなった。いずれの効果も有意とならず、したがって就労の有無を問わず、ベースラインとフォローアップとで下肢のバランス能力に変化は見られないことが分かった。ただし統制のために加えた要因については、年齢の主効果 (0.1%水準) ならびに性別の主効果 (5%水準) が有意となり、年齢が上がるほど成績が低下すること、男性の方が女性よりも成績が高いことが確認された。

表 2A：開眼片足立ちに関する分析結果 (主要な要因のみ抜粋)

	SS	F 値	P 値
時点	226.332	2.481	0.119
就労	633.149	1.824	0.180
時点×就労	39.679	0.435	0.511

表 2B：開眼片足立ちの推定周辺平均 (年齢による効果を調整したもの)

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	47.815	51.102

	S D	2. 691	2. 306
就労有り	平均	52. 653	54. 003
	S D	2. 164	1. 854

(Timed Up and Go)

Timed Up and Go (TUG)では歩行能力や動的バランス、敏捷性などを総合したfunctional mobility (機能的移動能力)を測定するため、椅子に深く腰掛けた状態から3メートル先においてある目印(コーン)を回って元のイスに深くかけるまでの時間(秒)を測定した。分析の結果は以下に示すとおりとなった。時点の主効果は0.1%水準であることから、就労の有無に関係なく、ベースラインよりもフォローアップ時点の方が所要時間が短くなっており、移動能力が向上したものと考えられることができる。また統制のために加えた要因についても、年齢の主効果(0.1%水準)、性別の主効果(0.1%水準)、就労の有無と性別の交互作用(5%水準)が有意となった。年齢が上がるほど所要時間が長くなること、男性より女性の方が所要時間が長くなることが確認された。

表 3A : TUG に関する分析結果 (主要な要因のみ抜粋)

	SS	F 値	P 値
時点	4. 697	37. 098	0. 000
就労	0. 081	0. 204	0. 653
時点×就労	0. 260	2. 052	0. 156

表 3B : TUG の推定周辺平均 (年齢による効果を調整したもの)

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	4. 892	4. 640
	S D	0. 093	0. 080
就労有り	平均	4. 927	4. 518
	S D	0. 075	0. 064

(通常歩行)

通常歩行では普通の歩行能力を測定するため、11メートルの距離を歩行するうちの中間の5メートル部分にかかった時間(秒)を測定した。分析の結果は以下に示すとおりとなった。いずれの効果も有意とならず、したがって就労の有無を問わず、ベースラインとフォローアップとで通常歩行の速度に変化は見られないことが分かった。また統制のために投入した要因についても有意となったものは存在しなかった。

表 4A : 通常歩行に関する分析結果 (主要な要因のみ抜粋)

	SS	F 値	P 値
時点	0. 000	0. 003	0. 955
就労	0. 002	0. 011	0. 918
時点×就労	0. 045	0. 514	0. 476

表 4B : 通常歩行の推定周辺平均 (年齢による効果を調整したもの)

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	3. 130	3. 105
	S D	0. 064	0. 056
就労有り	平均	3. 091	3. 131
	S D	0. 051	0. 045

(最大歩行)

最大歩行では最大の歩行能力を測定するため、11メートルの距離を全力歩行するうちの中間の5メートル部分にかかった時間(秒)を測定した。分析の結果は以下に示すとおりとなった。いずれの効果も有意とならず、したがって就労の有無を問わず、ベースラインとフォローアップとで通常歩行の速度に変化は見られないことが分かった。ただし統制の

ために投入した要因については、年齢の主効果 (0.1%水準)、性別の主効果 (0.1%水準)、時点と年齢の交互作用 (5%水準) が有意となった。年齢が高いほど所要時間が長くなること、女性よりも男性の方が最大歩行能力が高いことが確認された。

表 5A：最大歩行に関する分析結果 (主要な要因のみ抜粋)

	SS	F 値	P 値
時点	0.023	0.719	0.399
就労	0.006	0.052	0.820
時点×就労	0.001	0.022	0.883

表 5B：最大歩行の推定周辺平均 (年齢による効果を調整したもの)

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	2.171	2.160
	SD	0.047	0.044
就労有り	平均	2.164	2.144
	SD	0.038	0.035

(C) 認知機能に対する影響

ここでは生きがい就労が認知機能に対して与えた影響について検討を行う。本プロジェクトにおいて開催された就労セミナーに参加し、かつ、個別認知機能検査のベースラインと1~1.5年後のフォローアップの双方を受けた人61名を検討の対象とした。このうち当該期間に6か月以上就労した人36名を就労群、まったく就労しなかった25名を非就労群とした。就労群は、平均年齢が67.5歳 (SD=4.5)。男性が21名、女性が15名であった。非就労群は、平均年齢が66.1歳 (SD=4.8) で、男性が15名、女性が10名であった。

分析は、就労の有無を被験者間要因、検査時点 (1回目=ベースライン、3回目=フォローアップ) を被験者内要因とし、さらに統制のために性別を被験者間要因、標準化した年齢を共変量として加えた一般線型モデルによって行った。またこれら全ての要因の交互作用についても存在を仮定して分析を実行した。

(順唱)

順唱は注意を測定するための検査であり、数系列をテスターが読み上げ、被験者はそれをそのまま口頭で答える形で行われる。正しく想起できた数字の数が記録となる。分析の結果は以下に示すとおりであり、分析の結果はいずれの効果も有意とならなかった。したがって就労の有無を問わず、ベースラインとフォローアップとで順唱の成績に変化は見られないことが分かった。また統制のために加えた要因についても、効果が有意となるものは存在しなかった。

表 1A：順唱に関する分析結果 (主要な要因のみ抜粋)

	SS	F 値	P 値
時点	1.363	0.738	0.394
就労	0.136	0.024	0.878
時点×就労	2.261	1.224	0.273

表 1B：順唱の推定周辺平均 (年齢による効果を調整したもの)

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	9.950	9.883
	SD	0.367	0.431
就労有り	平均	9.735	10.239
	SD	0.304	0.357

(逆唱)

逆唱は注意を測定するための検査であり、数系列をテスターが読み上げ、被験者はそれ

を逆順に口頭で答える形で行われる。正しく想起できた数字の数が記録となる。分析の結果は以下に示すとおりであり、分析の結果はいずれの効果も有意とならなかった。したがって就労の有無を問わず、ベースラインとフォローアップとで逆唱の成績に変化は見られないことが分かった。ただし統制のために加えた要因については、年齢の主効果が5%水準で有意となり、年齢が高いほど成績が低下することが確認された。

表 2A：逆唱に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	1.531	0.651	0.423
就労	6.465	0.903	0.346
時点×就労	0.101	0.043	0.837

表 2B：逆唱の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	6.086	6.378
	S D	0.415	0.480
就労有り	平均	6.630	6.801
	S D	0.344	0.397

（論理的記憶直後再生）

論理的記憶直後再生は記憶力を測定するための検査であり、身近に起こるような物語をテスターが読み上げて記憶してもらう。被検者は、刺激提示の直後に物語の要素に関する質問に回答し、正確に答えられた数が記録となる。分析の結果は以下に示すとおりであり、時点の主効果が0.1%水準で有意となった。したがって就労の有無を問わず、ベースラインよりもフォローアップの方が、記憶力が上昇する傾向が見られることが分かった。また統制のために加えた要因については、年齢の主効果が1%水準で有意となり、年齢が高いほど成績が低下することが確認された。

表 3A：論理的記憶直後再生に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	543.190	31.247	0.000
就労	28.734	0.391	0.534
時点×就労	15.704	0.909	0.345

表 3B：論理的記憶直後再生の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	23.206	26.820
	S D	1.327	1.441
就労有り	平均	23.472	28.594
	S D	1.100	1.194

（論理的記憶遅延再生）

論理的記憶遅延再生は記憶力を測定するための検査であり、身近に起こるような物語をテスターが読み上げて記憶してもらう。被検者は、刺激提示から30分後（その間は別の検査を受けている）に物語の要素に関する質問に回答し、正確に答えられた数が記録となる。分析の結果は以下に示すとおりであり、時点の主効果が0.1%水準で有意となった。したがって就労の有無を問わず、ベースラインよりもフォローアップの方が、記憶力が上昇する傾向が見られることが分かった。また統制のために加えた要因については、年齢の主効果が1%水準で有意となり、年齢が高いほど成績が低下することが確認された。

表 4A：論理的記憶遅延再生に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	781.350	49.112	0.000

就労	189.237	2.406	0.127
時点×就労	0.012	0.001	0.979

表 4B：論理的記憶遅延再生の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	18.240	23.499
	S D	1.393	1.435
就労有り	平均	20.877	26.095
	S D	1.154	1.189

(TMT 形式 A 検査)

TMT 形式 A 検査は注意を測定するための検査であり、A4 の紙面上にランダムに配置された数字を順番に捜して線で結ぶ作業を行う。この作業の所要時間（秒）が記録となる。分析の結果は以下に示すとおりであり、時点の主効果が 0.1%水準で、有意となった。したがって就労の有無を問わず、ベースラインよりもフォローアップの方が、注意力が上昇する傾向が見られることが分かった。また統制のために加えた要因については、年齢の主効果が 0.1%水準で有意となり、年齢が高いほど成績が低下することが確認された。

表 5A：TMT 形式 A 検査に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	3153.533	17.111	0.000
就労	7.809	0.016	0.899
時点×就労	4.814	0.026	0.872

表 5B：TMT 形式 A 検査の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	83.994	73.887
	S D	4.289	3.138
就労有り	平均	83.879	72.938
	S D	3.555	2.601

(TMT 形式 B 検査)

TMT 形式 B 検査は注意を測定するための検査であり、A4 の紙面上にランダムに配置された数字と平仮名を、順番に捜して交互に線で結ぶ作業を行う。この作業の所要時間（秒）が記録となる。分析の結果は以下に示すとおりであり、時点の主効果（0.1%水準）と就労の主効果（5%水準）が有意となった。したがって、就労の有無を問わずベースラインよりもフォローアップの方が注意力が上昇する傾向が見られることと、就労群の方が非就労群よりも注意力が高いことが分かった。ただし就労が始まっていないベースラインの時点でも就労群は非就労群よりも良い成績を示しているため、就労によって注意力が向上したと結論づけることはできない結果となっている。また統制のために加えた要因については、年齢の主効果が 0.1%水準で有意となり、年齢が高いほど成績が低下することが確認された。

表 6A：TMT 形式 B 検査に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	2923.070	13.671	0.000
就労	4255.806	4.529	0.038
時点×就労	6.473	0.030	0.862

表 6B：TMT 形式 B 検査の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	100.972	100.355
	S D	5.527	4.267
就労有り	平均	98.078	88.430

	SD	4.581	3.536
--	----	-------	-------

(ペグ挿し手腕作業検査)

ペグ挿し手腕作業検査は手の器用さを測る検査であり、ペグ（木製でチョークより一回り小さい棒状の物）をボードにあいた穴に移し替える作業を行う。移し替えができた本数を得点とする。本検査は厳密には認知検査のカテゴリーには入らないが、この機能が低下すると細かい作業ができなくなり、日常生活や仕事に支障をきたすことが知られている。分析の結果は以下に示すとおりであり、時点の主効果が1%水準で有意となった。したがって、就労の有無を問わずベースラインよりもフォローアップの方が手の器用さが上昇する傾向が見られることが分かった。また統制のために加えた要因については、年齢の主効果が5%水準で有意となり、年齢が高いほど成績が低下することが確認された。

表 7A：ペグ挿し手腕作業検査に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	177.473	7.631	0.008
就労	10.971	0.097	0.757
時点×就労	7.899	0.340	0.562

表 7B：ペグ挿し手腕作業検査の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	73.292	1.685
	SD	76.324	1.714
就労有り	平均	74.457	76.419
	SD	1.396	1.421

(ペグ挿し指先器用検査)

ペグ挿し指先器用検査は特に指先の器用さを測る検査であり、2センチほどの金属製のペグに座金を刺し、落ちないようにしてボードの穴に刺し込む作業を行う。移し替えができた本数を得点とする。本検査も認知検査のカテゴリーには入らないが、この機能が低下すると細かい作業ができなくなり、日常生活や仕事に支障をきたすことが知られている。分析の結果は以下に示すとおりであり、時点の主効果が1%水準で有意となった。したがって、就労の有無を問わずベースラインよりもフォローアップの方が指の器用さが上昇する傾向が見られることが分かった。また統制のために加えた要因については、年齢の主効果（5%水準）と性別の主効果（5%水準）が有意となった。年齢が高いほど成績が低下すること、また男性よりも女性の方が器用さが高いことが確認された。

表 8A：ペグ挿し指先器用検査に関する分析結果（主要な要因のみ抜粋）

	SS	F 値	P 値
時点	80.271	15.402	0.000
就労	3.224	0.154	0.697
時点×就労	0.043	0.008	0.928

表 8B：ペグ挿し指先器用検査の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

		1 時点目	2 時点目
就労無し	平均	14.376	16.095
	SD	0.700	0.786
就労有り	平均	14.757	16.397
	SD	0.580	0.651

(D)医学的検査に関する結果

ここでは生きがい就労が身体医学的な側面に対して与えた影響について検討を行う。本プロジェクトを通じて就労情報を提供し就労した人で、かつ、医学的検査のベースラインと1～1.5年後のフォローアップの双方を受けた人19名を検討の対象とした。これらの人々の平均年齢は69.9歳 (SD=5.0) で、男性が11名、女性が8名であった。

分析はでは検査時点 (1回目=ベースライン、3回目=フォローアップ) を被験者内要因とし、さらに統制のために性別を被験者間要因、標準化した年齢を共変量として加えた一般線型モデルによって行った。またこれら全ての要因の交互作用についても存在を仮定して分析を実行した。

(体重)

体重に関する分析の結果は以下に示すとおりであり、いずれの効果も有意とならなかった。したがって、ベースラインよりも就労後の方が体重が変化することは確認されなかった。統制のために加えた要因についても、有意な効果を持つものはなかった。

表 1A：体重に関する分析結果

	SS	F 値	P 値
時点	18.765	2.297	0.149
性別	648.735	3.949	0.064
年齢	334.301	2.035	0.173
時点×性別	13.180	1.614	0.222
時点×年齢	16.178	1.981	0.178

表 1B：体重の推定周辺平均 (年齢による効果を調整したもの)

	ベースライン	フォローアップ
平均	59.307	57.881
SD	2.373	1.925

(筋肉量)

筋肉量 (骨格筋量) に関する分析の結果は以下に示すとおりであり、時点の主効果は有意とならなかった。したがって、ベースラインと就労後とで筋肉量が増加することは確認されなかった。統制のために加えた要因については性別の主効果が0.1%水準で有意となり、男性の方が女性よりも筋肉量が多いことが確認された。

表 2A：筋肉量に関する分析結果

	SS	F 値	P 値
時点	.0113	0.371	0.551
性別	635.606	69.864	0.000
年齢	16.353	1.797	0.199
時点×性別	0.749	2.465	0.136
時点×年齢	0.045	0.147	0.706

表 2B：骨格筋量の推定周辺平均 (年齢による効果を調整したもの)

	ベースライン	フォローアップ
平均	23.317	23.427
SD	0.516	0.492

(体脂肪量)

体脂肪量に関する分析の結果は以下に示すとおりであり、時点の主効果は有意とならなかった。したがって、ベースラインと就労後とで体脂肪量が増加することは確認されなかった。また統制のために加えた要因についても有意な効果を持つものはなかった。

表 3A：体脂肪量に関する分析結果

	SS	F 値	P 値
時点	23.125	2.871	0.110
性別	237.884	2.526	0.132
年齢	131.574	1.397	0.254
時点×性別	5.148	0.639	0.436
時点×年齢	5.148	0.639	0.436

表 3B：体脂肪量の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

	ベースライン	フォローアップ
平均	16.353	14.771
SD	1.876	1.419

（血管内皮機能）

血管内皮機能（FMD 値）に関する分析の結果は以下に示すとおりであり、時点の主効果が 1%水準で有意となったことから、ベースラインよりも就労後の方が血管内皮機能が改善されることが分かった。また統制のために加えた要因については時点と性別の交互作用が 5%水準で有意となり、特に就労後のフォローアップ時点において男性の血管内皮機能が大きく改善される傾向があることが確認された。

表 4A：血管内皮機能に関する分析結果

	SS	F 値	P 値
時点	20.863	10.076	0.006
性別	5.665	0.251	0.623
年齢	0.234	0.010	0.920
時点×性別	16.598	8.016	0.012
時点×年齢	1.794	0.866	0.366

表 4B：血管内皮機能の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

	ベースライン	フォローアップ
平均	4.699	6.202
SD	0.752	0.877

（認知機能 1）

認知機能検査（タッチエム）に関する分析の結果は以下に示すとおりであり、時点の主効果が有意とならなかったことから、就労後に認知機能が変化するという結果は確認されなかった。また統制のために加えた要因についても、いずれの効果も有意とならなかった。

表 5A：認知機能 1 に関する分析結果

	SS	F 値	P 値
時点	0.089	0.247	0.626
性別	0.023	0.034	0.855
年齢	2.048	3.023	0.101
時点×性別	0.683	1.900	0.187
時点×年齢	0.006	0.016	0.901

表 5B：認知機能 1 の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

	ベースライン	フォローアップ
平均	14.553	14.455
SD	0.179	0.155

(認知機能 2)

認知機能検査 (Cardio-Ankle Vascular Index) に関する分析の結果は以下に示すとおりであり、時点の主効果が有意とならなかったことから、就労後に認知機能が変化するという結果は確認されなかった。また統制のために加えた要因についても、いずれの効果も有意とならなかった。

表 6A：認知機能 2 に関する分析結果

	SS	F 値	P 値
時点	200.925	2.015	0.175
性別	524.157	1.616	0.222
年齢	1374.975	4.239	0.056
時点×性別	391.686	3.929	0.065
時点×年齢	69.866	0.701	0.415

表 6B：認知機能 2 の推定周辺平均 (年齢による効果を調整したもの)

	ベースライン	フォローアップ
平均	72.619	77.283
SD	3.382	3.394

(運動時間)

運動時間 (3 軸加速度センサーを用いたリストバンド型活動量計 (Hitachi wristband-based recorder system, HT-PB3) を非利き腕に、入浴時以外の全ての時間装着して計測を行い、強度 3METs 以上の運動を行った時間を計測した。一日当たりの平均) に関する分析の結果は以下に示すとおりであり、時点の主効果が有意とならなかったことから、就労後に認知機能が変化するという結果は確認されなかった。また統制のために加えた要因についても、いずれの効果も有意とならなかった。

表 7A：運動時間に関する分析結果

	SS	F 値	P 値
時点	0.067	2.485	0.134
性別	0.039	0.479	0.499
年齢	0.009	0.349	0.563
時点×性別	0.009	0.349	0.563
時点×年齢	0.063	2.348	0.145

表 7B：運動時間の推定周辺平均 (年齢による効果を調整したもの)

	ベースライン	フォローアップ
平均	0.450	0.535
SD	0.040	0.065

(歩数)

歩数 (運動時間と同様の活動量計による計測。一日当たりの平均。) に関する分析の結果は以下に示すとおりであり、時点の主効果が 5%水準で有意であることから、就労後に平均歩数が上昇する傾向が見られることが確認された。また統制のために加えた要因については、いずれの効果も有意とならなかった。

表 8A：歩数に関する分析結果

	SS	F 値	P 値
時点	11753175.91	4.641	0.047
性別	1259426.551	0.108	0.747
年齢	479996.607	0.041	0.842
時点×性別	180067.382	0.071	0.793
時点×年齢	1544697.672	0.610	0.446

表 8B：歩数の推定周辺平均（年齢による効果を調整したもの）

	ベースライン	フォローアップ
平均	5726.862	6841.919
SD	483.307	732.259

以上の結果より、生きがい就労を経験した人は、1日あたりの平均歩数が増加し、血管内皮機能が改善する傾向が見られることがわかった。医学検査や活動量の調査は就労をしていない人に対しては行われなかったため、これが厳密に就労による効果であるかについては、さらなる検討が必要である。しかし就労をしたことが、いくつかの良い影響を与える可能性があることは確かである。

また、「就労後」として扱われている期間には、勤務をしている日としていない日の双方が含まれている。それでもなお一日あたりの平均歩数が向上したことは、生きがい就労が実際に働く日だけでなく、それ以外の日常生活に対しても影響を及ぼしていることを示唆している。図7は、ある高齢者の日ごとの活動量を横に並べたグラフである。就労を開始して以降、就労日（図中の丸が付与されている日）において活動量が高くなるのは当然として、それ以外の日においても、活動量が高くなる場合が多くなる傾向が見られている。個別のインタビューにおいても、就労前には認められなかった「ゴルフや卓球などのスポーツ活動」が、就労開始後に増加した結果、自宅からの外出頻度が著明に増加する例などが見られ、生きがい就労は生活全体の活性化に繋がる可能性があることがわかった。

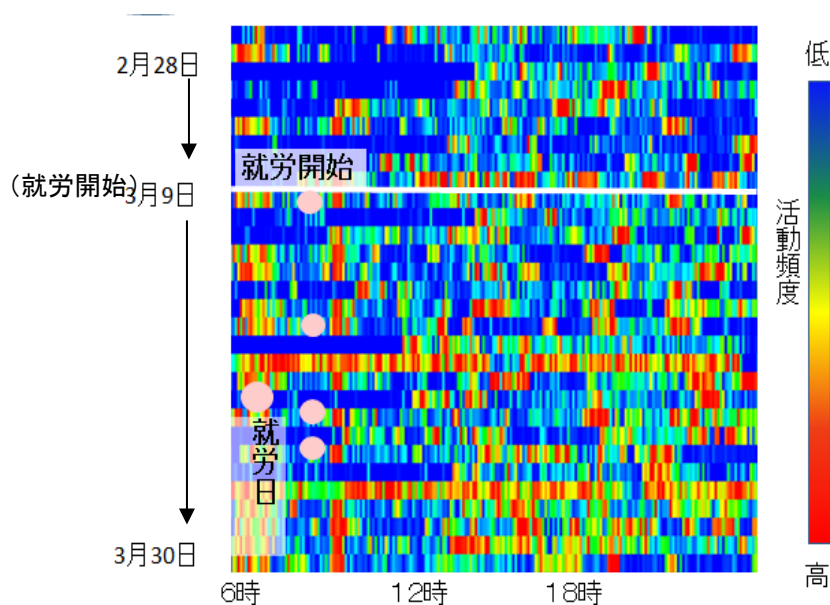


図7：就労前後での活動量の変化の一例

(E) 笑顔に与える影響

高齢者が就労することによって、心理的变化としてうつ状態が改善する可能性があることが示唆されている。もし、うつ状態が笑顔の発生頻度や笑顔の大きさに関連しているのであれば、就労することによって笑顔や頻度が変化すると考えられる。笑顔は、快の情動状態の表情筋に現れる不随意的な無意識の変化である。快の情動状態は、気分の影響を受けていると仮定できる。うつ的な気分状態では、笑顔が出にくいであろうし、快の気分状態では、笑顔の出現が増えるであろう。就労することによって、気分の変化があるとすれば、笑顔の出現や笑顔の大きさもその影響を受けるはずである。就労が気分の高揚や心の張をもたらすのであれば、笑顔が増える方向での変化が期待できるであろう。また、就労が新たな環境に適応するための緊張感やストレスを生み出しているとするならば笑顔が抑制される方向での変化が考えられる。

ところで、表情研究では笑顔の測定は、表情をビデオ撮影して、表情判定の訓練を受けた専門家が判定して行ってきた。近年、笑顔をとらえてシャッターを切るようなカメラも登場したように笑顔を判定する技術が進歩して、簡単に笑顔の大きさを自動判定する機器が開発されてきた。

本研究では、オムロン社が開発した o k a o ビジョンを用いて、新規に高齢者施設（福祉サービス）で働く人たちと就労状況が変わらない人たちを比較することによって、就労が笑顔の大きさに与える影響を検討することを目的とした。

i) 方法

対象者は、就労セミナーに参加した高齢者である。今回の実験の参加者は、高齢者施設で働くことをテーマにした就労セミナー（第6回）に参加した人たちから募集した。就労セミナーを受講した時期から、1, 2 か月たったところで第1回目の測定を行い、その約4か月後から6か月後に2回目の測定を行った。この間、新規就労群は、高齢者施設に就労する機会が提供され、就労して平均3か月たったところで2回目の測定となっている。

この2回の測定を経て、データを得られた人たちが今回の分析対象となっている。内訳は、男性、10名、このうち新規就労者は7名。女性は18名、このうち新たな就労者は、13名であった。就労群の平均年齢は、68.00歳（SD=4.9歳）、非就労の平均年齢は67.30歳（SD=4.1歳）であった。

実験は、就労の効果を検討するという意図のある実験であることは隠して、高齢者が笑顔を作る能力があるのかどうかを検討するという名目で行った。テスターとの会話を行った後、3回の笑顔を作る手続きで行った。テスターは、30代の女性である。特に就労のプロセスにはかかわっていない。

笑顔ビデオで撮影し、同時にオムロン社が開発した o k a o ビジョンソフトを用いてオンラインで分析し、モニター画面に結果を表示し、パソコンに結果を取り込んで蓄積する。

導入の会話場面には、モニター画面に映し出さないが、訓練場面では、約60センチ離れた大型のモニターに自分の顔と笑顔度のデータが表示される。

ii) 結果

a. 会話場面、訓練場面での笑顔度

会話中の笑顔度の平均は、個人で大きくばらつきがある。しかし、会話の内容によっても笑顔の大きさが異なっている。会話の内容による違いは、第1回の測定と第2回の測定では大差がないので、第2回の測定のみ結果を図に示す。最も笑顔が出にくい（笑顔の大きさが小さい）会話は、「モニターをご覧ください・・・」、「お名前を教えてください・・・」で、それぞれ、笑顔度は10.6、11.1であった。また、「お若く見えますね・・・」では、23.8と通常の会話場面では最も高くなっている。笑顔を測定するための会話では、笑顔を作ることを試す場面が最も高くなっている。この時の笑顔度は、32.7となっていた。

当然のことながら、3回の笑顔をつくる訓練場面では、平均73.5、69.2、71.2と高い笑顔度が示された。

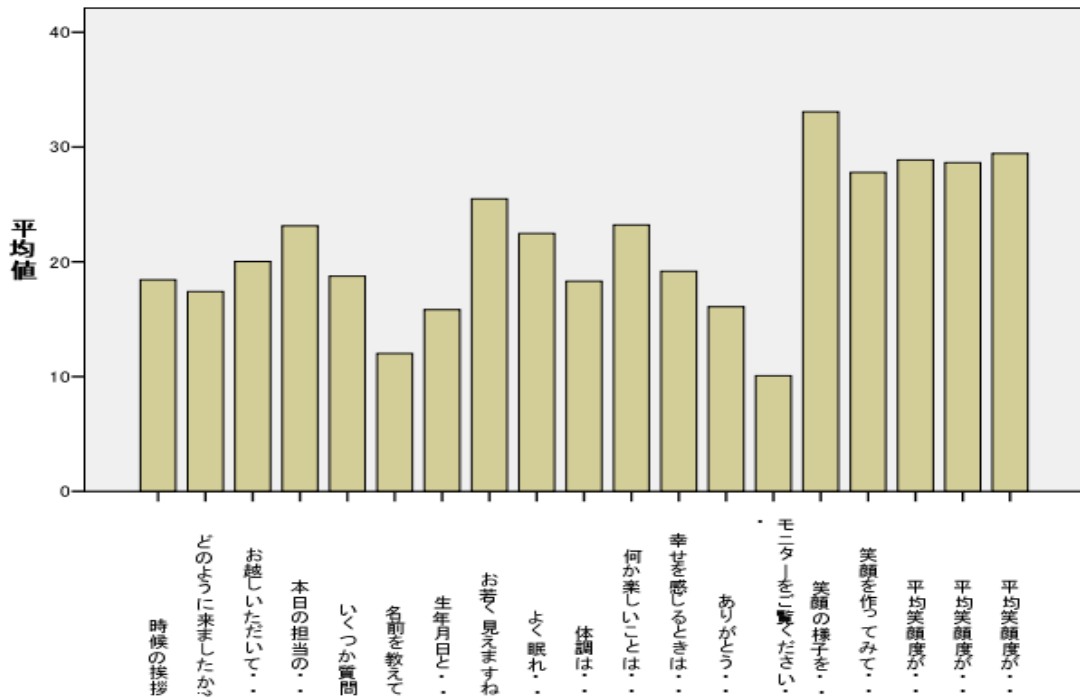


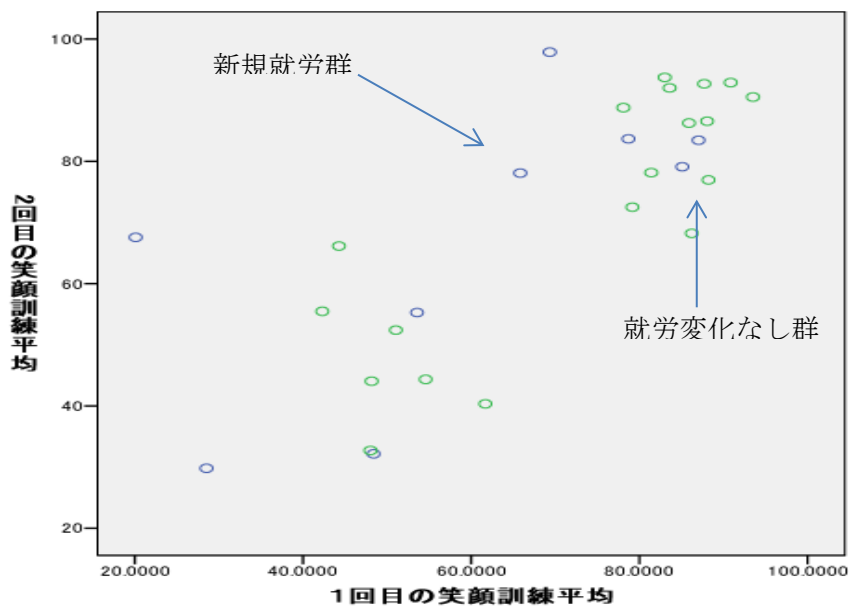
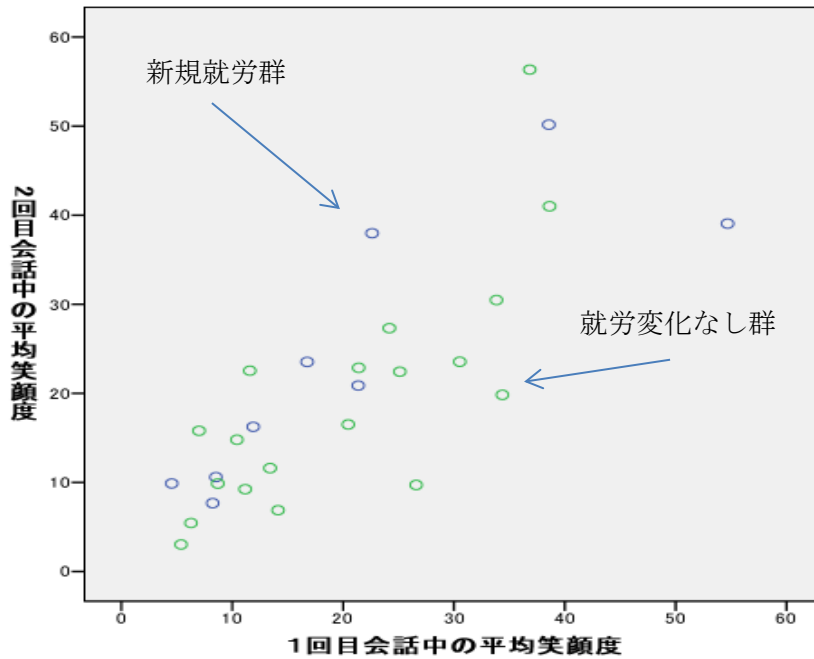
図8: 面接中の笑顔度 (平均)

(参考) OKAO ビジョン笑顔面接記録用紙

OKAO ビジョン笑顔面接記録用紙	OKAO ビジョン笑顔面接記録用紙
実施日 年 月 日 時間: _____ 検査者 _____	実施日 年 月 日 時間: _____ 検査者 _____
<p>14. では、これからよいよ【OKAO ビジョン】「笑顔をつくるトレーニング」をしていただきます。働くときに笑顔は大事ですね。働くときに役に立つように笑顔の練習をしましょう。</p> <p>15. こちらのモニターの画面ご覧ください。〇〇さんの顔が写っていますね <u>TIME</u> _____</p> <p>16. 顔のまわりに数字が表示されています。笑顔の様子を数字で表しています。笑顔がないと[0]ですね。笑顔に応じて数字が大きくなり最高の笑顔だと[100]になります。ちょっと試してみようか?意識して笑顔を作ってみてください。(聞)数字が大きくなりましたか?イーと言ってほほを上げると笑顔が作りやすくなります。イーと言って笑顔を作る練習をしてみてください。笑顔になりましたか?数字が大きくなるように意識して笑顔をつくってみてください。【練習する時間をとる】 コツはつかめましたか?やることは理解できましたか? <u>TIME</u> _____</p> <p>17. それでは笑顔をつくる練習の本番です。画面に映った顔を見て意識的に笑顔を作ってみてください。時間は30秒です。【トレーニング Z をクリック】では始めます。【ログインをクリック】 3-2-1の時「さあ、笑顔を作ってみよう」 <u>TIME</u> _____</p> <p>18. ありがとうございます。平均笑顔度が00ですね。最高笑顔度は000でした。笑顔がちゃんと出ていましたね。ではもう1回やってみましょう。意識的に笑顔を作ってみてください。【トレーニング Z をクリック】では始めます。【ログインをクリック】 3-2-1の時「さあ、笑顔を作ってみよう」 <u>TIME</u> _____</p> <p>19. ありがとうございます。平均笑顔度が00ですね。最高笑顔度は000でした。もう一度頑張って笑顔を作ってみましょう。これが最後です。意識的に笑顔を作ってみてください。【トレーニング Z をクリック】では始めます。【ログインをクリック】 3-2-1の時「さあ、笑顔を作ってみよう」 <u>TIME</u> _____</p> <p>20. ありがとうございます。平均笑顔度が00ですね。最高笑顔度は000でした。これで【OKAO ビジョン】「笑顔をつくるトレーニング」はおしまいです。お疲れさまでした。いかがでしたか? () <u>TIME</u> _____</p> <p>21. では、こちらのアンケートにご記入をお願いします。(鉛筆を準備しておく)</p>	<p>被験者 ID _____ 氏名 _____ メガネ: <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>*ビデオ撮影開始 パソコン・スマイルスキャン・ビデオカメラのスイッチを入れる</p> <p>こんにちは! こちらの青い椅子におかけください。荷物は横の黒い椅子においてください。これから「OKAO ビジョン」 「笑顔をつくるトレーニング」をしていただきます。内容については、あとで説明させていただきます。</p> <p>1. 毎日寒いですね!(今日はいい天気ですね!) (今日はあいくの天気ですね!) など天気の話 <u>TIME</u> _____</p> <p>2. ここへはどのように、いらっしゃいましたか? <u>TIME</u> _____</p> <p>3. 今日はお越しいただいて、ありがとうございます。 <u>TIME</u> _____</p> <p>4. 本日担当いたします〇〇です。どうぞよろしくお願いいたします。 <u>TIME</u> _____</p> <p>5. では、いくつか質問をさせていただきます。 <u>TIME</u> _____</p> <p>6. はじめにお名前を覚えていただけますか。フルネームでお願いできますか。 <u>TIME</u> _____</p> <p>7. 〇〇さんですね。生年月日と年齢を教えてください。 <u>TIME</u> _____</p> <p>8. 「えっ〇〇歳ですか? お若く見えますね!」 <u>TIME</u> _____</p> <p>9. きょうは、よく眠れましたか? <u>TIME</u> _____</p> <p>10. 今日の体調はいかがですか? <u>TIME</u> _____</p> <p>11. ところで、最近何か楽しいことはありましたか? <u>TIME</u> _____</p> <p>12. 日常で幸せを感じる時は、どんな時ですか? <u>TIME</u> _____</p> <p>13. ありがとうございます。 <u>TIME</u> _____</p> <p>*モニタースイッチを入れる</p>

b. 第1回目と第2回目の笑顔度の関係

約4か月から6か月後に測定された笑顔度の相関係数は、会話中の笑顔度の平均値と訓練中の笑顔度の平均値とで算出した。会話中の笑顔度の1回目と2回目の相関は、0.793であった。また、訓練中の相関は、0.758という数字であった。



c. 就労の笑顔度に与える影響

<会話中の笑顔度>

新規に就労した人たちでは、第1回目の笑顔の大きさと第2回目の笑顔の大きさには変化がなく、統計的には対応のあるt検定では有意な差はみられなかった。また就労変化なし群は、若干笑顔度が1回目より2回目に高くなる傾向があったが、統計的には有意な差ではなかった。また、群と回の2要因の繰り返しのある分散分析でも有意な交互作用はみられず、統計的には就労することによる効果を確認することができなかった。

表 41：各測定回の会話中の笑顔度

群	第1回目	第2回目
新規就労群	20.00 (11.2)	19.44 (13.1)
就労変化なし群	20.80 (16.3)	24.00 (15.1)

<訓練中の笑顔度>

訓練中の笑顔度においても、新規に就労した人たちでは、第1回目の笑顔の大きさと第2回目の笑顔の大きさには変化がなく、統計的には対応のあるt検定では有意な差はみられなかった。また就労変化なし群は、若干訓練中笑顔度が1回目より2回目に高くなる傾向があったが、これも統計的には有意な差ではなかった。また、群と回の2要因の繰り返しのある分散分析でも有意な交互作用はみられず、統計的には就労することよっての効果を確認することができなかった。

表 42：各測定回の訓練中の笑顔度

群	第1回目	第2回目
新規就労群	72.41 (18.4)	71.30 (20.6)
就労変化なし群	59.62 (24.0)	67.44 (23.7)

iii) 考察

今回とった手続きは、ふだんの気分状態を笑顔が反映しているであろうという仮定にもとづいている。情動は刻々に変化する不安定なものである。笑顔もめまぐるしく笑顔になったり、真顔になったり時間的には常に変化しているものである。このような性質を持った笑顔が就労の効果として考えられる気分状態を反映しているのだろうかという疑問がある。いつも笑顔をしているという人がいるように、笑顔の大きさは人格的特性であり、変化しないものであるという考え方もあろう。

ここで得られたデータでは、28人という小さな集団であるが、会話時と訓練時の2点間の測定結果の相関係数が0.758と0.793を示したことは、笑顔という測定がある程度の信頼性を持っているということを示している。また、逆に、40%前後の変動をいうということでもあり、就労などの影響で変化する部分も持っているということである。言わずもがなのことかもしれないが、笑顔の訓練時には、笑顔の大きさが大きくなるということは、o k a o ビジョンが笑顔の大きさを妥当性を持って測っているということであろう。

今までの気分面の変化は、気分を聞く質問紙を用いて測定することが多かった。笑顔の大きさという観察可能な指標から気分面の変化が捉えられる可能性があるとするれば、有用であろう。このような目的ではo k a o ビジョンを使った手続きは、長期的気分の変化を測るためのツールとして使えるのではないかと思われる。

今回の実験では、結論的に言えば、就労の笑顔に対する効果については積極的に言える結果は示されなかった。笑顔度の変化が新規就労群にも、就労の変化がなかった群にも変化は統計的には有意でなかった。どちらかといえば、就労に変化がなかった群の方が、笑顔度が大きくなる傾向があった。この傾向に対するいくつかの説明ができるかもしれない。

就労の変化がなかった群でも、就労セミナーや勉強会に参加して、人との交流を増やして以前よりも活動を高めている人がいると思われる。また、就労群においては、就労してからの期間がそれほどない時点での結果なので、新しい仕事に適応しなくてはならない緊張感やストレスがあったのかかもしれない。

いずれにしても、今回は、実験に参加する被験者の数が小さいので、もっとサンプルを増やして研究を進める必要がある。就労の効果として笑顔が増えるのではないかという仮説を検証するためには、より長期的な期間の設定も必要であろうと思われる。